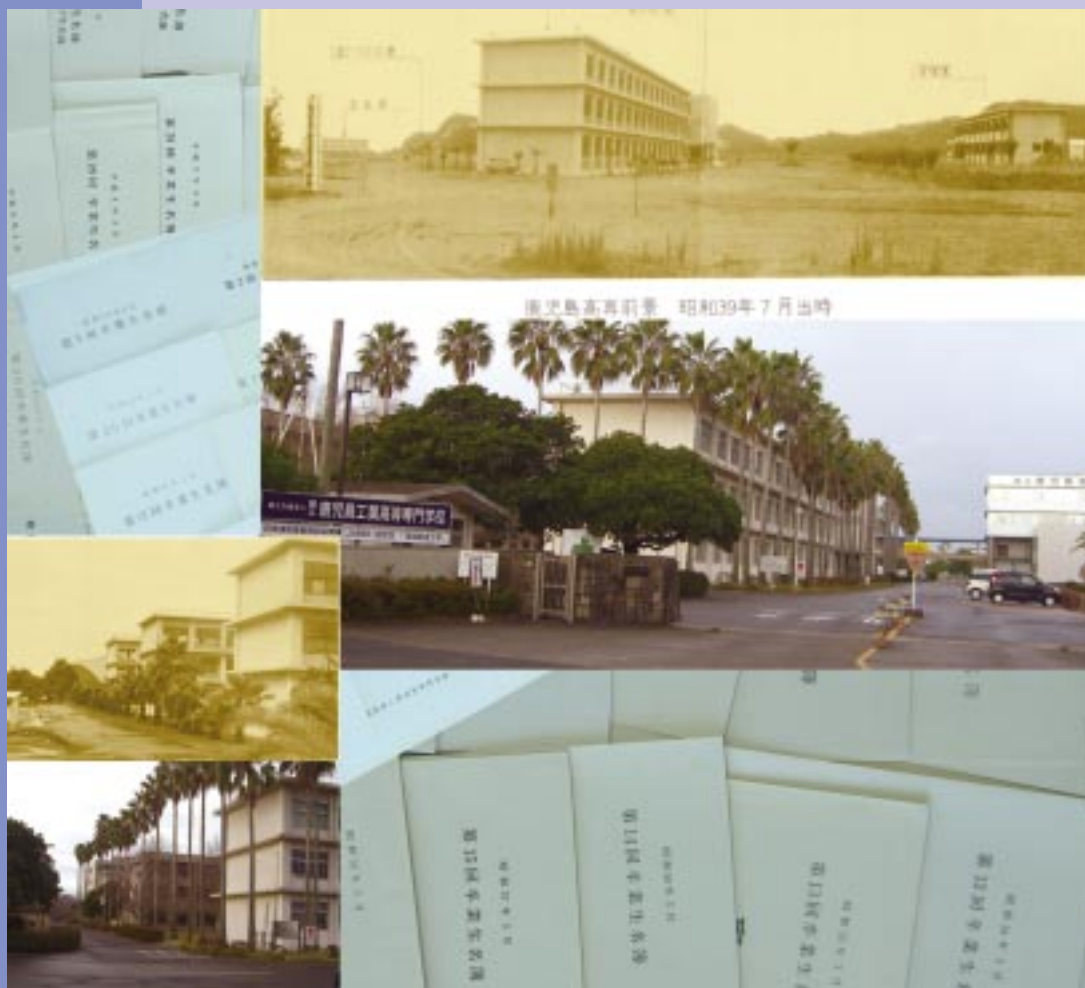


鹿児島高専だより

第 58 号

平成 20 年 3 月

〈特集〉活躍するOB



独立行政法人 国立高等専門学校機構

鹿児島工業高等専門学校

目次

校長室から

グローバルに活躍する技術者…………… 1

特集「活躍するOB」

高専時代の夢、40年後の実現度は？…………… 2
あの頃思っていたこと、今、思うこと…………… 3
夢と希望を持って、未来への挑戦…………… 4
Control your own destiny, or someone does will…………… 6
事業を興すということ…………… 6
再び工学教育の世界へ…………… 7

教務だより

本校のPR活動と特色について…………… 8
補習と保護者懇談会……………10
平成19年度海外語学研修報告……………11
海外語学研修に参加して……………15
海外語学研修に参加して……………15
工場見学旅行に参加して……………16
工場見学旅行 in ドイツ……………16
工場見学旅行の感想……………19
工場見学旅行の感想……………19
平成19年度工場・現場見学旅行……………20

学生だより

新たな地域連携型クラブ活動
支援プログラムについて……………21
学生会長の任務を終えて……………22
体育祭を終えて……………22
文化祭を終えて……………23
全国高専サッカー選手権大会V20を達成して……………24
ロボコン～この一年間を通じて……………25
リーダー研修について……………26
美化活動について……………27
交通だより……………27
読書感想文コンクール……………28
ガンに生かされてを読んで……………28
「博士の愛した数式」を読んで……………29
18歳、青春まっしぐらを読んで……………30
「佐賀のがばいばあちゃん」を読んで……………31
「死刑」を読んで……………31
「星の王子さま」を読んで……………32

志学寮だより

寮の1年間……………33
一年を振り返って……………34
この1年の寮生会を振り返って……………34
統括委員長の1年間……………35
2007年の寮生活……………35
思い出……………36

専攻科だより

専攻科における鹿児島県技術士会
との産学連携共同教育について……………37
電情シ専攻だより……………38
機械・電子システム工学専攻の紹介……………39

国際交流だより

カセサート大学との交流活動報告……………40

JABEEだより

JABEE教育プログラムの再認識
ー継続認定審査を受けるにあたってー……………41

留学生だより

留學生活動報告(2)……………43

学生何でも相談室だより

「自分らしい生き方」について……………44

教職員研究活動

科研（若手研究B）の成果……………45
桜島火山灰の養浜土砂としての
利用価値を検証する基礎的研究……………46

卒業

贈る言葉……………47
5年間の自分を振り返って……………47
卒業にあたって……………48
五年間を振り返って……………48
高専生活を振り返って……………49
卒業にあたって……………49
専攻科を修了するにあたって……………50
修了するにあたって……………50

卒業研究テーマ一覧及び特別研究テーマ一覧……………51

卒業生の就職・進学一覧及び
修了生の就学進学一覧……………57

退職のごあいさつ

退職のご挨拶……………60
定年退職にあたって……………60
団塊の世代……卒業（定年）である……………61
冬来たりならば春遠からじ……………61

卒業生から

鹿児島高専を卒業して……………62
社会人となって……………62
高専生活を振り返って……………63
卒業して思うこと……………63

同窓生だより

高専で学んだこと……………64
話す力……………64
ー学生の皆さんへー……………65
グローバルに活躍する技術者になるために……………65

後援会だより

鹿児島高専と後援会……………66
鹿児島高専と後援会と「わたし」……………66
支部会に参加して……………67
飛躍する後援会……………68
私が感じた鹿児島高専……………68
後援会理事を振り返って……………69
対話は大切……………69

平成20年度 行事予定表

【表紙の説明】

本校の特集に因み、第1回からこれまでの卒業生の名簿の表紙をランダムに配し、昔の校舎と現在の校舎を対比させて掲載しました。

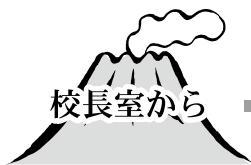
写真右上：昭和39年当時の本校（鹿児島高専十年史より）

写真右中：現在（平成19年）の本校

写真左中：昭和47年当時の校舎（鹿児島高専十年史より）

写真左下：現在（平成19年）の校舎





グローバルに活躍する技術者

校 長 赤坂 裕

本校は学習・教育目標の2番目に「グローバルに活躍する技術者」を掲げています。「グローバルに」とは「国際的に」という意味ですが、国際的に活躍するには英語等の語学力が必要です。国内では一流の技術者でも、海外では英語力が弱いために自分の能力がほとんど発揮できないのはとても悔しいことです。職種に限らず、外国語、特に英語によるコミュニケーション能力は今後ますます重要になっていくでしょう。

私はここ数年、ISO（国際標準化機構）の委員として度々国際会議に出席してきました。参加委員は欧米を主とする国々からの代表者で10数名程度、開催地はオランダ、デンマーク、スイス、フランス、イギリス、アメリカ等です。会議は2～3日間で朝から夜まで続き、昼食や夕食も共にします。会議で決まったことが日本の産業に影響することもあるので責任重大ですが、通訳はいません。私はISOの少人数国際会議の経験を通じて、英語によるコミュニケーション能力の重要性を痛感しています。

私の中学、高校時代に比べると、現在はテレビ等のメディアで英語に接する機会が多く、実践的な教材はいくらでもあり、英語を学ぶ環境は全く違います。学生諸君は、外国人は誰でも英語がうまいと思っているかもしれませんが、そんなことはありません。日本以外でも母国語が英語でない国は多く、国際会議等で苦労しながら英語を話している外国人は沢山います。変な英語でも気にしないでまず話してみることが大切です。ただ、相手が何を言っているかがわからなければ会話が続きませんので、ある程度のヒアリング力は必要です。

本校の2年生はカナダのバンクーバーの高等学校に語学研修に行っています。この語学研修には毎年30～40名の学生が参加していますが、英語の必要性を体験するにはよい機会です。また本校は、九州・沖縄地区の各高専

と共にシンガポールの3つのポリテクニクと交流協定を結んでおり、私は今年9月にこれらのポリテクニクを訪問してきました。ポリテクニクは日本の高専と似た教育機関で、高専本科の3～5年生に相当する年代の学生たちに実践的な技術教育を行っており、高専が取り組んでいるPBL（Problem-Based Learning）等を推進しています。ポリテクニクやその学生達と交流してみるのも面白いでしょう。

学校が教育の仕組みを色々工夫しても、学ぶのは学生諸君です。英語は自分から勉強しないと決して上手くなりません。苦手意識ではなく親しみをもって英語に接し励んで下さい。



特 集

活躍するOB

今年度で本校は44周年を迎えました。この間に本校を卒業したOBは総計で5991名になります。この中には学問、または企業の第一線で活躍されている方もいらっしゃいます。そこで在校生に大きな夢を持ってもらい、勉学等に一層励んでもらうことを期待して、活躍されているOBを紹介する特集記事を企画いたしました。各学科から推薦されたOBに執筆を依頼し、6名の方に寄稿して頂きました。

卒業はゴールではなく、通過点です。活躍するOB達は卒業後に様々な苦労を体験しています。しかし、その苦労を何度も乗り越えたからこそ、現在の地位があるのだと思います。在校生の皆様も卒業後には様々な苦労をすることがあるでしょうが、そのときには今回の特集記事に書かれている「苦労を乗り越えることの大切さ」を思い出して頂きたいと思います。

高専時代の夢、 40年後の実現度は？

機械工学科 2 期生
熊本大学大学院 教授
里中 忍

1969年3月、2 期生として卒業しました。在学中は、将来ロケットを作って宇宙開発に関係する仕事をしたいと思いながら、学業、進路、恋愛などいろいろな刺激を受け、悩んだ青春時代でした。卒業して38年になりますが、その間に高専時代の夢も揺らぎながら、三度の大きな転機も経験して現在に至っています。



最初の転機は、高専 5 年生のときの大学編入です。高専の教育は大卒と同じ教育しているといわれていましたが、本当に世の中で通用するのかという不安と、もう少し専門を勉強したいという気持ちで大学編入を決断しました。当時、高専生を受け入れる大学は限られており、厳しい状況でしたが、鹿児島高専からの最初の編入ということで、クラスの仲間が応援してくれたことをありが

たく、そして懐かしく思い出します。運よく熊本大学に編入できたのですが、大学は紛争で授業もなくがっかりしましたが、逆にいろいろな本を読むことができたのは幸せでした。高専の講義が大学と同程度というのは編入して納得しました。また、編入試験のころから覚える勉強より、理解する勉強の楽しさと重要さを知りました。その後、大学院は大阪大学に進み、修士課程修了と同時に会社に就職しました。就職して2,3ヶ月で大きなプロジェクトに参加する機会がありました。そこでは、百数十億円という当時としては最新の大型プロジェクトを経験して充実していたのですが、その中でがっかりしたのが外国からの技術導入の大きな壁でした。いくら新しいアイデアを出してもその技術を勝手に変更することはできず、おまけにロイヤリティーという技術料を支払う悔しさを味わいました。これが2度目の方向転換のきっかけになりました。

2度目の転機は、自由に研究する環境を求めるために会社をやめ、博士課程に進む決心をしたときです。丁度、第二次オイルショック（トイレットペーパーを買い漁るのがニュースになった時期）のときで、就職状況は悪く、将来の見通しが全く立たない時期でした。両親からかなり反対されました。さすがにこのときには、友達、上司、恩師に何度も相談したことを記憶しています。就職できるという保証はなかったものの、博士課程に入学し、学位も取得しました。いろいろ相談したこともあって、博士課程を修了するときには熊本大学の助手に採用され、教育研究の道を進むことになりました。大学での研究分野は、博士課程での専門分野とは異なりましたが、講座の教授が自由に研究をやらせてくれたのは非常に幸運でした。お陰で、研究というのはいろいろな失敗を重ねながら真実に少しずつ近付いていくことや、うまく行ったときの感激も知りました。1991年に教授となり、1998年にはアメリカのオハイオ州立大学での在外研究の機会もあり、研究を通じて国内外の技術者、研究者の友達もできました。現在、熊本大学大学院教授として教育と研究に励みながら、工学部副学部長として工学部の運営にも当たっています。いくつかの学会の評議員や研究委員会の委員長もしていますが、これらはこれまでの研究や教育活動の積分値のようなものです。このような沢山の仕事を引き受けていた矢先に、3度目の転機が来ました。昨年の検査で大きな病気で見つかり、手術を受ける羽目になりました。12時間の手術から気持ちよく目が覚めたときにはホッとすると共に、生きる元気も取り戻し、4ヶ月後には退院しました。40年前だったら死んでいたかもしれないと思うと、世の中を見る目が少し変わったように思います。

生き残った現在、高専時代を思い出すと、私は後輩の皆さんと同じ環境で同じようなことをしていました。ただ、後輩の皆さんを見ていると、以前のような余裕がな

くなっているような気がします。夢は揺らぎましたが、40年間自分の夢を追いかけてきたのが、今の自分かなと感じています。現在の専門は、溶接・接合や材料の品質評価などで、高専時代の夢とも少しは関係する研究を行っていますので、夢の実現度を自己採点すると、60点ぐらいはもらえるかなと思います。皆さんも、30年あるいは40年後の自分の姿を想像しながら、今を生きてみたらいかがでしょうか、楽しく、そして厳しく。

あの頃思っていたこと、 今、思うこと

機械工学科 14期生
九州電力株式会社 原子力管理部
米丸 賢一

1. はじめに

あの卒業の日から本当に27年もの年月が経ってしまったのかと疑いたくなるほど、月日が経つのは早いものです。時間が過ぎていく体感速度は、加齢に従い速くなっているように感じます。今回高専だよりへの寄稿の機会を折角頂きましたので、私のこれまでの拙い経験を紹介させていただき、今まさに卒業を迎えようとしていられる前途有望な志士たちへのささやかなメッセージとなれば幸いです。



2. 経歴紹介

今では卒業生の半数ぐらいが進学されるそうですが、当時はまだクラスに数名の時代でした。それまで実績の無かった鹿児島大学工学部の3年次に編入し、同大学院を経て昭和60年に九州電力(株)に入社し、これまで原子力発電関連の業務に携わってきております。高専時代には硬式テニス部に所属し、放課後は真っ暗になるまでボールを追いかけて、走って食堂へ行き、飯をかきこみ、風呂に入り、寮の点呼を受ける生活でした。4年後半からは英語部との掛け持ちをしました。進学後の大学・大学院では、流体工学の講座で実験とシミュレーションに明け暮れました。

3. あの頃思っていたこと

◆高専のころ

3年後半から4年にかけては、硬式テニス部の主将を務めましたが、この間、組織をまとめることの難しさ、実力の無い者がトップに立つことのもどかしさ、そして小さな組織ではあったものの、トップは孤独と知りました。そのころ、「人は動く」(ディール・カーネギー氏)

などの本を濫読しました。その中でも伊藤肇氏の「現代の帝王学」には深く感銘を受けましたし、リーダーとしての心構えなどを学びました。

◆大学・大学院のころ

高専のころも、また進学してから職業選択には随分悩みました。仕事とは何なのか。どういう仕事をすべきなのか等々。いろいろ本をあさりましたが、「人生論」(武者小路実篤氏)が一番気に入りました。行き着いた結論は、「自分のためになること、人の役に立つこと、そして生命を脅かす、あるいは脅かされることのないもの」と職業を捉え、自分の仕事を選ぼうと決めました。当時、出身地でもある川内市(現在は薩摩川内市)では川内原子力発電所の建設が進んでいたこともあり、エネルギーを支える仕事に就くことに決め、九州電力⑩を受験しました。

◆就職試験の面接

一次試験の合格をもらい、二次試験は面接と体力測定(懸垂10回以上できること)でした。面接官から「履歴書に英語の資格のことを書いているが、英語はどの程度できたと思うか?」と聞かれ、「半分ぐらいでしょうか」と返事したところ、「半分もできていないから聞いているんだ」と言われてしまいました。てっきり落ちたと思いました。英語部の顧問が特訓してくださった英検2級と大学時代1日3時間のリスニングで取ったTOEFLの点数を履歴書に書いていたのですが、どうもかなり入社試験の点数は悪かったようです。その後、入社直後に全員受けたTOEICのスコアが発表されました。上司からいいスコアだなと言われ、あの面接官の顔が浮かびました。使える英語の能力を高める努力をし続けなければと考えました。

◆新入社員のころ

福岡の社員研修所で2ヶ月の集合教育を受け、最初の配属先は川内原子力発電所でした。発電所では電気を365日送り出すために、三交代で当直体制を組んで発電機やタービンの運転・監視を行っています。もちろん他にも、機械・電気関連の保修、原子燃料の管理、放射線管理等多くの人が働いています。3年間三交代をやりましたが、1年先に入社した人には到底かなわないと感じました。年齢は5つ下でも入社が早い人は先輩です。何も知らない新入社員は発電所の現場を、先輩に金魚の糞のようについて周り、教えてもらうことばかりです。やがて先輩方とも打ち解けていくわけですが、最初の3ヶ月はかなりハードでした。よく昔から3日、3ヶ月、3年と言われますが、新しいことに取り組みれば当然最初はきついものです。近頃の新聞報道によると、新入社員の離職率は確実に高くなっているようですが、基礎作りはつらいものと割り切って、次へのステップの機会をうかがうことが大切だと考えました。

◆結婚そして子育てのころ

家内とは大学時代に知り合い、入社一年目に結婚しました。これまでの人生で一番嬉しかったのは、小さな身体ながら必死に泣き声を上げている、自分のDNAを受け継いだ息子と娘を初めて抱き上げた瞬間です。「子供を持って知る親の恩」と言いますが、まさしくそのとおりです。

◆東京へ出向

発電所で三交代と原子炉周りの保修経験をした後、東京への出向（通常、出向とは期限付きで他の会社や機関で働くことです）を命じられました。出向先は経済産業省（当時は通産省）の外郭団体で、海外で発生した原子力発電所のトラブルをいち早く入手し、その情報の分析をすることが主な業務でした。具体的には、国のお役人にその一週間で発生したトラブルの説明をする役目でした。それまで鹿児島訛りを気にしたことはありませんでしたが、大勢の前で声を出して文章を読むと明らかに他の人と違う発音であることに、自分でもびっくりしました。今更直るものでもない諦め、気にしないようにしました。ただ、「このファイルをなおしておいて」と前の机に座っていたチャキチャキの江戸っ娘に頼んだところ、キョトンとしています。私はキャビネットに仕舞って欲しかったのですが。「なおす」は「直す」であり、「仕舞う」ことなどは江戸っ娘には通じません。

◆本店⇒玄海⇒本店⇒鹿児島⇒川内⇒本店と転勤

東京から福岡の本店に戻り、その後も3年から4年での転勤をしてきましたが、それぞれの職場で、違った仕事をさせてもらいました。違う業務を経験できること、いろいろな人に出会えることなど、自分の性分には合っていると考えています。一回目の本店勤務では、原子力部門の採用計画や人員計画の策定、発電所等の組織変更等の検討を行いました。佐賀県の玄海町には原子力発電所が4基ありますが、このうち1、2号機の原子炉周りの保修業務に新任管理職として赴任しました。その次の鹿児島では、原子力の広報というまったく違う仕事でしたが、母校の温かい先生のお陰で、母校の教壇に立たせていただき、原子力の仕組みや安全への取組について話をさせていただきました。二回目の川内勤務では、課長として放射線と水化学を管理する業務でした。そして現在三回目の本店勤務ですが、現在は原子力発電所の保全に関する方針等の策定・検討をしています。

4. 今、思うこと

会社生活も23年目となったわけですが、これまでの経験を通じて、今、思うことをまとめてみました。

(1) 会社では資格が必要です。

原子力発電所の原子炉の運転には「原子炉主任技術者」という国家資格が必要です。核物理や原子炉の動特性などの理論から、実際の運転に必要な知識等が必要とされますが、少なくとも数学は高専で習う内容で十分に対応可能です。難しい資格から取得していくぐらいの気迫が

必要であり、勉強する努力を怠っては何事も成就しません。

(2) 会社では英語は必須です。

これまで海外出張を数回経験させてもらいましたが、直接海外のエンジニアと話ができる能力を高めておくことが必要です。TOEICは自分の英語レベルを知るには格好のものです。所詮はコミュニケーションの道具ですが、侮ってはいけません。努力あるのみです。

(3) 生かされている

会社では一人で仕事はできません。コミュニケーションを図りながら、気持ちよく仕事するためには、回りから生かされているとの感謝の気持ちを常に持つことです。

(4) 人生万事塞翁が馬

でも、最後は個人です。悩んでも解決しないことはあります。でも、そのとき悪いと思っていたこと、自分の思い通りでなかったことが、いつ自分に福を呼び込んでくれるかわかりません。人生万事塞翁が馬です。

5. 後輩諸氏へ

懐かしい思い出が詰まった高専時代を振り返りつつ、これまでの経験から少し書かせていただきました。最後に、エネルギー関連に興味のある方、是非エネルギーを支える仕事を九州電力(株)と一緒にしましょう。そして、これからそれぞれ新しい道を進まれる卒業生の皆様方に、幸多かれと祈念いたします。

夢と希望とを持って、未来への挑戦

電気工学科 3期生

株式会社PALTEK 代表取締役社長

高橋 忠仁

在校生、保護者、学校関係者の皆様。

電気工学科/3期生で、株式会社PALTEK 代表取締役社長高橋忠仁と申します。

私が在学中のころ、鹿児島高専も、そしてまた教育制度としての高専も試行錯誤の揺籃期にあったと思います。今考えると学校関係者の苦労が大変だっただろうと思います。当時、校舎も寮もグラウンドもびかびかで、工事中のものも多数ありました。県内外から集まった瞳の輝いた少年、少女（一人）が溢れ、楽しくも悩み多い日々を勉学にスポーツに勤しんでいました。志学寮と校舎の往復の日々で、たまの外出日が宝物のように感じました。部活では空手部に属し



ていましたが、顧問の若松大助先生のざっくばらんな風貌に何とも言えない親しみを感じていました。薩摩の大先輩の西郷さんの雰囲気を持っていたのではと思います。

その時のクラスメートとは今でも3E会と称して、毎年二月第二土曜日に東京で懇親会を行っています。人間関係が希薄化しつつある昨今では大事な宝です。その意味でも人生の一番多感な時代に五年間ないし七年間勉学を共にでき、将来の財産になる人間関係が出来る高専には大きな意義があると思います。受験勉強に追われる高校や、遊びやアルバイトに忙しい大学では得られない貴重な青春時代だったと思います。三十数名のクラスメートには、大手電機メーカーの本部長や工場長になった友人もおります。

私は32才で、徒手空拳でアパートで始めた会社を株式上場企業にすることができました。多くの幸運と多くの人々の暖かいご支援の賜物です。しかしその賜物をいただく為には、より高邁な志と誠実で継続的な行動、どんな逆境にも負けない不撓不屈の闘志が必要です。そして、企業経営にとって一番大事なものは哲学です。何の為に企業が存在するのか？

PALTEKの哲学は「多様な存在との共生」です。なぜなら人間が充実した人生を送るためには一人では何もできませんし、新しいビジネスの世界ではなおさらです。そこで互いの存在を認識し、尊重し、長所を出し合い、短所を補完し合わなければなりません。

どんな大企業でも始めはごくささやかな零細企業でした。松下電器を作った松下幸之助さん、SONYを作った井深さん・盛田さん、京セラ・KDDIを作った稲盛和夫さんなど素晴らしい哲学を持って、ありふれた零細企業を世界的な大企業にしています。その哲学に共有しているものは、斬新なテクノロジーを通じて世の人々を幸せにしたいとの熱き想いです。自分が儲けたい、有名になりたいなどとは一言も言っていません。若い人には逆説的に聞こえるかもしれませんが、一番成功している人は自分の利益を一番最後に考える人、一番失敗している人はいつでも自分の利益を一番に考える人です。

今から15年位前の体験を話します。

アメリカ・サンフランシスコ近辺のシリコンバレー（世界の半導体のメッカ）にあるPALTEKの子会社社長が、近くにある母校のスタンフォード大学のとある研究室を見に行こうと誘ってくれました。その小さな研究室には「AKEBONO」、「KONISIKI」と日本の相撲取りの名前が書かれたコンピューターサーバーが二台置いてありました。研究室には台湾系移民の28歳の貧乏な学生がいました。彼の名前はジェリー・ヤンといいます。サーバーのアクセスが多すぎて、もうすぐ大学から追い出されるのではと途方にきていました。彼は輝く瞳でインターネットの夢と人類への貢献の哲学を語ってくれ

ました。そこで彼を日本に招待して技術セミナーを開催しました。だれもインターネットを知らなかった頃です。その彼とはヤフーの創業者です。あの無名で無一文の青年が世界を変えたのです。

在校生の皆さんにもチャンスがあるはずです。なぜなら、これからの半世紀で人類は環境問題を中心に深刻な課題に直面するはずです。それを解決するのは哲学とテクノロジーです。皆さんには限りない未来と無限の挑戦の場があります。夢を持って一步一步前進しましょう。

会社概要

社名：株式会社PALTEK

設立：1982年10月

代表取締役社長：高橋 忠仁

上場市場：ジャスダック証券取引所

（1998年7月上場）

従業員：147名(2007年12月31日)

資本金：13億3,963万円

事業内容：半導体および関連製品、ソフトウェアの
販売、電子機器の設計開発支援サービス

事業所：新横浜本社、大阪営業所、
町田ロジスティックセンター、上海駐在員事務所

ウェブサイト：<http://www.paltek.co.jp/>

コメント：PALTEKは最先端の技術を世界中から開拓し、日本に紹介する仕事を行っています。お客様の夢「こんな製品が作りたい」「こんな問題を解決したい」を実現するために、お客様に代わって世界中から特徴ある技術を見つけてきて、その技術の最適な料理方法も教えてあげられる「エンジニアリングコーディネーター」の様な業務を行っています。この独自のビジネスモデルを、共に発展・進化させていくことに興味がある方は、PALTEK採用ウェブサイト&説明会に来てみてください。

<http://www.paltek.co.jp/employ/rookies/index.htm>

Control your own destiny, or someone does will.

電子制御工学科 1期生
ソニー・エルエスアイ・デザイン株式会社
小田原 武

私は鹿児島高専電子制御工学科を卒業後、大学進学、そして一度の転職を経て、ソニーセミコンダクタ九州株式会社に勤務しています。現在は、ソニーLSIデザイン株式会社へ出向し、デジタルカメラなどに搭載されるCMOSイメージセンサの設計を担当しています。デジタルカメラに搭載されるイメージセンサはCCDが主流でしたが、最近は低消費電力や高速動作などの利点からCMOSイメージセンサを搭載する機種も増えています。設計の流れは、顧客の要求仕様にあわせた設計仕様の検討から始まり、次にCADを使用した回路・レイアウト設計、その後試作サンプルを用いた機能及び特性の評価と進んでいきます。これらを限られたスケジュールの中で行い、顧客から要求されるレベルを十分に満たすように完成度を上げていくことが求められます。困難な業務になりますが、設計したものが実際に商品化されたときの喜びは非常に大きくやらいがあります。



今回、この執筆依頼を受け、微力ながら後輩の参考になればと思い、高専時代を思い出しながら執筆させていただきました。高専時代と卒業して10年ほど経過した現在を比較して、私自身が大きく変わったことの1つに、計画性があると思います。ちょうどこの執筆依頼を受けたときは、約2年の期間をかけて開発・設計してきた製品がいよいよ出荷されるという時期でした。仕事上の例として、2年という期間はそれほど長いものではないかもしれませんが、それでもこの期間には様々な困難がありました。しかし、長・中期の計画を持つことで、困難を乗り越える為の忍耐を得ることができ、また目標を達成する為の努力や工夫ができたのだと思います。

目標を持ち、それを達成する為に計画を持つということは、仕事に限らずとても重要なことだと思います。タイトルの言葉はJack Walch 氏のものです。私自身の高専時代には正直なところ全くと言っていいほど実行できていなかったことすし、お説教じみていて恐縮ですが、現在学生の皆さんには、まずはどんなことでも良いと思いますので、目標とそれを達成するための計画を持ち実行していただければと思います。

硬いことを書いてきましたが、勉強に限らず、友人と遊ぶことも含めて、高専時代にしかできないことを充分

満喫して欲しいと思います。高専時代を振り返ってみると、もっと勉強しておけば良かったなと思うと同時に、もっと遊んでおけば良かったなとも思います。私自身は、高専時代にバレー部に所属していましたが、部活動についても貴重な経験でした。

時間は買うことも、貯めることもできず、すぐになくなり、他のものに代替することもできませんが、基本的に全員に平等に与えられているものです。貴重な時間をどう使うかは自分次第で、自由ですし、どう使ったとしても、全くの無駄になることはないと思います。皆さんが「自分自身にとっての有意義な学生生活」を過ごされることを祈っております。

事業を興すということ

情報工学科 10期生
有限会社099 代表取締役
株式会社びいえむけい 取締役
上國料 享

学生の皆様方におかれましては、就職や進学などで新しい環境に飛び込む、また一方で、上の学年へ進級し未知の専門領域へ挑戦しはじめるこの大切な季節に、高専だよりへ寄稿させていただけるとのことで、名誉と緊張を半分ずつ感じながら原稿を書いています。



私は、2000年に情報工学科を第10期生として卒業後、鹿児島大学へ編入し、修士課程まで出させていただいた後、注目していた携帯メール配信システムの販売やWEBコンテンツ制作を行うため、様々な方々からご支援いただき2004年に有限会社099(ゼロキューキュー)を設立致しました。社名は「鹿児島に因んだ名前を」という私の支援者の方から付けていただいたものです。現在では本業と共に、JR乗車券や格安航空券・商品券などのチケット買取・販売を行う企業の経営にも携わらせていただいています。

将来、事業を興したいとお考えの学生さんがいらっしゃるお聞きしまして、この4年間に私が体験し未だ実践できていないことも含めまして、必要だと思うことを書いてみます。

- ・事業とは、継続的に利益を出し続けること
(一回の取引に始まり、二回・三回と繋いでいくこと)
- ・こうなりたい、という強い意志
(夢に出てくるほどに思い込む)

- ・自分とは違う人間性を持つ人と交流をもつ
(一人では何事も為せず、迎合は)
- ・常識で判断せず、自分の頭で考え抜く
(なぜ?と思うことは臆せず聞く)
- ・自分の周囲で起こることはすべて、自分次第
(出来事を人のせいにしない)

社会に出て他人の釜の飯を食べさせてもらったことのなかった私は、会社を興して以降、仕事を進めていくことに非常に苦労しました。また、自ら仕事を作り出していくことにも、ノウハウも指導者もおりませんでしたから、自分で考えて、相談して、やってみてと、その繰り返しでした。

但し、これらのことをやり続けていると、必ずその局面を開ける、という体験もありました。一生懸命、目の前の仕事に打ち込んでいくと自ずと道は開けていくと思います。利益あってこそその事業です。日々厳しく仕事をして疲れますが、反面、お客様や従業員の方の喜ぶ顔はそれを上回るものがあります。学生さんも、仕事や勉強を好きになって、一生懸命に働いてもらいたいと思います。

再び工学教育の世界へ

土木工学科 10期生
株式会社山本地質 代表取締役社長
新納 格

私は昭和56年に土木工学科を卒業し、豊橋技術科学大学に編入しました。大学院で土を研究し、瞬間接着剤アロンアルファの東亜合成株式会社の研究所に入社しました。入社2年目に助手で来ないかと誘われ、大学に戻るようになりました。大学では地盤災害を研究し、平成4年に佐賀大学低平地防災研究センターが設立された際に招聘され、理工学部講師として教育にも携わりました。当時の私は研究一筋で、授業や学生指導を負担に感じておりました。教育者として適正がないのではと悩み、平成8年に特許で得た資金で会社を設立し、実務の世界に飛び込んだのです。



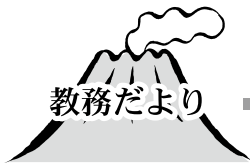
会社オーナーとなり、建設会社と共同で地盤改良の開発を行い、コンサルタントとして地質調査や技術指導に携わりました。公務員と違い生活は不安定でしたが力の限り生きた感があります。平成11年に博士の学位を取得しました。その後、経営上の問題で会社を解散し鹿児島

に帰郷、地質調査会社の技術部長に就任し、再出発の気持ちで技術士資格を取得しました。平成16年に現在の会社にスカウトされ、平成17年に代表取締役社長に就任、現在は監理技術者として公共事業における調査・設計・施工に携わり、経営者として会社全体を統括しています。

さて、グローバル化や地球温暖化、少子高齢化などで社会が急激に変化している現在、私は工学教育の重要性を痛感しています。より高度な内容が必要と感じているのではなく、社会や国民生活に与える科学技術の影響が大きくなって、価値あるものを創り出す創造能力、コミュニケーション能力、問題解決能力、そして社会環境や福祉に対する地球的視点での倫理感の育成が急務と考えているのです。私は産学両方に携わった経験を生かし、残りの技術者人生を工学教育に捧げたいと思うに至りました。教官公募に挑戦し、幸運にも4月から大阪府立高専の教授に採用されることになりました。

私の人生は多くの人との出会いや幸運に助けられたものでしたが、幸運をものにできるかどうかは日々の努力次第ではないでしょうか。卒業生および在校生の皆さん、自分がどんな人生を送りたいかを考え、将来なりたい自分や望む生き方を思い描き、そのために自分はどんなことをしてきたのか、今やらないといけないことは何かを考えて下さい。そして目標と計画を定め行動を起こしましょう。





本校のPR活動と特色について

教務主事 河野 良弘

本校に魅力を感じる生徒に入学してもらうためには、これまで以上に中学生に出前授業等を通してPRを行い、本校の良さを広報する必要があります。入学生に対しては面倒見のいい学校として、また卒業後もキャリア支援を行うなど、「入学前から卒業後までの生涯支援」を合い言葉に、教職員が一丸となって努力していかなければなりません。さらに、地域社会から頼られる存在となるように、社会貢献にも務めていく必要があります。



現在、鹿児島県の公立の中学校が265校ありますが、中学校向けの学校紹介として、以下のようなことを実施しています。

(1) 地区別学校紹介

県内を5地区に分け、鹿児島市、鹿屋市、薩摩川内市、南さつま市、霧島市（本校）で地区別学校紹介を実施しました。この地区別学校紹介では、県下88校の中学校の参加がありました。各地区中学校の進路指導の先生方に、鹿児島高専の教育方針、就職・進学状況および入学試験の内容などを説明しました。

(2) 上級学校説明会（高校説明会）

中学校が主催する3年生と保護者を対象とした上級学校説明会で、本校も県下の72校の中学校からの要請に応じ、多くの先生方が授業をやりくりして、説明会に参加し本校のPRを行いました。

(3) 中学校個別訪問

離島の一部を含む県下の195校に、教員が手分けして個別に中学校を訪問いたしました。中学校の校長先生や3年担任の先生方などとの情報交換を通して、本校への受験希望者状況の把握や本校への認識を深めてもらいました。また、宮崎県の28校に土木工学科の先生が学校紹介をしました。

本校の入学定員は200名で、平成19年度入学者の入学試験における志願倍率は、全学科平均1.9倍でしたが、例年約2倍を推移しています。鹿児島県の中学校の3年生人口は、今年度約2万人強ですので、約2%の生徒が本校を受験している計算となります。約3%の生徒が本校を受験すれば、志願倍率は3倍となる計算となります。十年後の鹿児島県の中学校の3年生人口は1万5千台に突入するとの統計が出されております。今後学校PR活動によって志願倍率を増やす努力をしなければなりません。

学校PR活動では、中学生を対象とした1日体験入学

が受験者を増やすのに効果があるようです。今年度は7月7日（土曜日）に開催いたしました。当日の参加中学生は462名でした。例年統計によると、1日体験入学参加者の約半数が本校を受験し、その内の約70%の人が合格しています。この例によると、1日体験入学参加者の内、約160名が合格し、参加されなかった方は残り40名の枠を競争する計算となります。

また、学生が学校PRの重要な担い手となっています。学生は通学途中で、中学生や地域社会の人からマナーの評価を受けています。NHKのロボコンで本校の活躍などがマスメディアで取り上げられて、本校を受験したい中学生を増やしています。ロボコン製作チーム（メカトロニクス研究部）の学生が、霧島市隼人町初午祭のお祭りに使われる「鈴かけ馬おどりロボット」を制作し、鹿児島県の空の玄関である鹿児島空港に設置しました。12月17日に「鈴かけ馬おどりロボット」のお披露目のセレモニーを鹿児島空港で行ない、テレビで放映され、新聞にも掲載されました。同様に陸の玄関口である鹿児島中央駅の新幹線乗り口にも「鈴かけ馬おどりロボット」が設置してあります。新幹線や鹿児島空港を利用されるとき、鹿児島高専の名前が入ったのぼりを立ててありますので、南九州に春を告げる「鈴かけ馬おどりロボット」をご覧ください。

保護者の方が本校の特色を理解して、周辺住民の方に宣伝していただければ、第三のPR活動の担い手となります。本校の特色を以下に挙げておきますので、学生と保護者も学校のPR活動に、ご協力お願いいたします。今後ともよろしくご支援ください。

1. 創造性を育む教育が実践されている点

創造性を育む科目が、平成9年度より各学科で取り入れられており、様々な成果が現れている。例えば、土木工学科の「意匠設計」では、霧島市隼人総合支所が策定した都市計画事業の設計を行っている。近郊に建設された「真孝公園」では、設計をし、ワークショップを開催し、これを基に公園の整備がなされた。

また、高専ロボコン九州沖縄地区大会では、平成17・18年度連勝し、全国大会に連続出場している。さらに、精密工学会主催の手のひらに収まる小型ロボットの全国大会「マイクロメカニズムイベント」では、本校学生が製作したマシンが、平成14年度から5年連続で、優秀アイデア賞や努力賞などを受賞している。

2. 全国最大規模の学生寮が、教職員の指導と学生による自主管理体制の下で、有効に機能している点

準学士課程1年生に対して全寮制をとり、本校学生の約半数の525名が寮生である。学生寮は「本校の教育目的の達成に資する」ための「教育施設」として位置づけられており、1年生は原則として全員が入寮することとなっている。

学生による自主管理体制がよく整備されており、寮長

を中心とした寮生会が、点呼等の生活管理及び下級生の日常の生活相談や指導にも当たっている。

学習支援として、中間・定期試験前に、上級生が下級生の学習を指導する「学寮チュートリアル」を実施し、下級生から好評を得ている。

3. 7年間の効果的な技術者教育を行っている点

準学士課程5年間の一貫教育の上に、さらに2年間の専攻科課程を設置し、入学定員の約1割の学生に対して、計7年間の効果的な高等教育を実施している。平成15年には本校の技術者教育プログラム「環境創造工学」が、日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定審査に合格し、九州地区高専の先頭を切ってJABEEの認定校となった。

4. 地域貢献を実施している点

地域住民へのスポーツ支援を目的とした隼人錦江スポーツクラブは、本校が主体となり、隼人町教育委員会と設立したクラブである。現在は霧島市教育委員会と連携し、NPO法人を取得している。霧島市及び近隣住民に対して健康・スポーツに関する活動を行い、老若男女健康で豊かな生活を送ることのできる地域作りに寄与している。

また、霧島市教育委員会と連携協力協定を締結し、円滑かつ密接な連携の基に、学校教育、生涯学習、生涯スポーツなどの分野において、相互に協力し、地域のまちづくりなど人材の育成を図っている。連携協力を行う具体的な事項としては、①霧島市小・中学校の理科及び技術・家庭教諭を対象に、ロボット講座等の開設、②霧島市小・中学生を対象に、化学実験教室や手作りロボット講座の開設、③鹿児島高専・志学館大学・霧島市教育委員会が連携して、市民対象の「ニューライフカレッジ隼人」を毎月1回開講し、生涯学習を支援していることなどがある。このように一般市民等に対する地域貢献活動を展開している。

本年6月には鹿児島県技術士会と「連携協力に関する協定」を結び、本校が重要視している「実践的技術者の育成」を共同教育するとともに、教育研究の充実や人材育成に寄与することで、地域発展の一端を担っていくことをめざしている。

5. 産学連携を推進している点

地域共同テクノセンターが平成9年3月に設置され、地域の中小企業を対象とした技術相談や共同研究等を行うなど、産学連携を推進している。

平成10年3月には、本校を中核とした産学官連携組織である錦江湾テクノパーククラブを設立し、産学官連携を積極的に行っている。この取り組みが評価され、平成16年から産学官連携コーディネーターが配置されている。

平成15年4月には学生ベンチャービジネスプランコンテストで最優秀賞を受賞した「ヤシの枝払いロボット」

の実用化へ向けて、(株)トヨタ車体研究所と産学連携してロボットを試作し、改良に改良を重ね、処理スピードを約15分/本までに向上させることに成功した。地域社会への貢献を目指して、ベンチャー企業「(有)隼人テクノ」を平成17年5月18日に設立し、地域の環境保全に貢献している。

平成17年度には、経済産業省の「電源地域における雇用促進対策調査事業」に採択され、本校を管理法人として「高専等の活用による地域企業の若手技術者への現場技術教育に関する調査(高専FS事業)」を実施した。

平成18年度は、その調査を活かし、「平成18年度高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」に申請して採択され、地域企業の技術者を対象に、鹿児島県における環境にやさしい農水産物加工・流通システムの開発技術者育成支援を行った。

平成19年度も引き続き同事業に申請して採択され、同システム構築のための「ものづくり講座」を軸とした問題発見解決型技術者の育成プログラムを実施している。

6. 外部資金の獲得を推進している点

本校は、他高専と比較して受託試験の収入が突出している。特に、30年以上前から近隣周辺地域の土木事業の品質管理の技術支援活動として、コンクリートの強度試験を実施してきた。この試験結果は、データの正確さ、データ処理の迅速さに関して、依頼者からも高く評価されている。特に公共事業などでは、「公共の試験機関」としての地位を確立している。このことが毎年安定した試験件数を確保しており、平成17年度は2,173万円、平成18年度は1,976万円の外部資金(試験料)を得ている。

7. 国際交流を推進している点

国際交流に関しては、日本国費留学生の受入れはもとより、国際学術交流協定を3カ国3大学「釜山情報大学(韓国)、カセサート大学(タイ国)、南京航空航天大学機電学院(中国)」と締結し、学生及び教職員の相互交流、共同研究及び学術出版物などの交換を行っている。

8. 卒業生の企業等のオーナー率が高い点

本校を卒業し、起業した者若しくは企業のオーナーとなっている者が、第15回(1982年)卒業生までで8.2%と非常に高率となっている。同年代の鹿児島大学工学部卒業生と比較すると3倍以上であり、同様の調査をした他高専の中でも最多である。

補習と保護者懇談会

教務主事補 野澤 宏大

○補習について

今年度、鹿児島高専では(1) 通年補習、(2) 試験期間前補習、及び(3) 夏季課外補習という3通りの補習を行っています。

通年補習は、2年生に対して水曜日の放課後に行われています。科目は英語と数学で、これらを隔週で、ほぼ1年を通して行っています。受講人数は英語・数学ともに10名程度です。なお、水曜日の放課後の時間帯は、授業時間割編成の段階で、基本的に7限、8限目には各教員とも授業を入れないようになっており、この通年補習をはじめとした学力向上策に、各教員が協力できるようになっています。

試験期間前補習は、その名の通り4回の定期試験期間前に実施されるものです。期間は、基本的に試験の時間割発表日（試験2週間前）から試験前日までです。この期間中に補習を行う教員の予定を、あらかじめ教務委員会で集約し、補習の時間割を作成した上、学生に周知します。教務委員会で取りまとめるのは、数学、英語、物理、化学などの一般科目、及び全学科共通科目が中心です。その他の専門科目の場合、大半は対象が1クラスのみであるため、学科教員が個別に対応しています。補習の受講人数は実施科目によりまちまちですが、概ね30名前後となっています。

夏季課外補習は、低学年（1、2年生）の学力向上策の一環として、今年度から実施したものです。期間は9月25日から29日までの5日間、科目は数学と英語、参加者は1年生32名、2年生22名（前期末の成績から判断）でした。内容は前期の復習で、午前中に教員による講義、午後から専攻科生ティーチング・アシスタント（TA）による演習としました。初めての試みでしたが、参加学生たちからは、「参加してよかった」「ためになった」といった肯定的な意見が多く、特に専攻生TAが好評でした。一方、案内方法や補習進め方等に改善すべき点が見られたので、来年度は改善したいと思います。

○保護者懇談会について

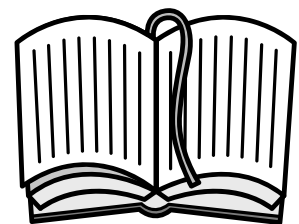
10月13日（土）、保護者懇談会を実施しました。

午前9時半より、第一体育館にて全体会を行い、午前11時よりクラス懇談、午後1時より個別懇談という日程でした。

全体会では、校長挨拶、主事挨拶、後援会長挨拶に続き、今年度は講師に鹿児島県警察本部の花田正一氏を迎え、「出会い系サイト等を含むサイバー犯罪被害防止について」という題目で講演会を行いました。携帯電話等の普及に伴い、ネットワーク絡みのトラブルに関する話

題が多い昨今、保護者にとっても非常に興味深い内容だったのではないのでしょうか。

クラス懇談・及び個別懇談に関しては、例年に比べて個別懇談の希望者が少なかったようです。過去には夕方遅くまで時間を要したことがあったそうですが、今回は午後4時過ぎには、ほぼ全ての日程が終了しました。その原因の1つとして、前期のうちに1年生は授業参観ツアー、3年生は保護者懇談会を実施していたため、ということが考えられます。しかし、他の学年でも同様の傾向が見られたとのことで、具体的な理由は今以て不明です。



平成19年度 海外語学研修 報告

平成19年度 海外語学研修について

教務主事補 松田 忠大

1. はじめに

外国語によるコミュニケーション能力を修得させることが技術者教育の一つの重要な柱となっている今日、本校では、学生の到達すべき目標の一つとして「グローバルに活躍する技術者」を掲げて学生教育にあたっている。この目標を達成させるための試みとして、平成17年度より本科2年生の希望者を主な対象者として海外語学研修を企画・実施し、平成19年度で3回目を迎えた。この研修の目的は、低学年の早い時期に海外で生活を体験させることにより、学生に外国語によるコミュニケーションの重要性を認識させ、今後の英語学習への意欲を向上させること（動機付け）と、異文化理解を深めさせることである。

語学研修には様々な手法がある。本来、英語能力を向上させるためには、相当期間の語学研修が必要となるが、高専のカリキュラムの中では、長期間にわたる研修日程を設定することは困難である。そこで、本校では、短期間で、上述の目標を達成させるために、ホームステイと研修地の高等学校での授業受講を組み合わせるという工夫を行っている。一般的に、語学研修は、ホームステイまたは海外の語学学校での研修、あるいはその双方の組み合わせた形態が主流のようであるが、研修先を外国の高等学校とすることで、単なるホームステイや語学学校での研修では確保が困難な、同年代の者同士が交流を深めるための時間も十分に確保されることになり、効果的なコミュニケーション能力の向上へとつながるものと考えられるからである。

実際、この研修に参加した学生は、ホームステイをしながら、研修先の高等学校へ通い、チューター役として割当てられた生徒（Buddy）とともに、その生徒が受講している授業を受ける。本校の学生が研修先の授業内容を十分に理解することができないことは明らかではあるが、このような形態をとることにより、Buddyと密にコミュニケーションをとるための時間が確保され、本校の学生もコミュニケーションを図るための最大限の努力をすることになる。しかし、低学年の学生にとっては、十分な意思の疎通は困難であるため、自身の英会話能力が十分ではないことがわかり、その結果、英語学習の重要性を再認識することになる。このような刺激を与えることが、この研修の最大の狙いである。

2. 研修の様子

さて、今年度の研修は、9月23日（日）～9月30日（日）

の8日間で実施され、一般教育科（英語）あべ松伸二教授と同じく一般教育科の松田（筆者）の2名の教員の引率の下、準学士課程2年生33名（内、女子学生2名）が参加した。研修先は、例年通りカナダ・バンクーバーにあるNotre Dame Regional Secondary Schoolで、学生たちは現地のホストファミリー宅にホームステイをしながら、同校に通うという形式をとった。以下、今年度の研修の様子を簡単に紹介しようと思う。

(1) いざ、バンクーバーへ

9月23日（日）、参加者は9時前に鹿児島空港に集合し、同空港では保護者列席のもと、学校側からは三角学生主事、野澤教務主事補（教務主事代理）が出席して出発式が行われた（写真1）。



写真1 出発式の様子

出発式終了後、羽田空港行きの航空機にて東京へ向かった。羽田到着後は、成田空港まで貸し切りバスで向かい、成田空港到着後、出国手続きを済ませ、18:05発日本航空18便バンクーバー国際空港行きの航空機に乗り込み、一路、カナダを目指した。成田からバンクーバーまではおよそ9時間のフライトであるが、学生たちは、興奮と緊張のためか、ほとんど睡眠をとることなく過ごしていた。また、研修先でのWelcome Receptionでの発表に備えて、入念に発表の原稿をチェックする学生もいた。

バンクーバー国際空港到着は、現地時間で9月23日（日）10:45であった（日本とバンクーバーとの時差は、日本を基準にして-17時間）。到着後、学生たちには最初の難関が待っていた。入国審査である。アメリカで発生した同時多発テロの影響もあり、北米地域の入国審査は近年かなり厳しくなっている。学生は一人で審査ブースに向かい、入国審査官から種々の質問を投げかけられた。答えに窮する学生もいたようであるが、手助けは一切できない。しかし、全員が何とか無事に審査をパスした。入国審査後は、手荷物を受け取り、ターミナルに待機していた現地旅行会社のバスに乗り込み、バンクーバ

ー市内観光に出発した。日本とはまるで異なる道路、建物などの風景に、時差ボケで眠たいはずの学生たちも目を輝かせていた（写真2）。



写真2 スタンレーパークにて

市内のレストランで昼食をとった後、研修先のNotre Dameに向かった。Notre Dameには、既に学生のホストファミリーが迎えに来ており、学生たちはそれぞれのホストファミリーと対面し、挨拶を交わし、それぞれの家庭へと分かれていった（写真3）。



写真3 ホストファミリーとの出会い

(2) Notre Dameでの研修

翌9月24日（月）から、Notre Dameでの研修が始まった。朝、学生たちは、それぞれのホストファミリーに送られて学校に到着。早速、Welcome Receptionに臨んだ。Notre Dameの校長であるMr. CookeとNotre Dameの生徒会長の歓迎の挨拶に続き、本校を代表してあべ松教授が挨拶を行った（写真4）。



写真4 記念品の贈呈

その後、学科ごとに日本の文化（機械：書道、電気：祭り、制御：寿司、情報：忍者、土木：アニメ）について英語で発表した。実演を取り入れながら、なかなかいい発表ができたように思う（写真5）。



写真5 発表の様子

Welcome Reception終了後、それぞれの学生のBuddyが発表され、Buddyに連れられて、教室へと向かった（写真6）。



写真6 Buddyと教室へ

Notre Dameでは、科目選択制をとっており、本校の学生はBuddyの受講する授業を、Buddyと一緒に受講し

た。初めての英語のみでの授業、しかも、異国の地での授業である。本場の英語を耳にし、学生たちも緊張のため顔を強張らせていた。授業の内容を何とか聞き取ろうとする姿も見られたが、この日は、教員の話すスピードについていけず、何がなんだかわからないままに授業が終わるという感じであったように思う。科目は、国語(英語)、歴史、数学や物理、生物などの科目などの日本でも馴染みの科目があり、国語に相当する英語は、かなり高いレベルの授業であったが、数学については、本校の学生もかなり理解していたようであった(写真7)。



写真7 授業の様子

授業理解は、この研修の主要な目的ではない。肝心なのは、積極的に英語によるコミュニケーションをとることである。しかし、せっかくBuddyが傍ににいるのに、休み時間に入っても、日本人同士で固まってしまう傾向も見られた。このような初日の様子を目の当たりにして、今回は所期の目的を達成することができるかどうか、引率者としては、不安を感じてしまった。

しかし、日を追うごとに、徐々に、Buddyと何とかコミュニケーションをとろうとする積極的な動きも見られるようになった(写真8)。



写真8 授業でのコミュニケーション

国籍や話す言葉は異なっても、所詮、同じ年代の子供たちである。興味や関心の対象が同じであることがわかると、特定の話題をきっかけに、話が弾むようになって

きた。もちろん、本校の学生が話す英語は流暢ではないが、日本から持ってきた電子辞書を頼りに、単語を並べ必死に言いたいことを伝えようとする姿勢が見られるようになった。やがて、休み時間や昼食時間になると、コミュニティスペースでは、いくつかのNotre Dameの生徒と本校の学生が混ざったグループができ、笑い声が聞こえるようになった(写真9)。



写真9 休み時間の様子

耳が英語に慣れてきたのか、わずかではあるが、授業の内容を理解する学生も出てきたようである。また、研修も終盤に近くなると、Buddyと一緒にダウントウンに買い物に出かける学生も出てくるようになった。

(3) 研修の終わり

Notre Dameでの研修は、9月28日(金)の午前中に終わった。同日の午後には、Farewell Partyが催された。本校の学生には、研修の修了証書と記念品(Tシャツとブレスレット)が渡された(写真10)。



写真10 Farewell party

その後、ケーキを食べながら、現地の生徒たちと別れを惜しんだ。パーティーが終わった後、今年度は、生徒会主催行事が催され、講堂に持ち込まれたゲーム機などを使って、Notre Dameの生徒と本校の学生が共にレクレーションを楽しんだ(写真11)。



写真11 レクリエーションの様子

この間、お互いにメールアドレスの交換をしたり、写真を撮ったりして、別れを惜しむ様子が多く見られた。翌9月29日（土）は、早朝、Notre Dameに集合した。見送りに来てくれたホストもあり、本校の学生と抱き合っ



写真12 ホストファミリーとの別れ

うであるなら、この研修は、学生たちに、自らの英語力の無さを実感させるだけではなく、それ以上のものを与えたことになる。

私は、学生たちに、次のように答えた。「短いと感じたのであれば、いつか、必ず、ホストファミリーやBuddyに会いに行きなさい」と。異国の友との「再会」という目標に向かって、学生たちが、自らの英語力を高めるための更なる努力を続けてくれることを期待して。

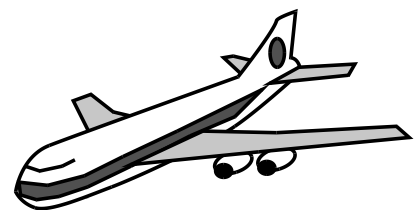


ノートルダム生徒と一緒に

3. 研修を終えて

1週間、学生たちは英語漬けの日々を送ったが、おそらく、多くの学生たちは、現段階の英語力では、ネイティブの話す英語を聞き取ることや、自分の意図したことを相手に伝えることができないということを、十分、身をもって体験してくれたと思う。そうであれば、この研修の目的は達成できたと言ってよい。

日本へ向かう航空機の中で、学生たちは「短すぎた」という言葉を発した。確かに、1週間程度の研修は短い。しかし、多くの学生が「短い」と感じてくれたことは、研修は成功であったということを意味していると私は理解している。充実感を味わうことができなかった研修は、短い期間であっても長く感じられるからである。十分な意思疎通は図れなかったはずなのに、研修を短く感じたということは、Notre Dameの生徒やホストファミリーと過ごした日々の中で、何とかコミュニケーションをとるコツを掴んでくれたことの表れではないだろうか。そ



海外語学研修に参加して

機械工学科2年 今吉 翔一

バンクーバーでの1週間のホームステイ。飛行機に乗ったことがなく、九州からも出たことのない僕にとって、それはどんな経験になるのか想像がつかなかった。

飛行機に乗り、鹿児島を出発すると、次第に周りから聞こえてくる鹿児島弁が消え、標準語に変わり、気が付けば周りから聞こえてくるのは英語。周りに書かれている文字も英語。もうそこは英語の世界だった。その英語の世界でペラペラと英語を話している先生がすごくかっこよく見えた。英語が苦手な僕は英語の世界で不安を抑えきれなかった。

でも、その英語の世界にもジャパンがあった。例えば、道路を走っている車の半数を日本車が占めており、トヨタのプリウスはタクシーにまでなっていた。また、この人々は、「すし」が好きで、デパートの中には「SUSHI」と書かれたすし屋があった。それと、この人々は「忍者」を知っていて、ホームステイ先の12歳の男の子に折り紙で「手裏剣」を作ってあげたら、喜んでそれを僕に向かって飛ばしてきた。

また、バンクーバーの人々は僕たちにとっても暖かく接してくれた。僕の話す英語は、自分の頭の中にある数少ない英単語をかき集めてできた貧素な英語であったが、彼らはその英語を大切に聞いて、理解してくれた。それに、僕が彼らの英語を聞いて、どうしても理解できない時には、僕が不安にならないように励ましてくれた。そして、その暖かい心のおかげで、僕の不安は消え、貧素な英語でも何か話してみようという気持ちになれた。そういう気持ちでいろんな人とコミュニケーションをとっていくうちに、いつしかバンクーバーが大好きになり、最終日には日本に帰りたくなるほどだった。

この1週間のホームステイで感じたことは、英語は話せるに越したことはないが、英語を話す人も同じ人間なのだから、「伝え合おう。」「分かり合おう。」とする熱い気持ちさえあれば心で通じ合えるということである。

日本語が生まれた時から和英辞書があったわけではない。ある日本語を話す人間と英語を話す人間とが出会い、お互い「伝え合おう。」「分かり合おう。」と努力し合った結果、今、和英辞書があるのである。この「伝え合おう。」「分かり合おう。」とする熱い気持ちこそが人と人、国と国とに強い絆をつくり、世界の和を生み出すのだということをこの1週間の経験から感じた。

海外語学研修に参加して

情報工学科2年 上小川愛倫

私が最後にカナダの友達と交わした言葉がPromise（約束）である。何を約束したかということ、「またみんなに会いにカナダに来る」ということである。カナダで過ごした時間は1週間と短かったが、とても素晴らしい素敵な1週間だった。新しい家族に大切な友達もできた。カナダを離れてからもメールのやり取りをしていて、かけがえのない存在となった。本当にカナダに行って良かったと、心から思う。

ホストファミリーは私達に対して、いつも明るく接してくれた。そして、私の片言で単語ばかりの言葉を何とか理解しようと、また伝わりやすいように簡単な単語を使って喋ろうと心掛けてくれたことに感謝している。お陰で私は、自分の言葉で意志を伝えられたことの嬉しさを実感することができた。

学校もとても楽しかった。学校では、バディと一緒に行動し、バディの選択している授業に参加した。バディというのは、自分のお世話をしてくれるカナダの学生のことである。私が最初に思ったことは、みんなが仲良しということ。そして、笑いが絶えないこと。私のバディの周りにもたくさんの友達がいた。すれ違う人がみんな友達なのでは？と思うほどであった。辞書を使いながらの会話だったが、たまに冗談を言ったりして楽しい学校生活となった。

カナダの街は住みやすく、人も温かい人ばかりだった。電車の乗り方が分からない時には、声をかけると快く教えてくれた。「Hello!」と気軽に挨拶してくれた。本当にいいところだった。

この語学研修に参加して私はもっと英語を勉強しておけばよかったと、後悔した。話したいことはたくさんあるのに、質問された意味は分かるのに、自分で答えることのできないもどかしさをたくさん経験したのだ。次に、カナダに行く時は、それまでに英語力をつけてみんなをびっくりさせるくらいにいろんな話ができるようにしたい。

Promiseを守るために、みんなとたくさん話すために、英語の勉強を頑張ること。これが私の今の目標だ。

工場見学旅行に参加して

機械工学科4年 織田健太郎

今回の工場見学旅行では、5箇所の工場（ヤマハ熊本プロダクツ、サントリー九州熊本工場、三菱重工業長崎造船所、日産九州工場、九州旅客鉄道小倉工場）を見学しました。

ひとことに「工場」と言いましても新しい工場、古い工場、モノを生産する工場、モノを修理・点検する工場、自動化が発達している工場、作業が人手に頼られている工場等々行く先々でそれぞれ雰囲気が全く異なっていたので、その都度刺激があり、新鮮に見えて深く感動させられることばかりでした。なかでも、サントリーや日産はCMや広告で有名だけあって、工場見学者のために安全に配慮した専用道路や中身が明確に見えるガラス張りの設備が充実しており、また案内係の方も非常にわかりやすく説明していただき、見学者すなわち消費者の立場を第一に考えていた企業でした。

このような工場の雰囲気や設備の工夫については、今回の工場見学旅行のように実際に工場内に入り、見て、聞いて、触ってみてはじめて理解できることが数多くありました。それだけでも十分な体験をすることができましたが、実際に高専を卒業して就職したら、自分もこのような工場で働いてみたいと沸々と意欲がわいてきたように思います。また、これだけの大人数と一緒に旅行ができたこともクラスの結束力を強め、協調性を学ぶ上で良い経験でした。

最後に、今回の工場見学旅行でお世話になりました関係のみなさまに心からお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

工場見学旅行inドイツ

電気電子工学科4年 遠矢 竜佑

私達、電気電子工学科4年生は、ドイツへ11月17日～24日に工場見学旅行として行って参りました。ほとんどの人が初めての海外&ヨーロッパだったので、とても良い思い出に残る見学旅行になりました。

初日は移動日。上海経由でドイツへ向かいました。上海では乗換えまでに半日時間があり、上海を観光しました。上海は2010年に万博も開催されることから、交通網も発達しており、特にリニアモーターカーが実用化されていることに驚かされました。実際に乗車すると、最高時速が世界最速の430 km/時ですが乗り心地も良く、音も案外静かでした。超高層ビルも立ち並び、まさに都会といった感じの街でした。また、人々もなかなかエネルギーで迷惑に感じる面もありましたが、元気があってとても活力のある街だと印象を受けました。中華料理を楽しみ、いよいよ空路11時間かけドイツ・フランクフルトへ向かいました。早朝6時頃に到着し、ワクワクしながら貸し切りバスで移動、途中朝食を食べにレストランに寄り、最初の目的地であるハイデルベルグ城を見学しました。お城から見下ろす赤レンガ色の街並みは、日本や上海とも全くの異世界で、みんな感激して写真を取り続けました。ガイドさんの面白い案内を聞きながら城内を回り、その後は城下にある街中を観光しました。その後、ポルシェ博物館、メルセデスベンツミュージアムと、ドイツを代表する車メーカーの展示場を見学し、様々な種類の自動車を見ることができました。ドイツ到着の日は日曜日でしたが、ドイツでは日曜日はほとんどの店が休業で、営業していたとしても18:00頃には閉まるようなのであまり買い物が出来なく、何も買うことなくドイツ初日は終了しました。

ドイツ二日目はジーマックスという会社で「燃料電池」の講義を受けました。初めての企業の講義だったので、絶対に理解できないと思っていましたが、とても親切に教えて頂いたおかげで十分に理解できる講義の内容でした。講師はドイツ人で独語でしたが、通訳をしてくれたガイドさんのお陰でもあります。主な講義の内容は燃料電池の仕組みの実用例などで、授業では習わなかった事ばかりで、とても興味を引くことばかりでした。そこでは電気電子工学の歴史が実物展示しており、ジーマックスという会社の大きさを実感しました。本当に来てよかったと心から思いました。

三日目はミュンヘン市内での一日自主研修で、アリアンツスタジアムや博物館や教会へ行ったり、お土産を買ったりとみんなそれぞれミュンヘンで一日中楽しみました。小迫先生と希望者数名はミュンヘン工科大学のProf. Kindersbergerの高電圧研究室を訪問しました。

ところで地下鉄に乗る際、前払いで切符を買うところは一緒なのですが、乗降時に切符を見せる必要がないのです。改札口のような所で日付を刻印すれば、あとは乗るだけ。降りるときも見せる必要がありません。しかし、時々、私服取締り官が電車に乗っていて無銭乗車の抜き打ち検査があるそうです。クラスの何人か検査に遭遇したらしく、ある意味貴重な体験になったのではないかと思います。

四日目はホテルで朝食後、アウディの工場見学へと行きました。アウディでは自動車の生産ラインを見てまわり、プレスで鉄板を切る所から、溶接して車体の構築、塗装、各種パーツの組み立てと、一連の様子を見ることができました。その後、ロマンチック街道を通りローテンブルクへ行きました。城壁で囲まれた町で、学校でのドイツ語の授業のビデオ教材でも取り上げられていた場所だったので、いくつかビデオに出ていたシーンを見つけることができ感動しました。街中はまだ11月なのにクリスマスの飾りつけがものすごいことになっていてビックリさせられました。

ドイツ滞在最終日。この日はHA HESEN AGENTUR GMBHという会社へ訪問しました。ここでは、燃料電池普及のためのインフラ整備を企画している話を聞きました。その後、フランクフルト市内でドイツ最後の夕食をとりました。ここで小迫先生からクラスみんなに飲み物をおごって頂き、最終日という事も重なってか、みんなのテンション上がりっぱなしで、恐らくドイツに来て一番楽しかった夜になったと思います。ホテルに帰っても眠れなく、遅くまでずっと起きていました。その翌日、フランクフルト空港から飛行機に乗り、帰国の途へとつきました。

実質五日間のドイツ滞在でしたが、あっという間に過ぎました。本当に早かったです。数え切れないハプニングもありましたが、それも皆いい思い出です。ドイツ語は簡単な挨拶と数字くらいしか話せなかったのも、言葉の大事さを深く痛感しました。次回はもっとドイツ語を勉強してもう一度行きたいと思いました。最後に、この旅行でお世話になったガイドさん達、引率してくださった小迫先生、保坂先生、添乗員の丸田さん、そして旅費を捻出してくれた両親に対し、この場を借りてお礼を言いたいと思います。

Danke schon !!



ジーメンス社（上）とハイデルベルグ城（下）でクラス集合写真



電気電子工学科工場見学旅行日程表

日付	都市名	交通機関	内 容
2007 11/17 (土)	鹿児島 上海(浦東) 上海市内	MU762 リニアモーター 専用バス	鹿児島空港より中国東方航空便にて上海へ 上海到着後、フランクフルト便出発までの時間で上海研修 ・世界で唯一の営業運転のリニアモーターカーに乗車 空港～上海間、時速 400kmを約 10 分間体験 ・上海市内研修、発展著しい上海を体感 東方明珠タワー 豫園・豫園商場 外灘の夜景 上海より中国東方航空便にてドイツ・フランクフルトへ (機中 泊)
11/18 (日)	フランクフルト ハイデルベルグ シュツットガルト	専用バス	フランクフルト到着後、専用バスにてハイデルベルグへ 午前: 歴史ある医学理工系大学の市内観光 ハイデルベルグ城 ハイデルベルグ大学 昼食後、自動車工業の街シュツットガルトへ 午後: メルセデスベンツ博物館 ポルシェ博物館を見学 (シュツットガルト 泊)
11/19 (月)	シュツットガルト ミュンヘン	専用バス	ホテルにて朝食後、アウトバーン走行、ミュンヘンへ 昼食後、午後: シーメンス社訪問(14:00～17:00) (ミュンヘン 泊)
11/20 (火)	ミュンヘン		ホテルにて朝食後 終日、ミュンヘン市内自主研修 昼・夕食: 自由食 (ミュンヘン 泊)
11/21 (水)	ミュンヘン ローテンブルグ フランクフルト	専用バス	ホテルにて朝食後、 自動車工場視察研修 アウディ社の工場見学(9:00～11:00) 見学後、ロマンチック街道を通り、ローテンブルグへ 昼食、市内散策後フランクフルトへ (フランクフルト 泊)
11/22 (木)	フランクフルト	専用バス	ホテルにて朝食(午前は自由行動) 午後: 会社(HA HESSEN AGENTUR GMBH)訪問(14:00～16:00) (フランクフルト 泊)
11/23 (金)	 フランクフルト	専用バス MU220	朝食後出発まで自由行動 昼食: 空港にて自由食 フランクフルトより中国東方航空便にて上海経由帰国の途へ (機中 泊)
11/24 (土)	上海(浦東) 鹿児島	MU761	上海にて鹿児島便に乗り継ぎ 鹿児島空港到着後、解散

工場見学旅行の感想

電子制御工学科4年 蒲地 悠介

僕は九州から出たことがない田舎者だ。
市内より大きな街並み、すれ違う無数の外国人。駅はどこも自動改札で電車が10両は当たり前。ホームレスからメイドまで、実に様々な人間があんな小さな面積の中を闊歩している。テレビでしか見たことのない日本の首都。

そこに自分が行くと思うと、前日の夜は遠足よろしく眠れない……なんてのんきな事を言っている状況ではなかった。

何を隠そう、僕は高専祭DVD制作委員長なのだ。

実はこの作文を書いている今現在、DVDはまだ出来上がっていない。これを皆さんが読んでいる頃には配布が終わっていると願いたい。

そんな一抹の不安を抱えながら、僕の東京デビューは始まった。

まず初フライトでくじけそうになった。僕は横揺れに弱いタチで、東京に着いた時の感動というのは特にない。というより、想像以上に鹿児島市内と似た雰囲気を実感が沸かなかったのである。

始まりはともかく、旅行自体は工場見学、施設訪問、自由時間のどれもが楽しい思い出になった。科学未来館ではサーモグラフィーにより僕が冷え性であることが科学的に証明されたし、JALの整備工場では徐々に開く入門ゲートから差し込む陽光に感嘆の声を漏らした。うみはたるでは5分という制限時間の中で横に横に広がる海原を堪能したし、新日本製鉄所では古風SFの世界のような敷地と同年の案内役の子に胸が躍った。つくば宇宙センターでは展示物の解説を尻目に宇宙飛行士の顔抜きパネルで写真撮影していた。

そのなかで特に印象に残った訪問先は？と尋ねられれば、僕は新日本製鉄所を真っ先に挙げる。

圧延という、熱した金属にローラーのようなもので圧力をかけて平たく伸ばすという作業があり、その圧延工場を見学したのだが、とにかく最初から最後まで圧倒されっぱなしだった。

巨大なコンベアの上を真っ赤になった金属(目算六畳)がけたたましい音と共に進んで、圧延機の中を出たり入ったりしていた。冷却用と思われる液体が噴き出す度にすさまじい勢いで湯気が立ち込める。見学用通路は高いところに設置されており、そのコンベアとも十分距離があったのだが、金属の温度が余程のものなのか、その熱気が伝わってきて暑かった。圧延機の中に金属が隠れるとその熱気もすぐ薄れるけども、出てくるとまた熱風が襲ってくる。

金属は最終的に目に見えて広がっており(目算十畳)、そんなド派手なものを見せられた僕としてはとにかく始

終関心しきりで、同じような感想を何度も漏らしていた。

あっという間に時は過ぎ、東京を去る日が来た。

帰りの飛行機が離陸した直後、モニターに映った東京の夜景が忘れられない。二度目のフライトは不思議と酔わなかった。



工場見学旅行の感想

情報工学科4年 飛佐 洋平

僕たち情報工学科は、今年の工場見学旅行ということで、東京近辺に行ってきました。

初日は、まず新日本製鐵株式会社の君津製鐵所へ行きました。正直、情報と何の関係があるのかと思っていましたが、実際に物づくりの原点といってもいい所で、鉄の作られる過程は非常におもしろく、また、工場や敷地もとても大きくて、生で見ることが出来てよかったです。

二日目は、富士通川崎工場、東芝科学館、テルムの三つを見学しました。富士通川崎工場では、富士通の歴史や現代社会の最先端の技術、実際の作業を見た後、人事部の方の話を聞いて、高専生が世間的にも企業的にも必要とされていること、実際に会社に入ってから学ぶことが多いことなど、学校では聞くことのできない、現場の話は非常に参考になりました。テルムというリサイクルの会社では、現代社会が最も力を入れるべきリサイクルの現場を見学しました。僕ら高専生は、物を作る側にいるわけですが、物を作るということは、それを壊す・捨てるという部分が必ず出てくると思います。だから、将来技術者になる僕らにとってこのリサイクルの現場を見ることができたのは、今後にとっても大事な時間を過ごせたんじゃないかと思っています。

そして、三日目と四日目で、NHKと日産自動車追浜工場と東京電力横浜火力発電所の三つを見学して回りました。NHKは急遽変更ということで行った所でした。

でも、僕は入学した頃テレビ局に入ることが夢だったのでよかったです。アトラクション的な部分も多かったんですが、実際のスタジオや裏の編成部分、カメラ等の機器が生で見れたので、他の人はともかく僕的には満足でした。次の日、日産自動車追浜工場では、間近で車の生産ラインを見学しました、流れ作業は本当に訓練されているなあと思うくらいスムーズで、実車しての車の最終点検は迫力もあって、輸出用の車が何百台もある光景は、工場の規模の大きさが表れていました。最後の東京電力横浜火力発電所では、次世代の発電機（ACC（改良型コンバインドサイクル））を見て説明を受けました。それによると、高効率で環境にやさしいということで、現代の電力需要の増加にも対応できて環境に良いというのは理想の形だと思いました。

今回の旅行を通して、今まであまり意識してこなかった就職・進学ということを考えなければならないと思うようになり、また、環境に取り組んでいない企業は一つもなかったです。これから、僕ら自身も環境問題からは目をそらすことはできないと感じました。最後に、僕はこの旅行によってクラスの仲間とさらに仲が深まったと思いました。純粹に五日～六日間を楽しむことも出来ました。このような旅行を計画して下さい先生や、旅行代理店の方、バス会社の方など、関係者のみなさんには本当に感謝しています。ありがとうございました。

平成19年度 工場・現場見学旅行

土木工学科4年 クラス総務 松元 皓隆

11月12日、午前9時。鹿児島空港に集合。今から大阪へと旅立つ。鹿児島を出発し、約1時間弱で伊丹空港へ到着。そして、空港を出て早速、バスに乗りこみ、明石海峡大橋、大鳴門橋を見学した。ここでは、橋の長さや大きさに圧倒された。また橋によってできた渦は、実際に見ると迫力があり、想像以上のものだった。人生に一度は是非行ってもらいたい。その後、淡路市にある北淡震災記念公園に行き、震度7の体験や、地震によって荒れた家の中、地震によってできた断層の見学をした。震度7はとても激しい揺れで、歩くことも立つこともできないほどだった。地震が多い日本では、このような体験は非常によい経験になったと思う。

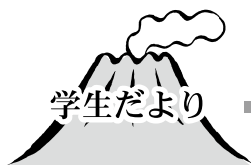
工場見学2日目。この日は神戸製鋼加古川製鉄所に行った。自然が多い工場で、初めて見るものばかりだった。神戸製鋼は、大手メーカーの中では最も鉄鋼事業の比率が低く、鋼、アルミ、建設重機、エンジニアリングなど複合経営が特徴の工場だ。工場内ではとてもいいものを見ることができた。午後からは、大阪城を観光した。や

はり、観光地ということで、日本人だけでなく、たくさんの外国人がいた。韓国人やアメリカ人、ヨーロッパ系の人達、そして、ケニア人。本当にたくさんの人々がいた。

工場見学3日目は、午前中に横河ブリッジに行った。ここは鹿児島高専の先輩も勤務している会社であり、少し緊張した。橋を製作しているところを見学したが、とてもスケールが大きくて驚いた。午後からは、関空に行った。とても大きな空港で、今後、もっと広くなる予定らしい。帰りに難波とアメリカ村、梅田に行きました。とても親切な運転手さん、バスガイドさんで…三日間で思い出がたくさんできた。

この3日間、鹿児島では体験できないことを目を見て、耳で聞いて、体で感じて、世の中は広いことを知った。まだまだ知らないことはたくさんあるが、今回の経験を将来に活かしていきたいと思う。





新たな地域連携型クラブ活動 支援プログラムについて

学生主事 三角 利之

文部科学省が、今年6月に「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」（通称、学生支援GPと称する）の取組について、大学、短大、高専に公募を致しました。この学生支援GPは、「学生の人間力を高め人間性豊かな社会人を育成するため、各大学・短期大学・高等専門学校における、入学から卒業までを通じた組織的かつ総合的な学生支援のプログラムのうち、学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取組を含む優れたプログラムを選定し、広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うことで、各大学等における学生支援機能の充実を図る」ことを目的としたものです。この学生支援GPの公募に対し、本校から「新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム」という取組を申請しました。全国の大学・高専・短大から272校の申請があり、本校のプログラムを含めて70校の取組みが選定されました。

さてクラブ活動は、学生の人間的な素養の涵養をはかり、リーダーシップ、協調性、自主性などを育成する上で、極めて重要な役割を担っています。現在、本校では体育系クラブとして23の部、3の同好会、文科系クラブとして11の部8の同好会があり、全学生の約73%がこれらのクラブに入って活発に活動しています。本校では、クラブ活動の教育的重要性に鑑み、全教員がクラブ活動



の顧問として、積極的にその指導にあたっています。しかし、教育現場における人的、物的、財政的等の要因により、クラブ活動の指導教員が、その指導内容、安全な活動の実施などについて十分対応できていない現状にあります。そこで、本プログラムは、このようなクラブ活動の支援に関する問題点を解決するために、地域と連携したクラブ活動支援を提案し、実践していく試みであります。具体的には、本校と密接な関係にある総合型地域スポーツクラブ「NPO法人隼人錦江スポーツクラブ」や「霧島市教育委員会」と連携し、地域に潜在する有能な人材を学外指導者として登用し、学生の活気あるクラブ活動を積極的に支援しようとするものです。さらに、クラブ活動を地域住民の生涯学習の場としても機能させ、地域住民が学生とともにクラブ活動に参加することによって、世代間の交流や地域住民との交流を促し、クラブ活動を通じて学生の人間性の涵養を図る地域連携型の共同教育を実施する取組になります。

この取組に対して、文部科学省より本年度と次年度の2年間、各約2千万円の助成が行われます。これから、この提案したプログラムを積極的に推進し、クラブ活動支援に関する諸問題点を解決し、クラブ活動の活性化やクラブ活動における安全性の向上などを図っていききたいと思います。また、2年間のプログラムの実施を通じて、プログラム終了後にも実践可能な地域連携によるクラブ活動を定着させることができるようにしたいと思います。学生、保護者、教職員が協力して、このプログラムに取組み、新たな地域共同型のクラブ活動の在り方に知恵を出し合い、実践し、この先進的な取組を外部に向けても発信していきたいと考えています。

皆様のご協力をお願い致します。

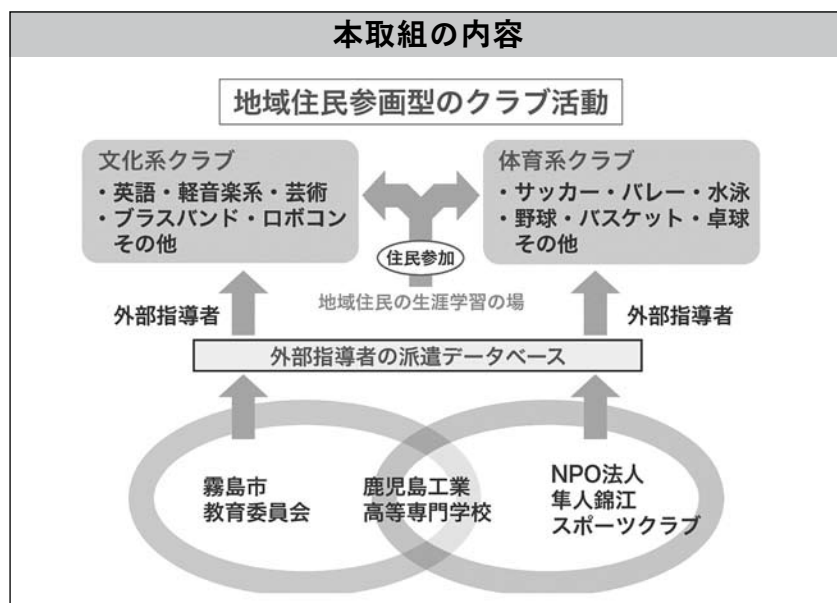


図1 新たな地域連携型クラブ活動支援プログラム

学生会長の任務を終えて

学生会長 機械工学科4年 柿迫健太郎

4月。自分の学生会がスタート。今まで学生会に所属していなかったのではどんな仕事があるかもわからずに始まりました。その為自分は何もできずに見守っているだけのことが多かったです。そんな状況だったので、この時期から高専祭の準備がすでに始まっていることや、旧学生会役員が動いている理由が全く分かりませんでした。このままでは一人だけ何もできずに一年間を無駄にしそうだったので、何かしようと仕事を探しました。しかし、自分にできる仕事はなかなか無く、結局みんなのフォローに徹しただけで終わりました・・・そのため自分自身で“頑張った”と言えることはほとんどありません。

それに比べ役員みんなの頑張りは素晴らしいです！！役員会を開いて話し合いをさせるとどんな内容であろうと常に真剣に話し合ってくれたり、自分が受けた仕事をその部署の役員に頼むとすぐに仕事に取り組んでくれたり、高専祭にいたっては、なにも指示しなくても完璧なものとなりました。本当にいつも支えられてばかりでした。

この学生会を通して得られたもの・・・それは仲間の必要性です。人は一人で何もできません。みんながいなければいいものはなにもできないだろうし、なにも考えられないと思います。部活や応援団などでチームワークが必要とされますが、それとはまた別の種類の大切な結束力を感じました。そして、一緒に過ごしてきてみんなそれを得てくれたと思います。時にはみんなで冗談を言って笑いあい、時にはみんなでまとまって一つのことに取り組む。こんな学生会の会長をさせてもらって自分はとても幸せでした。来年度も学生会に残るので今度は自分が仕事をして周りの助けになりたいと思います。

体育祭を終えて

第45回体育祭 実行委員長
電気電子工学科4年 木下 太志

今年の体育祭は多くの問題を抱えてのスタートでした。カリキュラム変更、櫓組み、廃液処理、ピラミッド、そして、お金の問題。鹿児島高専の体育祭は第45回目にして大きな節目となりました。

私は実行委員長として「学生の為の体育祭」、「私たち学生の手で作る体育祭」を目標に掲げ、先述の問題を解決することは基より、実行委員が我々学生と教職員の方々との架け橋となるような存在となるよう心掛けてきましたが、現実には厳しく、教職員の方と衝突する事もありました。思うようにならない現実。千人の学生の想いを背負う責任。自分の無力さ。何度も実行委員長という重みから逃れようと考えたこともありました。

しかし、そんな時に多くの友達に励ましの言葉をもらい、実行委員の仲間を支えられ、無事に体育祭を成功することができました。今一度、多くの友達と仲間に感謝の気持ちを伝えたいです。

体育祭は高専の学生にとっては大きな価値のあるイベントです。学生一人一人に物語があるならば、体育祭には千の物語が存在します。実行委員はその千の物語の舞台を作るのが役目だと私は考えます。多くの学生が、楽しかった。感動した。最高の思い出。と物語に刻んでくれたなら、私自身の物語は完成です。

この一年、多くの人とふれあい、多くの友達に支えられ、多くの仲間と喜びを分かち合い、自分自身の仕事を誇りに思うことができました。こうした充実した毎日を過ごせた事は大きな幸せであり、私にとって、大切な宝物となりました。

最後に、最高の宝物をくれたみんなに一言

「ありがとう」

文化祭を終えて

文化祭実行委員長
電気電子工学科4年 梶 和幸

毎年どうしても思ってしまうことがあります。文化祭は体育祭に比べ陰が薄く『伝統』が存在しないこと。今年度は『伝統』というものを考えず、テーマ「Over the Fence」にある通り、自由で学生全員が楽しめる新しい文化祭を目指しました。そのため、ステージの設置場所の変更、スタンプラリーの導入、本祭時間の延長、グラウンド企画など今までになかった新しいことを導入したつもりです。

今年度はセメスター制に伴ったカリキュラム変更で戸惑いがあり、準備の好スタートを切ることができませんでした。夏休み後半からの1ヶ月弱という非常に限られた時間の中で作り上げなければならない文化祭になりましたが、それが逆に良い刺激となり、実行委員一人一人が仕事を迅速にこなすことが出来たと思います。しかし、早く準備することに越したことはないので、来年に繋がりたいと思います。

新しいことをするというのは非常に大変なもので、検討し、シミュレーションし、練り直し、形のあるものにするには時間と労力が必要でした。文化祭を作り上げていく中でなにより一番感じたことは、自分の力不足です。学生の意見に答えられない、実行委員に指示を出せない、頭の中の考えだけが先走ってしまい形にならない、しまいには自分のやらなければいけないことが見えてこない。非常にふがいない実行委員長でした。それでも文化祭を無事成功に修められたのは、椎先生を始めとする学生委員会の先生方や実行委員会の学生達の協力があったからであり、感謝の一言です。

今回の文化祭は自分にとってプラスになるものばかりでした。このような大役をさせていただいたおかげで自分と向き合うことができ、足りないものが見つかりました。それが改善され、今後の生活に生かされることを自分自身に期待したいです(笑)



学生総会



体育祭



文化祭

全国高専サッカー選手権大会V20を達成して

サッカー部指導教員 山崎 亨

今年の全国高専体育大会は「目指せ頂点！深めろ友情」の大会スローガンの元、四国地区をメイン開催地として開催された。サッカーは暑い夏の炎天下、高知県南国市と香南市の緑滴の競技場で全国各地代表16チームで熱戦が展開された。

ここ2年、突如、近畿大学高専という4年次編入生を主力にした強豪チームが出現し、全国制覇20回目を目前に足踏みを余儀なくされ、今年こそはと臨んだ大会であった。

昨年の全国大会は、「輝け青春∞無限大！！」の大会スローガンの元、和歌山市で行われ、鹿児島は決勝戦で延長戦の末に敗れ、V20の夢を絶たれたチームである。

今年こそはと臨んだ全国大会であった。昨年同様、決勝の相手は近畿大学高専であった。決勝には卒業生、サッカー部父母の会、父兄OBなど沢山の方々が、遠方の高知まで応援に駆けつけ、声をからして激励と勇気を与える声がグラウンドにこだました。

試合は前半立ち上がりには先取点を挙げ、その勢いで選手が走りに走り、相手に厳しいプレスをかけ敵の良さを押さえ込み、後半もその勢いで走りに走るサッカーで追加点を挙げ2対ゼロで快勝した。試合終了の笛の鳴った瞬間、応援していた父兄・卒業生、部員がV20達成の歓声と涙で誰彼と無く抱き合うシーンが私の眼に飛び込んだ。今大会無失点の完全優勝であった。達成感と感動でみんなが感涙した。そこに居合わせた人でないとならない、人の心の自己表現と自己実現の頂点に達した者だけが味わう感動なのかとも思う。そして感動を共有出来た自分を幸せに思った。

優勝して、鹿児島高専学生の素晴らしさと学校関係者、父兄、卒業生、地域のサッカー関係者など、多くの方々のご厚情とご支援があったればこそと、感謝とお礼の念で一杯の心境である。人という字の語源は、支え合うという意味であると同っている。まさに全国大会を20回優勝できたのは多くの人のお陰であった。

さて、本校赴任以来、「覇者の像」に見守られながら高専大会日本一を目標に部員と共に頑張ってきたつもりである。高専体育大会は、大会毎にスローガンを掲げ、全国高専学生が一堂に会し技量を競う場である。何故、全国大会があるのか。今年のスローガンは「目指せ頂点！深めろ友情！」であった。全国大会を目標に、日々、鍛錬努力する過程に立派な技術者になる人間的資質が育まれるからこそ九州大会、全国大会があることを理解してもらいたい。勿論、ロボコン等にしてみてもいい。私は、鹿児島高専学生の多くが、部活動等に入り大きな目

標を持って日々努力し、全国高専の頂点を目指しながら勉学に励み、世界に輝く技術者になることを熱望します。



ロボコン～この一年間を通じて～

メカトロニクス研究部長
機械工学科4年 園田浩太郎

『これから一年間よろしくお願いします！』

平成18年12月のある日、この日から僕は、高専ロボコンに出場するロボットを製作する部活である『メカトロニクス研究部』、通称『メカ研』の部長を務めることになった。僕はもともとこの部活に参加したいという理由もあって鹿児島高専に入学したのだが、やれるものならやってみようとは思っていた部長という大任をまさか本当に務めることになるとは思ってもいなかった。この日から今日までの一年間、様々な出来事が起こりこんなにも充実した日々を過ごしたことは今までになかったと思う。

この一年はメカ研全体としても、様々な出来事があった。最も大きな出来事は、隼人町で行われる初午祭の鈴かけ馬を模したロボットを製作したことだろう。例年お世話になっていた地域に少しでも貢献できるようにと製作した鈴かけ馬ロボットだったが、これまでのロボコンとは勝手の異なるものづくりに予想以上にてこずってしまい、思いどおりの物をなかなか完成させることが出来なかった。また、学校全体のカリキュラム変更にも対応した予定を立てることが出来ず、ロボコンの時間すら割いてしまったことはスケジュール管理の不善が原因であり、自分自身の大きな反省となった。

このような状態で、何とか迎えたロボコン九州沖縄地区大会では、出場したA・B両チーム共に負けてしまい全国制覇という夢は叶えることは出来なかった。それでも、どうにかロボットを完成させて大会に参加することが出来たのは、こんな部長を支えてくれた部員達、相談に乗ってくださった先生方、体調を気遣ってくれた家族のおかげだと思う。

決してよい結果を残すことが出来たとは思えないが、この一年間で得た様々な経験が、メカ研にも、僕自身にも、後の糧となってくれることを強く願いたい。



鈴かけ馬ロボット



ロボコン九州沖縄地区大会

リーダー研修について

学生主事補 椎 保幸

平成19年度リーダー研修を下記の要領で実施します。今年度は、主にクラブ活動の活性化について討議する予定です。また、一日目には地域活性化に積極的に取り組み、大きな功績を挙げられている豊重哲郎氏（鹿屋市串良町柳谷公民館長）を講師に招き、リーダーに必要な資質等について講演して頂く予定です。

記

日 時：平成20年1月11日（金）～ 1月12日（土）
 場 所：大隅青少年自然の家（鹿屋市花里町赤崩）
 対 象 学 生：各部活・同好会のキャプテン、学生会、体育祭・文化祭実行委員
 引率教職員：学生委員会、学生課

日 程：

一日目 1月11日（金）	二日目 1月12日（土）
15:15 第一体育館集合（点呼）	6:00 起床
15:30 出発17:00 出合いの集い	7:00 朝の集い（点呼）
・入所式	7:30 朝食
・オリエンテーション	
・シーツ貸出し	
17:30 入浴	9:00 グループ討議②
18:30 夕食	・体育祭、文化祭について
	・クラブ活動の活性化について(2)
19:20 集合	10:00 自由行動
19:30 基調講演	10:45 全体討議（点呼）
題目：「己に感動、社会に貢献」	12:00 昼食
講師：豊重哲郎氏	
（串良町柳谷公民館長）	13:00 別れの集い
20:30 休憩・移動	13:30 出発
20:40 グループ討議①	15:00 高専到着
・クラブ活動の活性化について(1)	
21:30 討議終了（点呼）	
22:00 消灯・就寝	

美化活動について

環境局局长 電気電子工学科4年 梶 和幸

今年度の美化活動について報告します。今年度の活動は、校内美化活動として毎週行われる一斉清掃とそれに伴った清掃チェック、ロータリーや花壇等の管理、隼人駅の清掃、およびゴミの分別指導などです。

まず、一斉清掃では3年生以下は毎週水曜日に、4年生以上は任意の曜日に各教室とコモンスペースなどの指定された場所を清掃しました。これにより学生の清掃作業への習慣化を図り、自分の学校は自分達で綺麗に保つようにしました。また、各クラスの環境委員には、清掃チェック用紙を配布し、学生会からの呼びかけではなく、学生主体で清掃意識を持つように工夫しました。隅々まで美しくとはいきませんが、教室のゴミ捨てやおおまかな清掃作業は習慣化され、学内にゴミが散乱することは見かけなくなりました。

次に、学生会が中心となりメインストリート、ロータリー、プランター等の花の植え替えと水かけをし、花のある美しい学内を目指しました。また、学生会だけではなく後援会の方々にもご協力頂き、植え替え等を実施して頂きました。

6月末には、学生会主体で、一般学生にも参加を促し、学生の利用する隼人駅までの通学路と隼人駅構内の清掃作業を行いました。一般学生の参加も少数ですが参加して貰えらので、この調子で全学生の清掃に対する意識の向上があれば素晴らしい校内美化環境になるのではないかと思います。

今年初めての試みとして教室の清掃チェックを行いました。教室内の床・黒板・ゴミ・整理整頓の4項目に分けて5段階評価をつけ点数と順位を報告する。初めての試みでしたので、まだ学生には意識を植え付けられてはいませんが、今後続けていくことでより良くなっていくはずと期待しております。

ゴミの分別指導については、私は昨年度から環境局として学校の美化状況を見てきましたが、昨年度の4月当初からすると、学生のゴミの分別が確実に良くなっています。当初は為されていなかったペットボトルのラベルの分別、資源ゴミと可燃ゴミの混合も無くなり、学生の中では意欲的にゴミの分別に対する意識が高くなってきていると思います。

最後に、環境局長として思うことは、いまだに学内でのゴミの投げ捨て、置き捨てが目立つことです。一人一人がモラルを守り、素晴らしい校内美化環境になることを私は切に望みます。

交通だより

交通担当学生主事補 島名 賢児

残念ながら4月から数件人身事故が起きています。それらのほとんどが、用件の時間ギリギリの状況で運転しており、その結果、被害者と接触して事故が起きている。世間で発生している交通事故の多くが、そのような状況で発生しています。何事にも時間の余裕を持って行動することが社会に出てからも大切です。時間的な余裕は、精神的な余裕にもつながります。きっと、その方がその後の用件にもよい影響を及ぼすでしょう。本校に在学しているうちから常日頃意識し、習慣付けて欲しいと思っています。

その他に問題となっていることは、年度当初から問題となっている駐輪場の状態です。自転車の駐輪スペースがパンク状態であり、車の通行などに支障をきたしています。今後、駐輪スペースの更なる拡張を望みますが、朝の駐輪場を見ていると、奥の方から停めずに、駐輪場の入口付近から自転車の通行を邪魔するように停めているため、その後の自転車は奥に進めず、次から次へと駐輪場からはみ出るような状況となっています。通路に停めたら、それ以降自転車が通れなくなることくらい予想できるはずですが、また、駐輪場からはみ出た場所に停めたら、車などの通行の邪魔になるというのが判らないのでは、あまりにも常識を欠いているとしか言わざるを得ません。「もし自分がここを車で通るなら・・・」ということを考えて欲しいものです。面倒でも奥の方から停め、できるだけみんなが使いやすい駐輪場にして欲しいと思っています。

また、昨年度末に隼人駅駐輪場から引き取ってきた放置自転車30台程度と、学内に放置されていた自転車を含めた100台程度を先日処分したばかりですが、10月に隼人駅の駐輪場に本校のステッカーが貼ってある放置自転車があるとの連絡があり、20数台を本校のトラックで引き取ってきました。今後処分していく予定ですが、このような処分作業をしなくても済むようになって欲しいと思います。

今年度も残り少なくなってきましたが、学外での交通ルールはもちろんのこと、学内での規則、マナーをしっかり守り、処分や指導を受けることなく春休みを迎えられるようにして欲しいと思います。

読書感想文コンクール

図書館長 榎園 茂

若者の活字離れに伴い新聞の発行部数も減ってきていると叫ばれて久しい。毎日実験やレポート作成に追われている高専の学生は、専門分野の本にはある程度眼を通しても、勉強に関係の無い新聞や教養本を読む時間は少ないのではなかろうか。レポートのことを気にしなくても良い長い夏休みに、興味を抱いた本をじっくりと読むことは一つの清涼剤であり、自分と向き合える貴重な時間でもある。また、本を読んだ後で感想を整理し、文章化して的確に表現するという作業は、広い意味でのコミュニケーション能力を高めることにつながっている。このような能力は技術者になる、ならないに関わらず社会人として必要なものである。

図書館運営委員会の主催で、第5回目の読書感想文コンクールを実施した。平成19年7月にポスターを各クラスに掲示して読書を呼びかけたところ、国語科の先生方の支援もあって、10月5日の締め切りまでに156編もの応募があった。これを受けて、図書館運営委員会委員と国語科教員で1次、2次、3次の審査を行った。その結果、今年度は以下に示すように特選0編、入選に3編、佳作に3編が選ばれることになった。入選者には11月30日に校長室で賞状と記念品の贈呈を行い、その努力を讃えた。更に今回高専便りにも掲載して皆様に披露することとした。

特選

該当無し

入選

* ガンに生かされてを読んで

電気電子工学科1年 増山 翔

* 「博士の愛した数式」を読んで

情報工学科1年 越智 なつ美

* 18歳、青春まっしぐらを読んで

情報工学科2年 上小川 愛倫

佳作

* 「佐賀のがばいばあちゃん」を読んで

電子制御工学科1年 金田 佳男

* 「死刑」を読んで

機械工学科2年 加藤 良治

* 「星の王子さま」を読んで

電気電子工学科2年 竹崎 慧美



読書感想文コンクール 表彰式

ガンに生かされてを読んで

電気電子工学科1年 増山 翔

僕は「ガンに生かされて」と言う題名が目にとまりました。病気のガンに生かされるということはどういう意味なのか気になったからです。題名を見て、自分だったら絶対そう思えないだろうというのが最初の印象でした。

この本は日本人で唯一、八年間プロウィンドサーファーとして活躍した、飯島夏樹さんについての本でした。飯島夏樹さんは三十七歳のときに、末期の肝細胞ガンの宣告を受けました。あまりにも大きなショックでうつになり、家に引き籠もるようになりました。しかし、家族のおかげで回復し、最後の場所としてハワイを選び移住しました。余命宣告期限を越えて百八十八日、死の間際まで綴り続けた命の記録でした。

この本に出てくる言葉で一番驚かされたのが、「ガンになってよかった」です。ガンは悪い病気のうち、末期の肝細胞ガンだから治る見込みがないのです。それなのに、そう思えることがとても不思議でした。

飯島さんはプロウィンドサーファーで、飯島さんの妻は夫のために手伝いなどをしていました。しかし飯島さんは妻を、ワールドカップで活躍するためのひとつの道具としてしか見ていなかったそうです。それが子供ができたときから変わり始めました。そしてガンになってから飯島さんは、「家族が一つになり、家族との間に生まれた深い心の交流や、病気の進行と比例して深まる夫婦の絆を感じることができた。だから、ガンになって苦しんでいることにありがたみを感じた。」と言っています。

僕は飯島さんは前向きで、心の強い人だと感じました。自分はいやなことがあると、すぐに投げ出したり、好き

なことには一生懸命できても、嫌いなことになる真剣にできないことがよくありました。小さなことでもこんな調子なのに、ガンなどの病気になったときには、絶望して何も考えられなくなるだろうと感じました。

本の言葉には、「なぜ、全ての病が癒されなければいけないのだろうか。なぜ、健康だけが幸せの源であるべきなのだろうか。病気の人は生き生きと輝くことは許されない。なぜ、そんな風潮があるのだろうか。」というものがありました。

僕はこの言葉についていろいろなことを考えさせられました。確かに病気は苦しく、他者に迷惑をかけることが多いです。また、いろいろな人の助けや支えがなければ、病気の人の生活は全く成り立たないでしょう。しかし、飯島さんのように、ガンという不幸の中で、幸せを見つけ出して生きている人がいます。健康な人であっても、互いに傷つけあって、幸せに生きていない人もいます。そう考えると、病気や怪我も決して悪いことばかりでなく、良いこともあると思えるようになりました。

そのほかに、こんな文章がありました。「どんなに美しい言葉を送っても、その言葉にあなた自身が助けられた経験がなければ、相手の心に決して届きません。あなたの生活の中で、生きて糧となり、困難、試練を乗り越えさせてくれた言葉こそ、人にも伝えることができ、人の心に残る言葉となるのです。」

この文章を読み今までを顧みると、自分は人に言葉を送ることができたのかと思いました。なぜなら人に伝えられるような言葉がほとんどないからです。自分が助けられたこともない言葉は、人には届かないのだから、言葉として伝えられるか分からないけれども、自分が本当に大切だと思っていることを伝えるべきだと感じました。

そして、将来自分が人の言葉に助けられたときには、困っている人にその言葉を送りたいです。

この本を読んで、自分の物の考え方や、視野が広がりました。弱い人の立場にならないと見えない世界があることや、二つの道があり、自分がいやだと思ふ道のほうが後に自分のためになるなど、たくさんの生きる力をもらった気がします。それに、飯島さんは、ガン、うつ病、パニック障害、これらは全て自分にとっては必要なことだったと思い、受け止め、全てを前向きに考えています。自分が生きているのは、まだすることがあるために、生かされていると考え、天命を全うし、天から与えられた最後の仕事を全うする。

飯島さんの生き方には学ぶべきことがたくさんあります。だから飯島さんのように優しい心をもった、強い人になりたいです。

「博士の愛した数式」を読んで

情報工学科1年 越智なつ美

この本は、数学教授（通称、博士）と、その家政婦、家政婦の息子（通称、ルート）の間に生まれる、友情でもなく、愛情でもない、言い表しにくい、家族愛に近いものについて書かれた本である。

私は、人間とはもともと、嬉しいことは覚えておき、嫌なことは忘れるという生き物だと思う。しかし、博士は違った。そうすることは出来なかったのだ。博士は、事故に合い記憶が80分しかもたないという運命を背負っていた。事故の前のことは思い出せるが、その後のことは80分たつと忘れてしまう。そのため、忘れないようにと記したメモが、背広中にびっしりと貼ってある。つまり、嫌なことはもちろん、嬉しかったことすら忘れてしまうのだ。

私は、「人間は忘れないと、生きていけない。そもそも、忘れる動物である。」という言葉を読み出した。よく耳にする言葉だ。確かに、そうだと思う。全てを覚えておくのは無理があるし、嫌なことをいつまでも忘れられない人生は辛すぎると思う。しかし、博士はどうだろう。昨日会った人も、81分前にあったことも思い出すことが出来ない。80分しか記憶がもたないことすら次の朝には忘れていく。そのため、毎朝そのことを自分で書いた、背広の1番目立つところに貼られたメモに宣告される。これが、どれだけ辛いかわからない。また、自分の記憶は全然新しくならないが、自分を取り巻く人や、出来事は進み続ける。私は、考えただけで怖いと思った。自分だけが、ポツリと、取り残されていくなんて耐えられないと思った。

博士という人は、褒められるのは苦手だったが、人を褒めるのがとても上手かった。ルートが数学の問題を解くのをせかさずに、じっと待ち、解けると褒め称えた。どんな些細なことでも、とんでもない偉業を成し遂げたくらいに褒めた。

また、博士は子供をととても大切に思っていた。家政婦の息子を「賢い心が詰まっていそう。ルートを使えば、無限の数字にも、目に見えない数字にも、ちゃんとした身分を与えることができる。」と言って、彼のことをルートと呼んだ。彼は、ルートのことを自分の息子であるかのようにかわいがった。博士にとっては、ルートは、毎日初めて会う子だった。しかし、そんなことは関係ない。ルートも、博士が大好きだった。2人で留守番することになった時、母親に「大丈夫？」と言われ、「博士を信用しなかった。博士にルートの世話任せられないんじゃないかって、少しでも疑ったことが許せない。」と言って、泣いて怒った。博士は、ルートがケガをした時、背負って病院まで走り、自分のせいだと泣いた。2人の

間には、博士の記憶の限りに負けないくらい強い絆があったのではないかと思う。

私は、読み進めていくうちに、博士が好きになった。これが1番いい！と断言するのは難しいが、人間として憧れた。たぶん家政婦も同じだと思う。博士の存在に、愛情だけでなく、友情だけでもない、家族愛に近い温かさを感じたのだと思う。

家政婦は、自分の誕生日2月20日の数字、220と、博士の腕時計の裏に刻まれた番号、284が友愛数であることを博士に聞いた時、とても嬉しがった。何気ない数字で博士とつながっていたことが、嬉しかったのだと思う。そのつながっている相手が博士だったからでもあったと思う。そこで私は、「人間の真の価値とは何なのだろう。私は、彼らの何に惹かれているのだろう。」と思った。

「人間の価値は金と地位じゃない。」「勉強が出来る奴が偉いわけじゃない。」と言う人がたくさんいる。私もそう思いたい。しかし、実際は、お金がなければ生きていけないし、皆が地位を欲しがる。企業も、学歴がいい人を採用したが。ようするに、これらは、ただのきれいごと過ぎないということだ。だが、それは仕方がない。人間の心の奥には、「欲」というものがあるのだから。そういう生き物なのだから。

しかし、私は「真の価値」は「心の魅力」だと信じている。つまり、他の人とは比べることの出来ないものということだ。その人の考え方であったり、生き様であったり、人と比べる必要がないからこそ、その人自身の魅力がその人の価値ということになると信じている。だから、私は人の長所をたくさん見つけられる人になりたい。成績や、お金、ルックスだけではなく、その人の優しいところや、憧れるところ、好きなところをたくさん見つけられる人になりたいと思う。そして、一度きりの人生をねたんだり、恨んだりしながら生きていくのではなく、色々な人に感謝し、感謝される様な人生をおくりたい。また、一期一会の世の中、出会った人の魅力をたくさん感じて、前の自分よりも成長していきたい。そして、博士と家政婦とルートの様な、一生かけて、相手を大切に思うような人にたくさん出会いたいと思う。

18歳、青春まっしぐらを読んで

情報工学科2年 上小川愛倫

十八歳、私はあと一年後だ。今は高専生活をととても満喫している。勉強に部活、友達それから恋――。毎日が盛り沢山で、これが私の「青春」なのだろうか。

この本の作者、今田真由美さんはどんな「青春」を駆け抜けているのだろうか。そんな思いから、この本を読んだ。表紙には、野球のユニフォームを着た彼女の屈託のない晴れ晴れとした笑顔がある。私はこの笑顔が大好きだ。心が穏やかになり、とても気持ちがいい。そんな思いもあってからか、真由美さんはどのような人なのだろうか、とわくわくしながら本を開いてみた。

本には、家族のこと、部活のこと、友達のこと等、自分の赤ちゃんの頃から今までの年月が書いてある。このように書けば、普通の方が書いた、普通のエッセイに思えるかもしれない。しかし、彼女はちょっと違うのだ。それは神様から「音のない世界」をプレゼントされたことだった。

「音のない世界」とは、一体どういうことなのだろうか。耳が聞こえないとは、どういう状態なのだろうか。私には、想像がつかない。今、作文を書いている時さえも虫の鳴き声や時計の秒針の音が聞こえる。普段は、友達とのおしゃべりや授業中の先生の話が聞こえる。聞こえるからこそ自分も返事をしたり質問したりすることができる。今、声が聞こえなくなったら……と考えると怖い。友達が何を言っているのか分からなくて、きっと焦りや絶望、ショック状態に陥るであろう。

真由美さんは、生まれつき音が聞こえなかったそうだ。つまり、小さい頃は世界に音があることを知らなかった。しかし、両親の努力と周りの方の支えがあって、口の形で話すこと、目で聴くことができる様になったのだ。

「耳が聞こえないことで不便だと思ったことはあっても、不幸だと思ったことは、一度だってありません。」彼女は、こう言っている。私は本当にすごいことだと思う。彼女は、健常者が通う幼稚園、小・中学校、高校、大学に通っているのだ。また、中学校からはじめたソフトボール、高校では野球で全国一位、文の甲子園で優勝、とスポーツでも文学でも超が付く程の腕前だ。まさに、「青春まっしぐら」そのものである。

普通の人って、どんな人だろうか。私はあえて文章中に、「普通」という言葉を交えてみた。私にとっては、体が自由に動くこと、物が見えること、音が聞こえることが「普通」である。しかし、真由美さんにとって音が聞こえる方がパニックになるだろう、と言っている。彼女にとっては、音が聞こえないことが普通なのである。

「普通」とは、特別でなく、ありふれていること、と辞典には載っていた。聴覚障害者や身体障害者は、健常

者に比べると、少なからず特別に思ってしまうことがある。しかし、私はこの本を読んだことで、彼女は不幸だと思ったこともなければ、文武両道そして青春をエンジョイしている。もちろん、それまでの努力は私には想像もできない、それ以上だと思う。だが、みんな普通なのだ。今までの私は、障害者の方に対して、特別視していることばかりだったかのように思う。これからは、困っている時には手を貸したい。でも、自分自身で出来るのであれば、見届けたい。きっと、出来るはずだから。

「佐賀のがばいばあちゃん」を読んで

電子制御工学科1年 金田 佳男

ぼくは「佐賀のがばいばあちゃん」を読んでいろいろなことを学びました。まず、一つ目は人生をプラス思考に生きることです。がばいばあちゃんと昭広はけっして裕福な暮らしをしていないのに毎日を楽しく過ごしています。それは、がばいばあちゃんが物事をすべて良い方に考えているからだと思います。ごはんがない日、昭広が悩んでいるとき、ぼくの中で一番印象に残ったのが、昭広が学校で友達から、陰口を言われていることをがばいばあちゃんに相談したら、がばいばあちゃんは、「心配すんなふり向けばいっぱい自分を好きな人がおる」です。また昭広が成績表をおばあちゃんに見せたとき、おばあちゃんは「たせば5になる」と言った。「人生は応用力だ」この言葉はぼくの胸にひびいた。人はそれぞれ社会に役立つ素晴らしい才能がある。しかし、それをいかに発揮するのが大事です。また、「佐賀のがばいばあちゃん」を読んで、現代社会に生きる我々が感じるこのできない優しさも学びました。ある日、昭広が豆腐を買いに行ったときのことです。その豆腐屋はきれいな豆腐は十円、くずれた豆腐を五円で売っていました。昭広が豆腐のかごをのぞくとなんとその日は、全部の豆腐がきれいでした。あきらめて、帰ろうとする昭広に豆腐屋さんは、「くずれたのあるよ」と言いました。なぜなら豆腐屋さんは昭広にバレないように豆腐をくずしたからです。

僕が最も感動したのは、小学校の運動会の際に昭広が一教室でさみしく弁当を食べているところに先生が来て、先生が自分の持ってきた、ゴージャスな弁当を昭広に理由をつけて食べさせたことです。このことを昭広がおばあちゃんに話すと、おばあちゃんは「人にわからないようにしてあげるのが本当の優しさだよ」といいました。このことをきいて僕もこのような優しさを持ちたいと思いました。これは貧富の差が激しい現代社会に

必要不可欠な優しさだと思う。何かしてほしいからするのではなくボランティア精神の優しさの方が必要だと思う。

僕は「佐賀のがばいばあちゃん」を読んで、この本は自分の生き方を変えたと思います。現在社会はお金と愛を大事にしているが、がばいばあちゃんが言った「人生は少しのお金と大切な友達がいれば、成功だ」という言葉に同感を抱きました。また幸せについても考えさせられました。「小さな幸せを大きく感じるのが本当の幸せだよ」幸せは人それぞれですが、本当の幸せを見つけた人は少ないと思います。僕自身まだ見つけていません。「佐賀のがばいばあちゃん」という本をぜひ一度おススメします。読めば必ず何かすばらしいものに出会えます。

「死刑」を読んで

機械工学科2年 加藤 良治

僕は読書感想文を書くにあたって、リリー・フランキーの「ボロボロになった人へ」という短編集を読んだ。中でも、「死刑」という話が一番心に残った。

この話の舞台は現在から何年も後の日本だ。その日本では今とは違う死刑制度が導入され、犯罪者は罪の重さに関係なく皆死刑にされている。そんな中、裁判で争われるのは「どのようにして死刑にするか」である。罪の重さにより死刑はひどく、むごいものとなっていく。

僕がこの作品を読んでまず感じたことは、この死刑制度には絶対に賛成できないということだ。どんな些細な罪でも死刑になる。こうすれば確かに犯罪は減るだろうし、作中でもそうになっていた。しかし、そう簡単に死刑にしていれば、罪を犯した本人は当然の事ながらその家族や友人だって深い悲しみを味わうだろう。告発した人でさえ、それが本当に些細な事件であつたら自分の告発で人を一人殺してしまったという思いにかられると思う。それが冤罪なら、罪のない人が死刑になる。悲しむ人は増える一方だと思う。

言ってみれば、僕は現在の死刑制度にも素直に賛成することはできない。現在死刑に処される人は、大きな罪を犯した人のみだが、最終的にその人の刑を決めるのは裁判に居合わせる一個人である裁判官だ。その一個人の微妙な価値観の違いで、被告は死刑か懲役か、生きるか死ぬかが決まる場合もあると思う。やはりそれはいけないと思う。犯罪者とはいえ、同じ人間であり、殺すという決断へもっていくのは良いことではないと思う。

死刑制度があるかぎり、死刑を申し出る方も間接的に人を殺しているわけであり間接的ではあるが殺人者にな

る。やっていることはどちらも同じであると思う。

作中の一場面に現在の日本についてふれている所がある。それは、現在の中高生には普通に万引き等をし、それを悪びれた様子もなく自慢げに話す人がいるというものだ。確かにこのような話をテレビ等で僕も見ることがある。そして作中の主人公は、このような人たちが皆大人になり、人の親となって平凡な幸せを送っているのが許せないと感じている。この場面には僕も共感できた。万引きとはいえど犯罪なので、しっかり反省し自分のしたことを恥じる必要があると思う。死刑はもちろんやりすぎだと思うが。

この作品は、「犯罪者は皆死刑」という制度が浸透した場合の日本がとても分かりやすく書かれていると思う。僕自身死刑制度のあり方について深く考えることができたので、この作品を読んでとてもよかったと感じている。読む人それぞれでこの作品のとらえ方は色々あると思うが、ぜひ読んでもらいたいと思う。

「星の王子さま」を読んで

電気電子工学科2年 竹崎 慧美

私が「星の王子さま」を選んだ理由は、世界的に有名な本だと聞いたことがあったからだ。昔から本の名前は知っていたが、よく考えると全く内容を読んだことがなかった。そして読み終えた後、なぜもっと早くにこの本を読んでおかなかったのだろうかと少し後悔した。「星の王子さま」という本は、読んだ相手が例えば子どもであっても大人であっても、これから生きていくなかで大切なことに気付かせてくれる本だと私は思う。

この本は、砂漠に不時着した飛行機パイロットが出会った不思議な男の子の物語である。この男の子は星から星へと旅を続けている王子さまで、地球は七番目に訪れた星であると書かれていた。しかし、王子さまは一人で旅をしていたようだが、寂しくなったことはなかったのだろうか。私にはまだ一人で旅に出る勇気はないので、王子さまにはとても勇気があると思う。

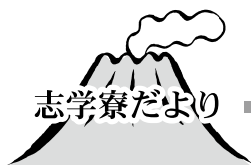
王子さまの星はとても小さくて、活火山が二つと死火山が一つ、そしてバラの花が一輪しかないらしい。しかも活火山は王子さまが煤そうじできるぐらい小さい。それを考えて地球と比べてみると、本当に小さな星である。王子さまはそこでバラの花の世話をしながら暮らしていたのだ。しかし、そのバラはプライドが高くわがままで、時には王子さまを困らせる。そんなバラと王子さまが会話している様子は、まるで王子さまがわがままな女性の相手をしているかのようだった。私は王子さまが星を出

る準備をして、バラに別れを告げる場面が印象に残っている。なぜなら、別れ際にバラが王子さまを愛してると言ったからだ。今まで王子さまはバラが自分を愛してるなどと思ったことはなかったのだろう。バラは王子さまの星をいい香りで包み、明るくしてくれた。しかし、王子さまはバラの言うことばかりに気をとられ、その裏側にある愛情に気付いていなかったのだ。私はこの王子さまが自分にあてはまると思ってしまった。なぜなら、家族が私のことを考えていつもよくしてくれているにもかかわらず、少しのことで口論してしまったりするからだ。これからは相手に言われた言葉でもし不快になったとしても、相手が今まで自分のためにしてくれたことを思い出せるようにになりたい。

王子さまは地球を訪れるまでに六つの星で一人一人個性あるヒトに出会い、地球に到着してからは人間や動植物と出会う。私があるので特に印象に残った場面は、王子さまがキツネとふれあう場面だ。キツネは王子さまに自分をなつかせてほしいと言う。ここで普通ならば王子さまがキツネをなつかせようとするのに、キツネ自らが頼む場面はおもしろいと思った。しかし、王子さまは「なつく」という言葉を知らなかったのだ。王子さまは言われたとおりキツネをなつかせる。そしてキツネは王子さまと別れる場面でこう言った。「いちばんたいせつなことは、目に見えない」と。この言葉にはどれほど深い意味が込められているのだろう。これは生きていく中で人間が最も必要とする言葉ではないだろうか。

私がこの物語を読んでわかったことは、目に見えるものだけが本当に大切なものではないということだ。この本に書かれている内容全ての端々に通じる考え方と思う。例えば家族や他人からの好意や善意。これらはカタチを持って目で見えることはできない。言葉や行為の裏に隠されている愛情も同じである。どんなに短い時間の中で結ばれた絆であったとしても、誰かにとってはかけがえのない宝ものと等しいほどの価値があったりするのだ。目に見えるものが全てではない。大切なものは目に見えるものだけではなく、愛情や心と心の絆なのだと、この作者は私たちに訴えているのではないのだろうか。

これから先も多くの人々が「星の王子さま」という本を読んで、この物語に秘められている深い意味や真実を後生に伝えていけたらいいと思う。



寮の1年間

寮務主事 白坂 繁

●保護者の皆様へ 寮の様子がわからないとの声をききますので、今回は寮の1年生の1年間の様子を紹介します。

*

【04月 入学式・入寮式】

この日から初めての寮生活が始まり、食事や風呂の場所・方法にルールがあることを知りカルチャーショックをうけ、同室の先輩がどんな人か様子をうかがいながら眠れぬ夜を過ごす。(初日は非常に緊張しているので、一度に多くのことを指導しないようにしています。また、上級生にも1年前の自分のことを考え、親身になって面倒を見るように言っています。1週間くらいはトイレに行っても出るものも出ないくらい緊張しています。何人かは発熱もします。担任と連絡して注視するように努力しています。1カ月後の5月の連休が過ぎれば、寮生活に慣れてきます。)

【06月 前期中間試験】

高専に入ってから講義の進度についていけず、内容の難しさに音を上げ、中学校と同じように丁寧に復習をしようとしても余りの内容の多さに泣く。(同室の先輩に要点を教えてもらったり、5年生の指導者(チューター)に質問したりして乗り切るように指導しています。)

【08月 前期期末試験と大掃除】

虫が飛んでくる中、汗をかきながら試験勉強。教室は空調があるが、寮はないので集中できず、製氷機の氷と扇風機と売店のアイスを味方に勉強。

試験が終わると大掃除。綿ぼこりが、なぜと叫びたい程溜まっている。部屋の荷物を全部外に出す。結構な量がある。

(来年度からは寮にも空調が付きます。受益者負担ということでまた経費がかかりますが、ご理解とご協力をお願いします。)

【10月 部屋替えと応援団の練習開始】

寮に着くと、新しい部屋が発表されている。後期は同級生と二人部屋。ゆっくりする間もなく4年の応援団長の下、早速、応援団の練習が始まる。中学校とは比較にならない質と量とスピード。

(本校の最大行事であるため学生は必死で練習します。しかし行き過ぎにならないように、担任、学生委員会と協調して寮生の様子を見守っています。)

【11月 文化祭と体育祭】

学生会主催の面白い出しものと、レベルの高い各科の展示。そして、半端な金額でない抽選会に驚く。体育祭

は完全燃焼。応援合戦以外の種目は記憶にない。

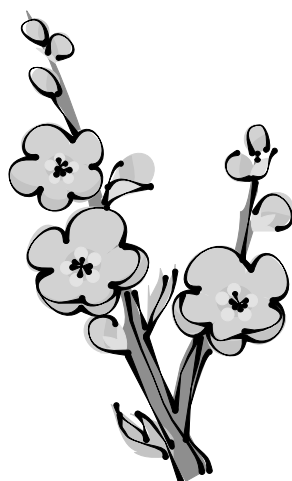
【01月 2度寝の誘惑】

朝7時。起きるのがつらい点呼終了後、食堂で朝食。部屋に戻ると、布団の温もりが何ともいえず心地よく寝てしまう。気がつくと、巡回の先生に起こされる。(冬場になると布団の誘惑に負け、朝点呼不在あるいは遅刻残寮の学生が大量に出ます。入寮審査の点数は1月分まで入りますので、毎年ここで失敗し、入寮できない学生が出ます。注意するようにお伝え下さい。)

【02月 期末試験と引っ越し】

最後の試験。高専は高校と違って本当に留年があるから怖い。試験が終わると、山のような荷物を持って帰省。1か月休みは長い。

(4月から部屋が変わる事と、寮を閉め切るので衛生上問題があるため、すべての荷物を持ち帰るよう指導しています。勉強に不要な物は持ち込まずレンタル布団を利用すると荷物は格段に減ります。)



一年を振り返って

寮長 電子制御工学科4年 山本 一郎

平成19年度の鹿児島高専の寮を任されることになり、もうすぐ一年が経とうとしていますが、自分がこの寮に何をしたのか、何を残せたのか振り返ってみたいと思います。

この寮に何を残せたか、一つあげるとするならばみんなにごみの分別の意識を持たせたことがあります。毎年寮の自販機のゴミ箱には様々なごみが捨てられ分別とかも関係なしに、よく「山」が出来たりしていました。そこで寮生会で片づけをするゴミ箱を設置し、根強く呼びかけと片づけをしたところ、分別状況が見違えるほどよくなりみんなが意識を持ってくれたと思います。まだまだみんなが分別をしっかりとしてくれるとまではいえませんがこの意識をしっかりと次へと委託し、もっと向上してくれればと思います。

反省点としては日本一でかい寮の寮長になっただけに就任当時はすごくやる気に充ち溢れ、こういうことで寮を変えていこうとか、新一年生をどういう風に誘導していこうなどやりたいことはたくさんありました。しかし先生方との意見の食い違いや壁にぶつかる事が多く、変えていこうとしていたことの半分は出来なかった気がします。新一年生にも指導が行き届かないところもあり、様々な問題が起こったりもしました。

しかしそういうことがあってからか、寮務委員会や寮務の方々がどう考えて寮のために色々規則などをうるさく言うのかも再認識させられた気がします。低学年のころは、寮の規則にたくさんの方の不満を持っていましたが、上に立ってどうやってみんなが住みやすくなるかを考えると主事や寮務が言うことも納得できます。そういう面でも寮長をやって少し成長できたかなと思っています。

もう少しで任期が終わりますが、あとひとつ何かを残せたらなと思っています。残りの時間は少なく難しいかもしれませんが、任期を全うして後味よく次の寮長にこの鹿児島高専寮を委ねたいと思います。

この1年の寮生会を振り返って

副寮長 電気電子工学科4年 尾ノ上太祐

去年の冬に副寮長になり、もうすぐその任期が終わろうとしています。（この原稿が載っているところには終わっているかもしれませんが・・・）とりあえず、文字数制限もあるので軽くこの1年を振り返ってみます。

この1年自分が見てきた今年の寮生会はなかなかヨイです。はい。各恒例行事も委員長を中心に早めに準備を始め当日になってドタバタするというのはなかった気がします。（あくまで気がします・・・）今年の委員長はしっかりしているなというのがこの1年感じた印象でした。

また、寮長の「寮を楽しくさせたい」という考えから、今年はかなり各個人の自主性に任せてきました。

例えば、1年生の入寮時です。寮生活を知らない新入生に寮で暮らすために必要な最低限のことを教えます（食堂の配置、風呂の範囲、洗濯物などなど・・・）。あとの事は同室の先輩に任せました。これには周りに注意されて生活するより、自分なりに寮生活の厳しさや楽しさを学んで欲しいという思惑もありました。

そのかいもあってか、例年より1年生同士が打ち解けあうのにも時間もかからず、それぞれが寮生活を楽しんでいたようでした。

しかし、自主制に任せるという私たちの体制が裏目にもなることもありました。特に1年生の問題が多かったのではないかと感じます。

まあ、私たちのやり方は、よく言えば「個人の尊重」、悪く言えば「放任」と言えます。今回は私たちの体制のメリット・デメリット、両極端に結果が出たんじゃないかなって思います。

そんなこんなでこの1年を振り返っていましたが、やはり、この1年寮生会の中で一番頑張っていたのは寮長です。イチローです。彼がいたから、しっかりこの志学寮のことを考えてくれたからこの1年を乗り切ることができました。イチローありがとな。

最後に、私たち全寮生を支えてくださった寮務委員の先生方、寮事務員の方々、魚国の方々に深く感謝します。ありがとうございました。

統括委員長の1年間

統括委員長 電子制御工学科4年 蜂須賀 洸

今年度、統括委員長をさせてもらった四年制御の蜂須賀です。

統括委員長というのは三役と言われ、寮長、副寮長の次に偉い役職です。その割に僕はあまり仕事をしませんでした。寮長の山本君をはじめ、寮生会のみんなには非常に迷惑をかけたと深く反省しております。

僕の主な仕事内容は定例会(寮生会の会議)や全体の集まりでの司会、朝点呼での寮生会のチェック、そして寮長のサポートなどが大まかな仕事内容なのですが.....

まず朝点呼。非常に出席率が低かったね。何度寮長に怒られた事か。

司会は割と頑張ったけど、なかなかうまくまとめられない時もありました。1番の原因は自分が話し合う内容を事前に確認しておらず、その場でいきなりって感じが多かったのがいけなかったですね。

最後に寮長のサポートだけど..。ほとんど何もしてないですね。彼は非常にしっかり者なので僕がサポートしなくても十分一人で頑張ってくれました。山本君はやる男です。イケメンです。そして偉大な寮長だったと僕は思います。僕はサポートの代わりに寮長の部屋にジュースを飲みに行っていました。そして僕の恋愛相談役になってもらったりもしました。簡単にいうと逆にサポートされていました。

まあなんだかんだで色々あったけどこの一年、寮生会で学んだ事は非常に勉強になったと思います。一年間ありがとうございました。

2007年の寮生活

生活委員長 機械工学科4年 小菌 超優

みなさんこんにちは。寮生会をしている小菌です。役職は生活委員長で主な仕事内容は自転車登録の運営、食堂との月1回の献立会への出席、第1志学寮の屋上の管理です。

交通ルールを守り、暗くなったらチャリの電気を点けましょう。そして好き嫌いせずなんでも食べましょう。

さて今年の寮での生活はというと、今年度より学校のカリキュラム変更のためお盆の前まで学校がありました。寮の部屋にはクーラーはありません。とてもじゃありませんがこのような状況では、勉強どころか寝ることもままなりませんでした。寮での対策としては、クーラーのある多目的ホール・食堂を開放してそこで勉強をする。電気の消灯を行わないで、一晩中扇風機を使用するというものでした。しかしそれでも暑いものは暑い。今年は幸いにも大きな病気になる寮生はいませんでした。が、前期末テストでは大きな失敗をしてしまった人も多かったのでは.....

これからの寮生活は、この夏をどう乗り切るかが一番の課題になってくるのではないのでしょうか。



寮生会役員



学寮リーダー研修

思 い 出

電子制御工学科5年 タイ ルエキアファイサン ナッチャポン

来日してから、約4年間、1年目は東京の東京日本語教育センターで、日本語を学んできました。まだ日本語をうまくできないまま、鹿児島高専の電子制御工学科の3年に仲間入りしました。

高専では、まわりの人が日本語学校のように外国人ではなく日本人なので、うまくコミュニケーションを取れるかが本当に不安でした。

ここに来て、初めのころは非常に緊張し、友達や先生とどうつきあえばいいかが分かりませんでした。また、初めて日本語での授業を受け、先生の話をつぜん聞き取れなく、なかなか思い通りにはいきませんでした。しかし、授業中の分からないところは先生に教えてもらったり、生活のことは先輩や友達に聞いたりして思ったよりうまくできました。本当に先生たちやクラスメイトに暖かく支えてもらいました。

高専での3年間を振り返ると、勉強だけではなく、クラスメイトとの交流や、九州各地での交流会などで、いろいろな人に巡り合い、様々な考え方や生活習慣に触れ、自分の世界を広げることができ、貴重な経験をしたと思います。

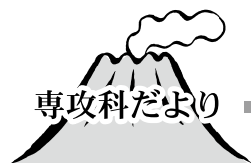
いつの間にか3年が経ちました。この高専で3年間の勉強や生活でいろいろなことがありました。すべてのことを忘れずに大事にします。鹿児島高専に来てよかったと思います。

将来タイと鹿児島の架け橋になりたいです。



▲▼寮生講話





専攻科における鹿児島県技術士会との 産学連携共同教育について

専攻科長 岡林 巧

専攻科における工学教育の改善充実策の1つとして、平成19年に鹿児島県技術士会と連携協力に関する協定を本校が締結し、ここに所属する技術士による全国55国立高等専門学校では前例のない産学連携共同教育を導入した『環境創造工学特別講義』を開講しました。

また、平成20年度には、同技術士による『技術者倫理』も開講いたします。

これらの科目は、異分野の3専攻生が融合・複合して



受講するもので、専門分野の異なる多数の技術士から基礎より最先端の技術に関する項目を幅広く聴講でき、今後各分野に展開して行く専攻科生の技術の伸張と人間性の涵養に大きく寄与するものであります。図1は、鹿児島県技術士会と本校の産学共同教育の体制を示しています。

技術士の専門部門は、機械、船舶、航空・宇宙、電気・電子、化学、繊維、金属、資源工学、建設、水道、衛生工学、農業、林業、水産、経営工学、情報工学、応用物理学、生物工学、環境の19技術部門があり、鹿児島県技術士会はこれら全部門を網羅しており充実した人員配置状況にあります。

このように、本校専攻科における工学教育の改善充実を推進してまいりますので宜しくお願いいたします。

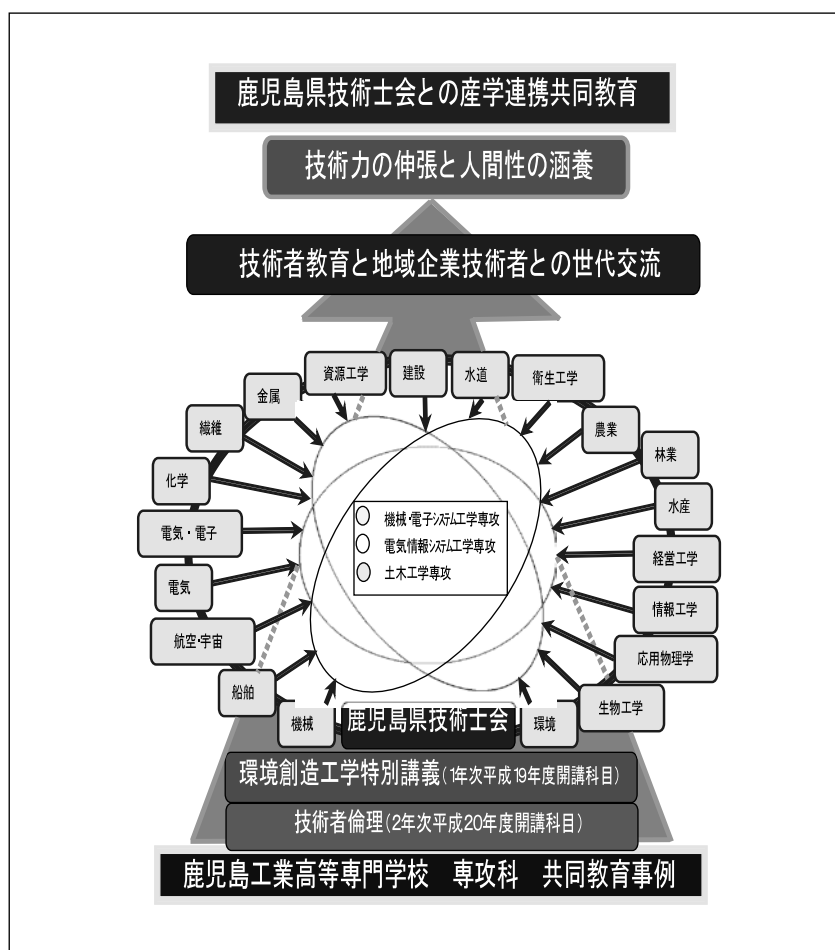


図1 鹿児島県技術士会との産学共同教育

電情シ専攻だより

電気情報システム工学専攻長 中村 格

修了生のみなさん、修了おめでとうございます。

早いもので、今回、電情シ専攻第7期生が巣立って行くことになります。まさに「光陰矢の如し」の言葉通りであると実感させられております。

この間を若干、数字で見たいと思います。電情シ専攻の修了者数は、図1のように推移しており、第7期生までで合計56名(年度平均8.4名)が修了しています(第7期生は修了見込者数)。

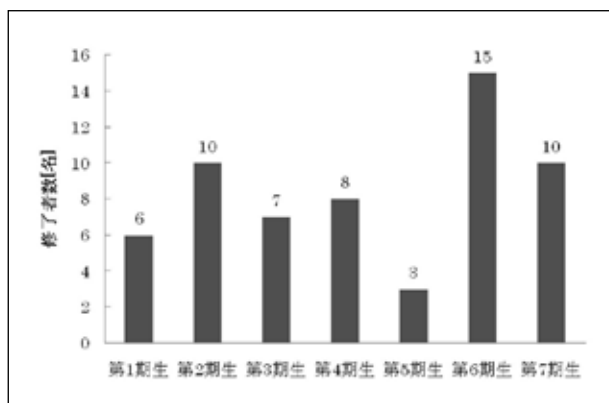


図1 電情シ専攻の修了者数の推移

この56名の進路先を見ますと、図2のように進学25%、就職75%となっています。業種は、情報・サービスが29%と最も多く、電機・半導体15%、機械14%、工事・保守・プラント10%、繊維・化学・薬品5%と続いています。本科時の学科が電気工学科(現電気電子工学科)と情報工学科であることも考えますと、各業種へバランス良く就職しているようです。このことは逆から見ますと、様々な業種(分野)において電気電子情報系の技術者が必要とされているということでもあります。また、今後大学院への進学者が増加していくものと予想され、推薦による選抜を実施する大学院が増加しています。これらのことは、本科卒業生と同様に、専攻科修了生の進路先での活躍があつてのことであると思います。今回巣立っていく第7期生も、それぞれの進路先で活躍されるものと期待しています。

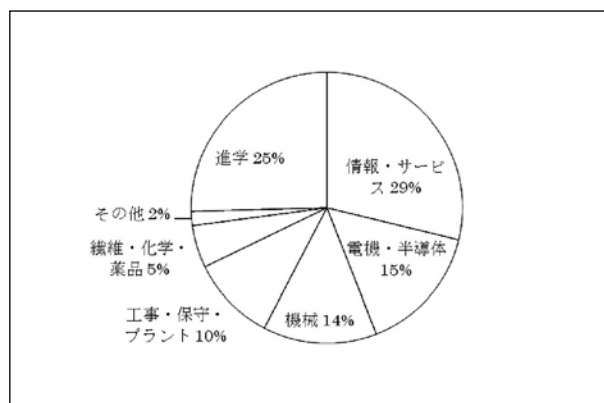
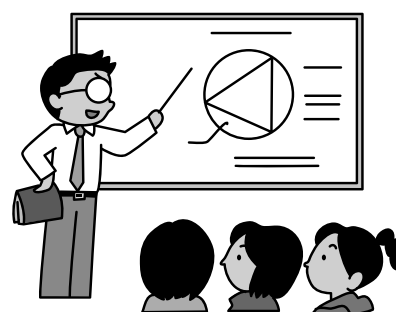


図2 電情シ専攻修了者の進路



機械・電子システム工学専攻の紹介

機械・電子システム工学専攻長 原田 治行

機械・電子システム工学専攻のカリキュラムは、主に機械工学科と電子制御工学科の本科卒業生に対して、専攻科がJABEE（日本技術者教育認定機構）から認定を受けた技術者教育プログラム「環境創造工学」の科目で構成されています。

具体的には、環境関連の科目と他専攻との専門共通科目と機械・電子システム工学専攻独自の科目群で構成されています。これらの科目を履修することにより、製造プロセスのシステム制御技術および他専攻の知識を用いて、資源を有効に利用し環境にも配慮しながら付加価値の高い製品の設計開発技術や研究能力を身に付けることを目指しています。

また、グローバルに活躍できる能力を身に付け、社会・企業の実情を知り、仕事や職業に対する興味・関心を高め、問題解決のための研究遂行能力やプレゼンテーション能力を向上させることを目指しています。そのため、以下のことを積極的に推進しています。

- ① 英文の論文や技術資料の輪講を行い、科学技術英語に慣れる。また、TOEICの評価が卒業時には400点以上になるように指導する
- ② インターンシップの経験を通して社会・企業の実情を知り、仕事や職業に対する興味・関心を高める。
- ③ 問題解決のための研究遂行能力を向上させるためのPBL（問題解決型授業）を行う。
- ④ 研究成果の学会発表を行い、プレゼンテーション能力を高める。

最後に、機械・電子システム工学専攻のカリキュラムを履修した第1期生から3月に卒業予定の第7期生までの主な進学先と就職先を、それぞれ、表1、表2に示します。

表1. 主な進学先（第1期生～第7期生）

大 学 院 名	人 数
九州工業大学大学院	10
九州大学大学院	4
長岡技術科学大学院	3
早稲田大学大学院	3
東京大学大学院	2
宮崎大学大学院	1
北陸先端科学技術大学院大学	1

表2. 主な就職先（第1期生～第7期生）

企 業 名	人 数
本田技研工業（株）	8
ソニーセミコンダクタ九州（株）	3
日本モレックス（株）	2
トヨタ車体（株）	2
（株）牧野フライス製作所	1
A N A テクノアビエーション（株）	1
いすゞエンジニアリング（株）	1
富士通（株）	1
日立ビジネスソリューション（株）	1
パナソニックエレクトロニックデバイス（株）	1
ソニーイーエムシーエス（株）	1
（株）森精機製作所	1
高砂熱学工業（株）	1
シチズンセイミツ鹿児島（株）	1

カセサート大学との交流活動報告

カセサート大学交流専門委員長 引地 力男

カセサート大学は、1943年にタイで最初の農科大学として創立された、教官数2,000名、学生数約23,000名、14学部の総合大学で、チュラルンコン大学、タマサート大学とともにタイで最も権威のある大学の一つです。この一年間のカセサート大学との交流状況について報告いたします。

まず、毎年恒例の春のスポーツ交流ですが、3月27日(火)、カセサート大学において、本校の学生会とカセサート大学のソフトボール部との交流試合を行いました。相手はなんとタイ・ナショナルチームのメンバーが3名も加入しておりました。当日は摂氏37℃を超える暑さの中8回までは2点差でリードしていたのですが、9回の裏に逆転サヨナラで、8対7でカセサートの勝利で幕を閉じました。試合後の大学内のホテルでのウェルカムパーティでは、お互いに打ち解けてたいへん盛り上がりました。本イベントはサッカー交流に始まり、剣道、ソフトボールと継続しております。これからもスポーツ交流もしくは文化交流を希望されるクラブ活動を募集しております。

次に、今年で3年目となりました、9月14日(金)から一週間実施した付属小学校での手作りロボット講座です。リンク機構を巧みに利用したインセクトサッカーロボット、ムエタイロボットに続き、今年はエアサッカーロボット作りに挑戦しました。無事全員完成し、生徒から来月は来ないのかとの盛況ぶりでした。なお、2002年11月15日に本校とカセサート大学とが初めて協定を締結し、今年で5年目となるため、出前授業の期間中に学長室を訪問し、協定延長に関する会議に出席しました。学長のプッティチャイ・カピラカーン先生はじめカセサートの先生たちはみな優しく親切でした。そして、これまでのスポーツ交流、学生会交流、出前授業、招聘講演、共同研究の実績をお互いに評価し、本交流は永久であることを希望、お互いの絆を一層深めていくことで合意しました。また、プッティチャイ学長先生は共同研究の活性化を熱望され、お互いの教員による研究室紹介を実施したいとの要請を承りました。

その他、カセサート大学国際交流専門委員会では長期休暇中のカセサート大学工学部インターナショナルコースへの短期留学(学費無料)の斡旋も行っております。お気軽に声をかけてください。



学生会ソフトボール交流



カセサート大学長との協定延長会議



JABEE教育プログラムの再認識 —継続認定審査を受けるにあたって—

特命統括員（JABEE担当） 原田 治行

① 継続認定審査

本校は、平成15年度に「日本技術者教育認定機構（JABEE, Japan Accreditation Board for Engineering Education）」に、「環境創造工学」技術者教育プログラムの新規審査を申請し、中間審査を経て認定されました。一度合格すれば、恒久的に認定されるものではなく、5年ごとに新たに認定を継続するための審査を受ける必要があります。平成20年度が継続審査を受ける年になります。審査は、5年間に技術者教育を継続的に発展させているかどうかを中心にチェックされます。また、5年間に審査基準も変更になっていますので、それに対応したチェックと改善が必要になります。教育プログラム改善委員会では、その準備を進めているところです。

② JABEEの審査を受ける意義

今回、継続認定審査を受けるにあたり、JABEE教育プログラムの審査を受けるための意義を説明したいと思います。

JABEEは、大学、高専などの高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会や国際的な要求水準を満たしているかどうかを公平に評価し、審査・認定する機関です。JABEEは国際的に認められた機構であり、JABEEの審査によって認定された教育プログラムを修了した修了生は国際的に通用する技術者として認められます。そしてそのプログラム修了生は技術者資格である技術士の第一次試験が免除され、技術者の基礎資格である修習技術者の資格が与えられます。

本校は、技術者教育を行っている高等教育機関であるために、教育プログラムが社会や国際的な要求水準を満たしていることを示す必要があります。

③ 国際的に通用する英語コミュニケーション能力の必要性

国際的に通用することを証明するために、TOEICの得点が400点以上あることも求められます。そのために、本校では3年生でTOEIC Bridgeを、4、5年生でTOEICを全員受験して日頃の勉強の成果の確認ができるようにしています。TOEIC Bridgeは、日常のコミュニケーションに欠くことのできない「基本英語力」を診断するテストです。一方、TOEICは社会における実践的な英語のコミュニケーション能力を診断するためのテストです。TOEIC 400点突破を目指す計画を立てて勉強に励んでください。

④ 技術者教育プログラム「環境創造工学」の履修期間

JABEEが認定の対象とする技術者教育とは、学士に対応する技術者育成のための教育を指しますので、高専の場合は本科4、5年（プログラム1、2年）と専攻科

1、2年（プログラム3、4年）の4年間の教育プログラムが該当します。

本科1、2、3年生は4年生に進級すると本校の技術者教育プログラムである「環境創造工学」教育プログラムの履修者になります。本科1、2、3年生でしっかりと基本的な知識と勉学への習慣・態度を身につけることが必要です。

⑤ 専攻科に進学しないので、JABEEと関係ないのでは？

次のような疑問を持つ人がいると思います。私は専攻科に行かないのでJABEEには関係ないと思うのですが？そのような疑問が生じるのは当然のことと思います。専攻科に進学せずに卒業した時点ではJABEE認定プログラムを修了したことにはなりません。

ある人は、本科5年まで修了したら卒業し、すぐに就職するつもりだとしましょう。そうだとすると、JABEEによって、技術者教育の品質を保証された教育プログラムを2年間経験しているのですから、JABEE認定でないそれを修了するよりも、その人はより良い技術者教育を受けられたということになります。

また、卒業後、しばらく働いた後に高専の専攻科や大学で勉強したくなった場合を考えてみましょう。そのとき、その人はその専攻科や大学のJABEE認定プログラムの3年目に編入しJABEE認定プログラムを継続することができるのです。

さらに、他大学に編入する場合、もし編入先がJABEE認定プログラム校であれば、本校で修得した4、5年生の単位が認められ、その大学を卒業すればJABEE認定プログラムを修了したことになります。

⑥ これからやってもらいたいこと

JABEE教育プログラムの学習・教育目標をいつも意識して、学校が用意したカリキュラムをみなさんがきちんとこなしていけば、本校のJABEE教育プログラムの学習・教育目標を達成できるようになっています。学校が提供する教育サービスを大いに活用し、勉強に励みましょう。

以下に、学習・教育目標を示します。また、図1に学習・教育目標の相関関係を、図2に専門工学のカリキュラム構成を示します。

鹿児島高専のJABEE教育プログラムの学習・教育目標

1. 人類の未来と自然との共存をデザインする技術者
 - (1-1)人類の歴史や文化を理解する
 - (1-2)人間社会と自然環境とのかかわりを理解する
 - (1-3)技術が社会に及ぼす影響を認識し、地球環境に配慮したものづくりが提案できる能力を身につける
2. グローバルに活躍する技術者
 - (2-1)日本について深く認識し、世界的な物事に関心をもつ

- (2-2)論理的な記述及びプレゼンテーション能力を身につける
- (2-3)外国語で意思疎通を行う能力を身につける
3. 創造力豊かな開発型技術者
- (3-1)数学、物理、化学など自然科学の基礎知識を身につける
- (3-2)自分の必要とするレベルで多様な情報機器を利用する能力を身につける
- (3-3)専門分野の知識と自主的継続的に学習する能力を身につけ、与えられた制約下で計画的にものづくりの手法を活かして問題を解決できる能力を養う
4. 相手の立場に立ってものを考える技術者
- (4-1)人としての倫理観を身につけ、善良な市民として社会生活を営む能力を養う
- (4-2)技術者が社会に対して負う責任を理解する
- (4-3)異文化を理解し尊重する

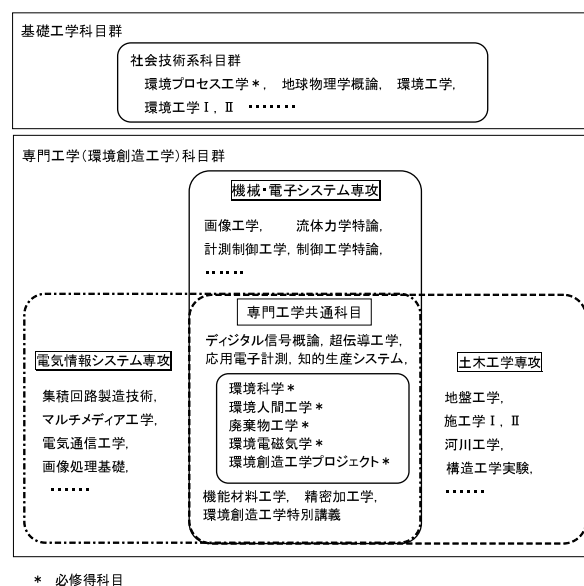


図2. 専門工学（環境創造工学）のカリキュラム構成

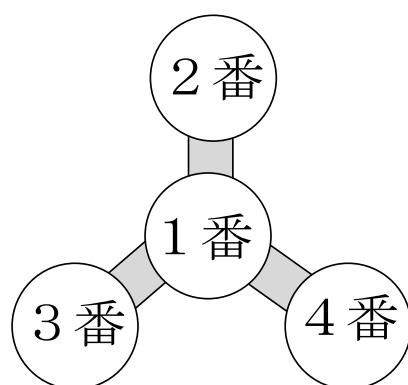


図1. 学習・教育目標の相互関係





留學生活動報告(2)

一般教育科文系 精松伸二

日頃より留學生活動にご理解、ご協力くださり、誠に有難うございます。「高専だより」前号で前期に実施された留學生活動をご報告致しましたが、ここではその後実施された活動をご報告致します。

1) 学内

- ・月ごとの留學生会合、チューター会合
- ・寮留學生パーティ 10/5 (金)
- ・高専祭 (留學生活動展示) 11/3 (土)
- ・クラスレクリエーション (3Eボリング大会) 11/14 (水)
- ・タイ語講座 (講師 5Sポン君) 毎週 (月)

2) 学外

- ・鹿児島地域留學生交流推進会議懇談会 (鹿大) 10/24 (水)
- ・ホームステイ (3Eキム君・知覧町) 12/1 (土) - 2 (日)
H.201/3 (木)
- ・留學生日本文化勉強会 (伊集院高校で書道教室、美山陶遊館で陶芸) 12/22 (土)
- ・九州沖縄地区留學生交流研修会 (佐世保市、長崎市) 12/25 (火) - 27 (木)
- ・南さつま市での交流会 (3Eキム君参加) 12/29 (土) - H.201/2 (水)
- ・国際親善ナニコ大会 (隼人町・洗心閣) 2/1 (金)
- ・外国人留學生支援意見交換会及び懇談会 2/29 (金)

留學生諸君が学内外を問わず行事に積極的に参加して、とても有意義であったという感想を聞いたときには、留學生担当の統括員として嬉しい限りです。

今後も専門分野の勉強だけでなく、諸行事を通して多くの方々との交流をも深めて欲しいと思います。



▲▼留學生パーティ



「自分らしい生き方」について

カウンセラー 森岡 玲子

相談室を訪ねてくる人たちの訴えはさまざまである。友人ができない、勉強に集中できない、親と衝突してしまう、気分が沈むなど……。一人ひとりが語るストーリーは一つとして同一のものはない。しかし、そのストーリーに耳を傾け、その気持ちに寄り添っていく中で見えてくる彼らの姿はどこか共通しているように感じる。それは「自分らしい生き方」を模索している姿である。

私たちは、自分らしく生きようとして時に混乱し、かえって自分らしさを見失ってしまうことがある。それは、出口のない迷路の中をさまよっているように不安で苦しい心持ちだろう。V. フランクルは、人間とは苦悩する存在であり、そのような苦悩体験にどのように対峙するかが重要な意味を持つと述べている。それは苦しいことであるが、本当の意味で自分を大切にすることなのだと思う。そしてその先に「自分らしい生き方」その人の「生きる意味」が存在している。

ある講演会で「本当の幸せ」とは自分自身であるという感覚、自分らしく生きているという感覚を感じられることだと語られていた。そしてそのような感覚をはぐくむのはホッと一人になる時間であり、それは「自分になる時間」「起きたまま夢を見る時間」であるとのことであった。そのような時間を過ごす中で「自分らしさ」が育ってくるのである。

私は相談室やカウンセリングも自分らしさを発見し育てていく場所であり、時間であると思っている。鏡を通してでしか自分の顔を見ることができないように、自分自身の心を見極めようとするとき、心を映す鏡が必要である。相談室という守られた場所で、カウンセラーという鏡を通して自分自身と向き合うという体験は、自分ひとりで自分自身と向き合うのとは異なる新たな自分自身の側面を発見するきっかけとなるだろう。その発見された新しい自分もまた「自分らしさ」の一部である。

「自分らしい生き方」は簡単に見つけることはできない。できないけれども、一人での「自分らしさ」探しと信頼できる相手との「自分らしさ」探しを繰り返していく中で発見できるものだと思う。ゆっくり、じっくり自分と向き合い、大切に生きていくことが「自分らしい生き方」へとつながっていくのだと思う。

私たちは外側の時間の流れに乗りながら生きている。時には自分自身の時間の流れの中で過ごしてみてもいいのかもしれない。

《相談室の利用方法》

開室時間は平常授業日の15:30から17:00までです。

相談員はカウンセラーの先生と本校教職員です。毎月、相談員の名前の入った予定表が各クラスに配布されます。カウンセラーの先生は月4回です。時間については予約もできますので、保健室に申し込んでください。直接相談員の部屋に行ってもかまいません。ただし、他の用事と重なっている場合もありますので、そのときは別の時間を予約してください。学生さんだけでなく、保護者の方からの相談も受けております。

メールによる相談受付も行っています。

メールアドレスは soudanshitsu@kagoshima-ct.ac.jp です。

平成19年度 学生何でも相談室担当

担 当	氏 名	連 絡 先
室 長	三原 めぐみ	0995-42-9057(直通)
相 談 員	松田 忠大	0995-42-9044(直通)
相 談 員	吉満 真一	0995-42-9089(直通)
相 談 員	入江 智和	0995-42-9099(直通)
相 談 員	池田 正利	0995-42-9123(直通)
相 談 員	佐々木正司	なし(退職教員)
相 談 員	持原 稔	なし(退職教員)
カウンセラー	平川 忠敏	なし(非常勤)
カウンセラー	森岡 玲子	なし(非常勤)
相談補助員	南田 直子	0995-42-9017(保健室)

科研（若手研究B）の成果

電気電子工学科 小迫 雅裕

平成17年度～18年度に科研費・若手研究（B）を頂いたので、その成果についてご紹介します。研究題目は、「高熱伝導・電気絶縁性のポリマーナノコンポジットの創製と適用評価」です。

H17年度は、ナノ粒子高速分散機一式を新規導入し、入手した市販の汎用エポキシ樹脂および高熱伝導ナノフィラー（今回は、ペーマイトアルミナを使用）を混合して、ナノコンポジット試料を独自創製した。比較対象として、無添加エポキシ樹脂およびマイクロフィラーを添加したマイクロコンポジットを作製した。走査型電子顕微鏡を用いてナノフィラーの分散状況を確認した。電気的特性として、電気トリー寿命をワイブル分析を用いて評価した。その結果、短時間の電気トリー寿命はナノフィラー5 wt%添加で265 %向上することがわかった。また、シランカップリング剤（トリメトキシビニルシラン）が前処理されたナノフィラーが5 wt%添加されることで破壊時間が更に向上することが明らかになった。熱的特性として、最重要目的である熱伝導率を評価した。ベース樹脂の熱伝導率の0.20 W/m/Kから、ナノフィラーを10wt%添加しただけで0.23 W/m/Kに向上することがわかった。

H18年度は、前年度の研究実績を踏まえてデータ蓄積に努めた。ナノコンポジットの熱伝導率は、従来手法である高熱伝導性のマイクロフィラーを多量充填したマイクロコンポジットの熱伝導率には到底及ばないことが明らかになったため、そのマイクロコンポジットの諸特性をさらに向上させるべく、少量ナノフィラーをマイクロフィラーの隙間に追加添加した試料を新たに独自に創製した。フィラーはアルミナおよび窒化アルミニウムに絞り、サイズは100 nm、1 μ m、30 μ mの3種類を用いた。ナノフィラーとマイクロフィラーの組み合わせと配合比を検討し、約10種類の試料を作製した。電気トリー寿命のワイブル分析結果より、最適なフィラー種類とナノサイズとマイクロサイズの最適な混合割合を選定することによって電気トリー寿命を最長にできることが明らかになった。耐部分放電性も同様に向上できた。熱伝導率を評価した結果、ナノ・マイクロ複合フィラーによるコンポジット試料は1.6 W/m/Kを上回る結果が得られた。最後に、本研究の成果として、ナノ・マイクロ複合フィラーによるエポキシ・コンポジット試料を作製することで、熱伝導性と電気絶縁性の双方を同時に向上できると確認することができた。今後、更なる研究成果に繋がっていきたい。



桜島火山灰の養浜土砂としての 利用価値を検証する基礎的研究

技術室 長山 昭夫

この研究は、桜島火山灰が砂防ダムや桜島周辺の河口付近に堆積していて処理に困っていると耳にしたことから始まりました。養浜土砂に使えるかも！と思い、奨励研究に応募し採用されました。研究の詳細は鹿児島工業高等専門学校研究報告第42号に掲載されています。ここでは研究概要を説明したいと思います。

この研究で使用した桜島火山灰は純粋な火山灰ではなく桜島にある野尻川河口付近に堆積したもので正確に桜島流下土砂といいます。発生土砂量は気象条件や火山活動にかなり左右されます。現在では主に人工島の埋立てに使われています。

養浜とは、簡単にいうと波浪の影響で砂が無くなるという海岸侵食を受けている砂浜に人為的に砂を供給して砂浜を回復させてやろうという海岸保全工法で主に米国や欧州で頻繁に採用されています。日本では予算制度の問題や法的整備不足などハード面の問題と国内養浜材料不足や既存環境への影響といったソフト面での問題点があり、なかなか採用されにくい工法ですが、景観などの社会的要望の高まりにより将来的には頻繁に採用される海岸保全工法のひとつになると思います。

これからも教育・研究を通して微力ながらも社会に対して貢献できたらと思います。最後に、この研究に関して本当に色々な方々に協力していただきました。紙面を借りて謝意を表します。

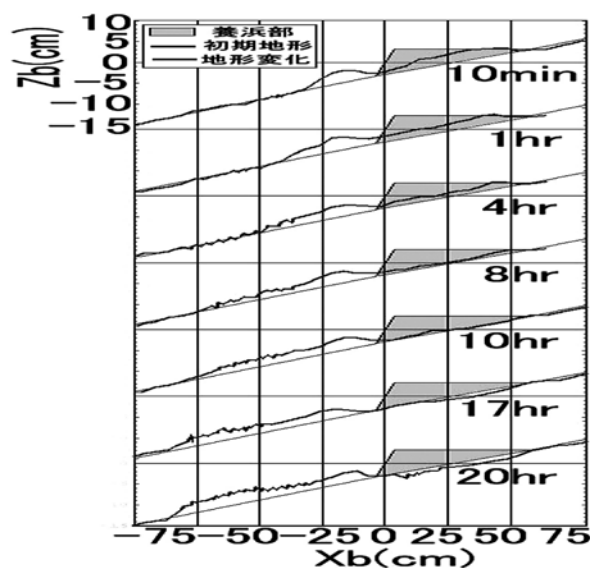


www.cbr.mlit.go.jp/a_kengi/reduction/exmp/01.pdf

養浜の様子



造波水路による実験



銃断面変化の経時変化



贈る言葉

情報工学科 5 年担任 堂込 一秀

5年間の教育課程をすべて修了し技術者として巣立っていく諸君に、心からお祝いを申し上げます。また、これまで暖かく見守ってこられた保護者の皆様には、大切なお子様の教育を私達に委ねていただいたことに厚く御礼申し上げます。

1987年度に生まれた諸君は、いわゆる「ゆとり教育」が適用された「ゆとり世代」と言われています。もっとも、ゆとり教育という言葉は、1980年度に学習内容と授業時間数が削減された学習指導要領が施行されたことに始まり、1992年度からの学校週5日制の開始、2000年度の総合的な学習の時間の導入、2002年度の内容が3割削減された学習指導要領の施行と続く、長い年月をかけて行われた我が国の教育制度改革の基本理念を示す言葉です。したがって、諸君の世代だけがゆとり世代というわけではありません。しかし、学力低下の懸念を招いたという意味で象徴的だった、2002年度の学習指導要領が適用された最初の集団ということで、さまざまな場面で注目されてきた学年といえるでしょう。

実際、諸君が本校に入学した2003年度には、1年生の科目を担当する先生を中心に、中学校で削減された学習内容を補うための様々な対策が行われました。私の担当する科目（情報基礎）でも、中学校で2進数を習わなくなったことなどに配慮して、授業内容や教え方をかなり変更しました。しかし、このような対策を施したにも関わらず、前期中間試験の平均点が前学年に比べて低下したため、正直なところ、学習内容の削減は学習する力そのものの減退につながったのではないかと不安を感じながらのスタートとなりました。

それから5年。諸君は様々な意味で大きく成長しました。1年生の時に私が感じた不安は杞憂に終わり、諸君は、学年が進むにつれて先輩達と遜色のない実力を身に付けました。特に、プレゼンテーションの場面では、先輩達に比べて優れた能力を発揮する人の割合が多いと感じます。また、就職活動についても、景気の回復と団塊の世代の定年退職をきっかけとして、企業の採用意欲が非常に高い時期に就職活動を行うことができました。時代の運ということもありますが、希望通りの会社内定をもらった人が多かったのではないのでしょうか。しかし、長く続いた不景気の時代に企業が身に付けた「実力のある人材だけを採用する」という方針は変わっていないのも事実です。この難関を突破した諸君は、やはり実力のある前途有望な人材というべきでしょう。

さて、「虎災愛命偽」という漢字は、何のことか分かるでしょうか？これは、毎年12月12日に発表される「今年の漢字」を、諸君が本校に入学した年から順番に並べ

たものです。今年の漢字「偽」は、主催の日本漢字能力検定協会によると、「相次ぐ食品偽装問題、政界に多くの偽り、老舗にも偽装が発覚、他にも多くの業界に「偽装」が目立った年」であったというのが選定の理由だそうです。

現代の科学技術は高度に専門化したため、その専門知識のない多くの人々には全く理解できなくなっていました。諸君は高度な専門知識を備えた人材として社会に出ていくわけですが、「偽りのない行動」こそ、専門知識という大きな力を得た人間に課された使命だと心得て欲しいと思います。逃げない、ごまかさない、嘘をつかない、確信を持ったことだけを誠意をもって言う、当たり前のことを当たり前にやる。この積み重ねだけが、諸君を信頼される技術者に育ててくれる唯一の方法です。現代の科学技術には、解決しなければならない課題が山積みになっていますが、諸君の活躍によって、我が国と世界の科学技術がより良い社会を実現することを期待しています。

最後になりますが、クラス運営に協力を頂いたすべての教職員と関係者の方々に、また、何より卒業生諸君自身とその保護者の皆様に、各学科の担任を代表して御礼を申し上げます。

5年間の自分を振り返って…

機械工学科 5 年 今里 竜成

早いもので、入学から5年が経とうとしています。私は学生生活を終え、自動車関連企業に就職します。小さい頃からの夢であった「日本の素晴らしい技術でできた乗り物を全世界に広める事」にまた一歩近づくことができました。技術立国日本を支える技術者の一人として頑張っていきたいと思います。

最後の学生生活となる高専生活5年間、私は部活動に徹してきました。入学してメカトロニクス研究部に入部し高専ロボコンをしてきました。中学時代にロボコンを経験した事や、兄が居たこともありすぐ打ち解けることができました。

私達は5年間で3度の全国大会に行くことができました。2005年度は全国大会ベスト4、技術賞獲得。また、私が部長を務めた2006年度は九州大会が地元鹿児島で開催され、2チームで優勝、準優勝、技術賞を獲得することができました。父兄やOB、後援会や地元の方達が見守る中、自分達の設計・製作したマシンで成果を挙げることができた時は嬉しさと達成感を噛み締めることができました。ロボコンでは、部品を製作する技術だけでな

く、物事の考え方やチームマネジメントなど様々な事を学ぶことができました。時には講義で学んだ事が役に立ったり、ロボコンを通して学んだ事を再び講義で学んだり、多くの事を学びました。特に部長としてチーム運営に関わった事は人間性の成長に大いに役立った気がします。「常に考える事、いかなる可能性も考慮する事、結果のために手間を惜しまず最大限に努力する事、少しでも新しい事にチャレンジする事」このようなスタンスで後輩達も頑張ってくれる事を期待します。

4月からは社会人の仲間入りです。学生と違い、社会人は常に責任と隣り合わせです。もちろん不安もありますが期待もあります。大きな仕事や自分の好きな仕事、やりがいのある仕事を任せてもらえるよう精一杯頑張りたいと思います。

最後に、ご指導いただいた機械工学科をはじめとする先生方、技術職員の方々に感謝の意を表したいと思います。

5年間本当にお世話になりました。ありがとうございました。

卒業にあたって

電気電子工学科5年 森永 和也

鹿児島高専に入学して早5年がたった。入学当初は親元を離れての寮生活など大変な事が多かった。そんな中、同部屋の先輩、部活の仲間、そして何よりクラスメートに恵まれ、楽しく学校生活を送ることができたと思う。

1～3年では野球部に所属し、文武両道に励んだ。最後の夏の県予選の後に退部したが、その後も変わりなく話しかけてくれる仲間の優しい声がとても温かかった。

4年の時は電気主任技術者の試験に挑戦し、合格することができた。また、最後の体育祭では応援団の部門で優勝し、最高の思い出になった。工場見学では大阪へ行き、大手企業の工場を見学でき、進路決定の参考になった。帰省の飛行機が悪天候のため飛ばず、数人でファミレスで一夜を過ごしたのも今となってはいい思い出である。

5年の時は何とんでも大学入試があった。就職するか進学するかで悩んでいたが、担任から長岡技術科学大学の特待生の話を受け、興味深い研究室があることを知り、受験することを決意した。スーパーVOS特待生として合格することができたのも、電気電子工学科の先生方の日頃の指導によるものだと思う。12月には福岡での応用物理学会に参加し、はじめて学会の空気を味わうことができた。直後の中間試験はボロボロだったものの、来年からの大学生活に大きな自信となった。また、今年は

クラスの総務をさせてもらった。とにかくこのクラスは元気があり、楽しいクラスであった。時間が経つのは速く、もう卒業の時期になった。就職や進学でみんなばらになってしまうが、みんなにも共に過ごした時間を忘れないで欲しい。

あっという間の5年間であったが非常に充実して思い出が詰まった5年間であった。鹿児島高専の電気電子工学科に入学して、素晴らしい先生方や最高のクラスメートに出会えてよかった。卒業後もここで学んだことを生かしていきたい。

五年間を振り返って

電子制御工学科5年 芝 健一

朝四時に起きて、ドライバーで先輩のソックスを無心で乾かし、グラウンドを整地して、六時には練習がスタート。サッカー部の1年生は大変です。合宿所の洗濯機が二層式のときは、ホントに泣きそうになりました。

私は五年間サッカー部でした。多分、一番下手な部員でした。試合に出ると、チームメイトからシュート禁止令と、ドリブル禁止令が、でました。あんまり言うといタイ話になるので、やめておきます。

でも、最高の五年間でした。みんな、チームのために燃えました。今は、引退しましたが、忘れちゃいけないことを、たくさん学ぶことができました。

学校生活で思い出に残っているのは、毎週ある実習の時間です。溶接では、酸素のネジを逆に回したり、ロボットアームで隣の人の頭をかすめたり、いろいろ失敗もしましたが、真剣に取り組んだ分、楽しさが倍増しました。来年からは専攻科に進むことになります。サッカー部でやったように、専攻科でも何かにバカみたいガンバってみたいです。

夢は、世界平和に貢献できる技術者です。世界には貧富の差が大きい国がたくさんあったり、食糧、水、不足が原因で戦争が起こったりしています。そのような問題を、解決する力になろうと思います。そのためにも、しっかり勉強して、基礎を固めたいです。特に制御系の分野に興味があるので、理解できるまでやっていきます。また、語学力もつけ、専攻科在学中に海外に行こうと考えています。サッカー部時代、毎日こつこつやった練習や、自分なりに考えた練習が、自分の力になりました。専攻科でも、授業を理解して、毎日制御系の勉強と、英語の勉強を、やっていきたいです。

下手でも、諦めないで夢に向かって、粘り強くいきたいです。

高専生活を振り返って

情報工学科 5 年 安藤香菜美

鹿児島高専に入学して早5年の月日が流れました。

思い出はたくさんありますが、特に心に残っているものを紹介していきたいと思います。

まず、1年生での全国高専大会。地元開催で全国優勝という快挙を、先輩方が目の前で見せてくれました。あの時にもらった感動は、今でもはっきりと覚えています。そして何より「やればできる」という大切なことを教えてくれました。

次に、3年生の春休みに行ったカナダへの語学研修。初めての海外という事もあり、緊張と不安でいっぱいでしたが、多くの人々のやさしさに触れることができ、とても温かな時間を過ごすことができました。ホームステイ先は、もう1度帰りたいと思わせてくれる素敵な家族でした。自分にとって、とても貴重な経験だったと思います。

4年生の高専祭では、櫓(やぐら)絵で「イチロー選手」と「ゲド戦記」を描いて優勝することができました。あんなに大きなモノを仕上げた時の達成感は、これから先なかなか味わうことのできないものでしょう。

そして、5年生での就職活動。行きたい会社は3年生くらいの頃から決まっていました。しかし、初めはわからないことだらけで、何をしなければならないのか、どうすればいいのか全くわかりませんでした。でも、たくさんの先生方に助けていただき、自分のなりたいものに就くことができました。自分にその仕事ができるのかどうか大きな不安はありますが、新しい場所で頑張りたいです。

入学当初は「5年もある」と思っていた、高専生活が終わろうとしています。ここで出会った人達に会えなくなる、ここになかなか来られなくなることはとても寂しいですが、同時に大きな充実感もあります。ここで得たもの、学んだことをこれから生かしていきたいです。最後に、鹿児島高専でご指導頂いた先生方、そしてこれまで支えてくれた両親に、この場を借りて御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

卒業にあたって

土木工学科 5 年 上三垣かおり

この鹿児島高専に入学してからもう5年も経つようです。いま振り返ってみると本当に短い時間だったと感じます。わたしは実家が土建屋であるということもあって親近感のある土木という学科を選びました。専攻は？と人に聞かれて答えるといつも驚かれる土木ですが、5年間勉強してみて本当にこの学科にしてよかったと思っています。

入学当初の高専の印象は女の子が少ない！でした。5年間も長いよーって思っていたんですが、実際生活してみると高専祭・工場見学・クラスマッチ等のイベント事もクラスも先生方も面白く、あっという間でした。寮に入ったこともあって違う学科の友達もでき楽しい時間を過ごせました。

勉強面については、授業でたまにのんびりした空気に耐えられず眠ってしまい注意されることもありましたが、ノートだけはしっかり取り試験前は計画を立てて復習していました。それから中学の頃から苦手だった英語だけは少しずつ勉強していました。

1年のときから漠然と大学編入を考えていたのですが、しっかり考えだしたのは4年になってからでした。大学の試験内容など調べれば調べる程、もっと真剣に授業を聴いていれば良かったと後悔しました。それに気づいてからは休みの日なども全ての空き時間を返上して勉強しました。先生方にはお忙しいなか解説をしていただき迷惑をかけてしまいました。大変助かりました、本当に感謝しています。

最後に、志望していた名古屋大学へ進路が決まり、周りの支えがあるからこそ今の自分があるんだな、と心から思いました。高専生活は多くのことを経験でき、多くの人と知り合い、多くのことを得ることができ、とても充実したものでした。ここを卒業しても高専で学んだことや思い出を忘れずに頑張って成長していこうと思います。5年間一緒に過ごした友達、お世話になった先生方、職員の皆様、本当にありがとうございました。

専攻科を修了するにあたって

電気情報システム工学専攻2年 大迫 奏枝

2年前、進路を決める際、私は就職を考えていました。しかし、未熟である自分がこのまま就職していいものかと悩みました。そして、悩んだまま就職するよりはしっかり勉強したいと思い、専攻科へ進学を決めました。専攻科への進学は他の大学への編入と違い、周囲の環境に大きな変化がありません。刺激が少ないといえそうですが、落ち着いて勉強や研究に取り組むことができます。また、少人数制なので、講義でわからないところなどがあれば気軽に質問することもできました。

専攻科1年目は授業がびっしりと詰まり、毎週レポートに追われ、目まぐるしい日々を過ごしました。2年目は授業数がぐっと減り、時間に余裕はできるのですが、学外発表や、学位取得対策の勉強などやるべきことは多くありました。専攻科では、大卒の資格を得るために、学位授与機構の試験を合格しなければなりません。試験には論文審査と小論文試験があり、小論文試験は自分の研究に関わる事項全てが範囲なので勉強が大変です。先生方に想定問題を作っていただき、毎日コツコツとそれを解くことで、自分の研究に対する理解を深めました。

そして卒業後は、鹿児島県内の企業に就職が決まっています。就職活動では、学校推薦もありましたが、私は自由応募で、様々な会社の見学会や、説明会に参加しました。そこで会社の多様さに驚いたり、他の大学の学生と高専生との違いにとまどったりしました。本科生でも、会社見学会や説明会に参加してみたほうが、自分の世界が広がり、良い経験になると思います。私は今でもまだ未熟であることは変わりませんが、就職活動を通して、社会へ出ていく心構えはできたと思います。4月から、新社会人として頑張りたいと思います。

最後に、担当教員として指導してくださった加治佐先生をはじめとする多くの先生方、そして高専関係者の皆様に、感謝します。今まで本当にありがとうございました。

修了するにあたって

土木工学専攻 現王園真二

専攻科に進学してからの日々を振り返ってみると、長いようであつたという間に過ぎた2年間だったと思います。

私の専攻は土質力学で、研究のテーマは「桜島における流出土砂の非排水三軸圧縮・伸張せん断特性」です。この研究では、現在人工島の埋立用材として有効利用されている桜島流出土砂が、地震時に液状化を起こした場合を想定し、実験によって地震時の桜島流出土砂の物理的な性質を明らかにする事を目的としています。5年生時の卒業研究を引き継いだので約3年間この研究に携わってきましたが、初めの内は研究に対する知識がほとんど無く、実験も何度もやり直しを行うなど、失敗の連続でした。しかし専攻科に進学してからは指導教員の岡林先生をはじめ各先生方のご助力を頂きながら、研究に対する理解を徐々に深めていく事ができ、充実した研究活動を過ごすことができました。また研究室の後輩を指導する事によって、教える事の難しさや、自分の伝えたい事を理解してくれた時の嬉しさを経験できました。

研究以外でも、本科で学ぶ事柄より更に高いレベルの講義を受けたり、学会発表や学位論文試験、TOEIC試験など難しくもやり応えのあるものが沢山あり、充実した学生生活を送る事ができました。一人では解けない難しい問題もありましたが、各先生方に直接指導して頂いたり、同級生の友人たちと話し合いによって解決できた事もありました。友人たちには勉強以外の様々な事でも助けられ、彼らのお陰で自分の学生生活はとても楽しいものになったと思っています。専攻科を修了した後は友人たちと会える機会も少なくなってしまうと思いますが、これからも変わらない付き合いをしていきたいです。

このように私は鹿児島高専に入学してから修了するまでの間に、多くの事を学ぶ事ができました。特に、目的に向かって努力を続ける事と、人とのつながりを大切にする事は就職して社会人の一員になっても重要な事であると思います。これからも、専攻科の2年間と本科の5年間を通して得た事を忘れず、常に向上心をもってチャレンジしていきたいと思っています。

最後に専攻科への進学を志している後輩の皆さんに、一言アドバイスを送ろうと思います。専攻科は努力を忘れず研究や講義に一生懸命取り組めば、必ず自分の力になる環境がそろっています。是非、目標をしっかりと見据えて、有意義な学生生活にしてください。

－卒業研究テーマ一覧表－

<機械工学科>

No	卒業研究テーマ名	指導教員	卒業研究生
1	積層粒体の崩壊過程に関するシミュレーション	池田 英幸	有村 拓哉
2	積層粒子の崩壊過程に関する実験的研究	池田 英幸	鎌田 直人 鎌田 洋彰 潮崎 諒
3	熱交換器のヘッダ形状による圧力損失特性	江崎 秀司	海田 真行 田中 淳平
4	管列および液滴分離板の流動抵抗ならびに気流による液滴の飛散特性	江崎 秀司	内蘭 誠 豊留 堯之
5	柔らかいフィンをもつ円管から流出する噴流	中島 正弘	増田 広豊
6	往復振動流を用いた噴流の拡散制御	中島 正弘	中萩 健志
7	振動円柱まわりの流れ	中島 正弘	有上 裕志
8	農業用揚水装置の開発	中島 正弘	加治屋建太 斜木 昂
9	垂直加熱平板まわりの直交流共存対流の流動と伝熱	三角 利之	久保 勇太
10	上向き傾斜加熱平板に沿う並行流共存対流の流動と伝熱	三角 利之	福田健志郎
11	木製楽器の材料と構造による音色の評価	塚本 公秀	大坪 和也
12	バイオリン製作を通しての伝統的木工技術の知識獲得	塚本 公秀	宇都 翔太 湊 将吾
13	ものづくり基礎教育に適した分解組み立て実習方案及び教材の検討	塚本 公秀 山本桂一郎	今里 竜成
14	衝撃水圧を用いた深絞り加工の研究	南金山裕弘	有川 哲也 高 友明 長谷 寛成
15	共削り加工における加工面品位に関する研究	引地 力男	西村 聖也 増田 陽介
16	連成運動翼に関する研究	田畑 隆英	瀬戸口誠司 森山 卓
17	非軸対称ノズルから流出する噴流	田畑 隆英	上山 慧 草道 聡
18	微細気泡発生装置に関する研究	椎 保幸	斎藤 翔二 下村 哲也
19	微細気泡流の流動特性に関する研究	椎 保幸	馬田 宙 藤井 卓也
20	高速流動研磨法における超音波援用による砥粒拡散の効果	山本桂一郎	地久里紀博 橋口 大樹 松下 周史

－卒業研究テーマ一覧表－

<電気電子工学科>

No	卒業研究テーマ名	指導教員	卒業研究生
1	「昇圧チョッパ付高電圧化インバータのチョッパ制御法」	本部 光幸	桑波田卓也
			新山 陽平
			町野 真吾
2	「菜種油の誘電・絶縁特性評価」	中村 格	久保 元志
			盛重 文祥
			吉川 順平
3	「LED照明における高調波の挙動」	中村 格	中園 琢巳
			西方 宏輔
			前村 直人
4	「class A レーザーカオスに対する偏光の影響」	栞島 史欣	楠本 健人
			谷川 潤弥
			村山 大樹
5	「レーザーカオスを用いたTHz 波の発生」	栞島 史欣	新納 誠
			野中 孝樹
6	「黒色色素に対する高吸収率レーザーの検討」	栞島 史欣	有村 侑恵
			森永 和也
7	「rf スパッタリング法により作製したBi系超伝導薄膜の電気的特性におけるIn-situアニール効果」	奥 高洋	秋野 瑞輝
			亀田 卓
			後藤 優太
8	「表面拡散に関する分子動力学シミュレーション」	今村 成明	井手 保博
			山之内翔勇
9	「エポキシナノコンポジット絶縁材料の創製と熱的特性の評価」	小迫 雅裕	坂野 優貴
			西村 裕樹
10	「電力用変圧器の絶縁診断を目指した部分放電の超音波信号特性」	小迫 雅裕	井料 英明
			竹中 大悟
11	「太陽光発電システムの高効率利用に関する研究」	檜根 健史	上ノ原睦之
			田之上幸生
			宮崎 弘裕
12	「DSPを用いた誘導電動機のベクトル制御システムの設計」	逆瀬川栄一	内山 亮太
13	「位置センサレス制御永久磁石同期モータの特性解析」	逆瀬川栄一	角 仙一
14	「遺伝的プログラミングにおける螺旋交叉の研究」	前薊 正宜	畦地 一輝
			観音寺 翼
			福元 翔平
15	「BaTiO ₃ セラミックスの電気的特性に及ぼすB ₂ O ₃ 添加の影響」	加治屋徹実	隈元 龍哉
			福元幸士郎

－卒業研究テーマ一覧表－

<電子制御工学科>

No	卒業研究テーマ名	指導教員	卒業研究生
1	かしめ締結における塑性流れ制御に関する研究	植村 眞一郎	北原 謙次 田畑 昂祐
2	プラスチック切削加工排水のろ過装置の開発	植村 眞一郎	大工 先 横峰 達也
3	CCD画像による小径回転工具挙動の可視化システムに関する研究	河野 良弘 吉満 真一	釜付 鉄也 徳永昌也 徳丸 聖吾
4	工作機械構造の熱変形に関する研究	河野 良弘 吉満 真一	武 直輝 堀 広大
5	数値解析による楽音処理（音響効果）の研究	坪井 克剛	池澤 慎吾 茅原 誠
6	数値解析による楽音処理（電子音楽用音源）の研究	坪井 克剛	水口 竜太 向井 めぐみ
7	P I Cによる小型二足歩行ロボットの基礎研究	原田 治行	猪原 祐太郎
8	脳波計測による快・不快の感性分析	原田 治行	神崎 祐希 後藤 あい 佐賀 祐太
9	組み込み用マイクロプロセッサを用いた計測器の製作	原田 治行	大江 貴弘 鳥飼 昌邦
10	リモートセンシング（衛星観測画像）の応用に関する研究	宮田 千加良	松原 裕司
11	衛星画像処理プログラムに関する研究	宮田 千加良	居迫 武志
12	倒立振子に関する研究	宮田 千加良	芝 健一 Luekiatphaisan Natchapon
13	時間割作成プログラムへの入力用データテーブル作成に関する研究	宮田 千加良	下川床 潤
14	磁性体角筒を併用したMR I用オープンタイプ磁気シールドルームの検討	鎌田 清孝	迫 精伍 永田 裕二 野川 拡希
15	遺伝的アルゴリズムを用いたマルチエージェントシステム構築に関する考察	岸田 一也	内田裕太郎 富田真宏
16	ファジィ推論ルール of 自動構築に関する研究	岸田 一也	上原 太陽 宇都 裕紀
17	エンドミルのたわみに起因する加工誤差の推定	島名 賢児	児島 諒昭 福永 浩介
18	CAEを用いた製品設計	島名 賢児	赤谷 拓広 水元 優佳
19	ワンチップマイコンの簡易プログラミングに関する研究	室屋 光宏	岩下 直樹 松元 拓馬
20	表計算ソフトによるDCモータ制御シミュレーションに関する研究	室屋 光宏	小城 慎治 久永 健太
21	デジタル画像から有意なパターンを認識する手法の研究	福添 孝明	中森 綾香

－卒業研究テーマ一覧表－

<情報工学科>

No	卒業研究テーマ名	指導教員	卒業研究生
1	オンライン手書き文字における屈曲点の抽出方法の検討	榎園 茂	正徳 巧
2	手書き文字認識過程の簡易支援システムの作成	榎園 茂	竹之内 洸輝 東 雄太
3	USBカメラを用いた入退車両の同定	加治佐清光	奈須 康作
4	USBカメラ画像のWeb配信	加治佐清光	地福 英敏
5	ネットワークカメラを用いた入退車両の同定	加治佐清光	宮原 崇
6	磁気刺激コイルの配置による誘導電流分布の影響	玉利 陽三	深見 和也
7	磁場曝露が植物発芽及び成長に与える影響	玉利 陽三	安藤 香奈美 田代 智哉
8	エアーポンプの無音化	幸田 晃	今熊 由貴
9	雨量と雨音の相関に関する研究	幸田 晃	重村 理恵
10	創造教室における、PICを使用したテーマの開発	幸田 晃	西原 佳恵
11	嚙下音による飲食物等の判別に関する研究	幸田 晃	三窪 亜沙美
12	Si MOS特性の応力効果シミュレーションプログラムの開発	山田 一二	久保 聖美 萩内 七重
13	グループ開発型TRIZソフトの開発	山田 一二	千知岩 達也 森 拓郎
14	FPGAを用いた学生実験用MPUの開発	芝 浩二郎	河野 拓弥
15	画像処理による囲碁棋譜自動生成システムの開発	芝 浩二郎	折田 佳祐 銚之原 健一郎
16	コミュニケーションにおけるインタラクション解析システムの開発	新徳 健	川畑 大樹 廣田 未央 森 昭人
17	OpenCVによる動画像認識とその応用	堂込 一秀	穂園 力也
18	OpenGLを用いたネットワーク状態の可視化	堂込 一秀	内園 教之
19	学生実験用MPU向け言語処理系の開発	堂込 一秀	隈元 律智
20	加速度センサを用いたジェスチャの認識	堂込 一秀	山之内 啓
21	HTTP基本認証におけるパスワード変更機能の提案～APACHEウェブサーバへの変更後パスワード認識機能の実装～	入江 智和	中山 理史
22	重み付けされた動的ホスト設定プロトコルの提案-クライアントエミュレータの実装とサーバ実装の充実化-	入江 智和	岩永 広樹 上之原 匠
23	CIDコードDBの検索ツールの作成	豊平 隆之	高松 大吾
24	GAを用いた時間割作成ソフトの開発	豊平 隆之	柏木 梨沙
25	Open Type FontからGrif画像の生成	豊平 隆之	野間 晃太郎
26	指尖容積脈波波形に関する基礎研究	濱川 恭央	竹本 圭吾 福貴島 美佳
27	波形解析のアプリケーション開発	濱川 恭央	長谷川 竜己

－卒業研究テーマ一覧表－

<土木工学科>

No	卒業研究テーマ名	指導教員	卒業研究生
1	平成18年鹿児島県北部豪雨災害の流出解析とハザードマップ	疋田 誠	上井 基彰
2			小林 優一
3	桜島野尻川における土石流の検知警報システムの構築		永野 拓也
4			丸野 宏暢
5	桜島降灰の影響に関する周辺住民へのヒアリング調査	平田登基男	川口 隆
6	九州風景街道と道路景観に関する調査		坂口 裕記
7			濱田 朋宏
8	海岸漂着ごみの分析と地域別特性		白澤 直記
9	道路橋RC床版の車両走行応答に及ぼす段差の影響	内谷 保	木場光太郎
10			柚木 公平
11	車両走行に伴う道路橋振動の卓越振動数に関する検討		葛迫 龍司
12	使用目的から見た橋の変遷に関する考察		中村 遼
13	豊浦砂の圧密排水三軸せん断特性	岡林 巧	有馬 隼平
14			門之園尚也
15	豊浦砂の圧密非排水三軸せん断特性		栗野 慎也
16			御領園祐太
17	活性汚泥法に担体を添加した有機物酸化と硝化に関する研究	西留 清	植山 幸雄
18			局 翔太
19			中原 広貴
20	ごみ熔融スラグの有効利用について	前野 祐二	川添 敦之
21	x線回折装置による基礎的解析		新小田杏菜
22	しらすセメントによるパドック舗装について		福永 隆之
23	廃石膏ボードの有効利用について		安長 拓郎
24	台形盛土によって地盤内に発生する応力の線形モデルによる定式化	堤 隆	岩下 寛
25	有限長の等分布荷重が作用した場合に発生する地盤変位の弾性解析		今吉 俊一
26			上三垣かおり
27	UASB-DHS法を用いたフェノール排水の処理に関する研究	山内 正仁	津曲 譲太
28	焼酎蒸留粕乾燥固形物を利用した高付加価値きのこの実用化		福元 雄大
29	使用済み菌床の有効利用に関する研究		藤嶋 昭久
30	バッフルドリアクターを用いた焼酎蒸留廃液の処理に関する研究		山下 拓也
31	商業地域内における歩道上および歩道に面した広告物が都市景観に与える影響に関する一考察～霧島市国分商業地域をケーススタディとして～	内田 一平	橋口 仁
32	昼間時間帯における子供の安全確保に関する研究		福山 知泰
33	広告物による自動車運転者の視覚増加が交通に与える影響に関する研究		森元 辰也
34	人口動態からみた地方都市の特性に関する研究～全国市町村データを用いた分析に対する一考察～		吉田 誠
35	シラスのアルカリシリカ反応抑制効果について	池田 正利	青野 哲郎
36			造免 祥太
37	桜島流下土砂コンクリートの海洋曝露に関する研究		猪八重秀亮
38			當房 亮平

－特別研究テーマ一覧表－

<機械・電子システム工学専攻>

No	特別研究テーマ名	指導教員	特別研究生
1	平行におかれた2円管から流出する脈動噴流	中島 正弘	宇宿 史彦
2	自律蛇型移動ロボットに関する研究	田畑 隆英	長船 優希
3	磁気遮蔽室の遮蔽性能設計のための評価	鎌田 清孝	児玉 慶太
4	小円管群を周囲に配置した円形噴流の拡散方向制御	中島 正弘	坂元 大悟
5	表計算ソフトによるDCモータのデジタルPID制御シミュレーション	室屋 光宏	四郎園啓希
6	粒状堆積物の崩壊過程に関する実験的研究	池田 英幸	関山 栄司
7	表計算ソフトを用いた汎用電磁界解析	坪井 克剛	徳川 康博
8	粒状堆積物の崩壊過程に関するシミュレーション	池田 英幸	中園 善紀
9	スリーブかしめ締結における最適化設計に関する研究（パンチ先端部が塑性流動に及ぼす影響）	植村眞一郎	濱田 祐樹
10	ロボットによる枝打ちシステムに関する研究	田畑 隆英	春田 勝哉
11	小型二足歩行ロボットの基礎研究	原田 治行	福崎 浩介
12	変形するノズルから流出する噴流	中島 正弘	松田 規孝
13	管内走行マイクロロボットのメカニズムに関する研究	引地 力男	松元 邦弘

<電気情報システム工学専攻>

No	特別研究テーマ名	指導教員	特別研究生
1	半導体微細加工技術を用いた医用マイクロ流路デバイスの試作	奥 高洋	東 真吾
2	各種フィラーを用いたエポキシナノコンポジットの耐部分放電性に関する研究	小迫 雅裕	伊東 沙紀
3	高次神経回路網における連想記憶のパラメータに関する研究	濱川 恭央	大浦 寛
4	予測符号化における予測係数の最適化に関する考察	加治佐清光	大迫 奏枝
5	局在性向上及び刺激電流分布制御のための生体磁気刺激装置の提案	玉利 陽三	小川 洋平
6	エポキシナノコンポジットの耐部分放電性検証のための電界解析に関する研究	小迫 雅裕	加治佐由姫
7	JPEG-LSロスレス・ニアロスレス 符号化(拡張版)の考察	加治佐清光	福田 祐貴
8	視覚の代行器に関する基礎研究	榎園 茂	松葉瀬朋之
9	昇圧チョップ付高電圧化インバータにおける昇圧用インダクタと平滑キャパシタの容量評価	本部 光幸	宮田 昭彦
10	USBカメラ画像による魚種名判別 の一手法	榎園 茂	横山 祐樹

<土木工学専攻>

No	特別研究テーマ名	指導教員	特別研究生
1	異方性円柱供試体圧裂試験時に生じる引張応力の解析	堤 隆	上堀内亮太
2	桜島降灰の分布特性と防災対策	平田登基男	川畑 裕一
3	海岸漂着ごみの実態調査とその分析	平田登基男	川畑 義人
4	桜島における土石流土砂の非排水三軸圧縮・伸張せん断特性	岡林 巧	現王園真二
5	都市ごみ焼却灰の有効利用	前野 祐二	瀬戸口大志
6	細骨材石粉を材料としたセラミックのコンクリート水への利用に関する基礎研究	西留 清	寺床 雄二
7	多機能性立体格子状回転円板法による排水処理	西留 清	野本 健太

卒業生の就職・進学一覧及び修了生の就学進学一覧

<機械工学科>

富士通（株）
富士重工（株）
三井造船（株）
河村電器産業（株）
エイム（株）
大和製罐（株）
（株）アルバック
京セラ（株）川内工場
（株）JAL整備東京（2名）
三菱自動車エンジニアリング（株）
（株）ダッド
シャープ（株）
（株）JAL整備成田
オリンパス（株）
TPEC（株）
（株）ニコン
キャノン（株）
鹿児島高専専攻科（6名）
宮崎大学（2名）
熊本大学（2名）
九州大学（2名）
九州工業大学（2名）

<電気工学科>

独立行政法人国立印刷局
（株）鹿児島銀行
関西電力（株）（2名）
ダイハツ工業（株）
ソニーセミコンダクタ九州（株）
西日本旅客鉄道（株）
鹿児島空港エンジニアリング（株）
NOK（株）
（株）ユピテル鹿児島
大分キャノン（株）
東海旅客鉄道（株）
中部電力（株）（3名）
九州旅客鉄道（株）
（株）日立ビルシステム
大阪ガス（株）
鹿児島高専専攻科（4名）
豊橋技術科学大学（3名）
長岡技術科学大学（3名）
埼玉大学
熊本大学（2名）
九州工業大学（4名）

<電子制御工学科>

トヨタ車体（株）
キャノン（株）（2名）
（株）安川電機
ダイハツ工業（株）（2名）
アイシン精機（株）（2名）
シャープ（株）
（株）JAL航空整備成田（3名）
関西電力（株）
京セラ（株）国分工場
京セラ（株）隼人工場
大阪シーリング印刷（株）
（株）日立メディコ
日立化成工業（株）
（株）森精機製作所
日立ビルシステム（株）
コマツ製作所（株）
（株）シーアールイー
（株）テクノ21グループ
陸上自衛隊
鹿児島高専専攻科（5名）
九州大学
豊橋技術科学大学（4名）
鹿児島大学（2名）
九州工業大学（4名）

<情報工学科>

（株）JAL航空整備東京（2名）
（株）富士通システムソリューションズ
（株）富士通九州システムエンジニアリング
（株）リンクウェア
CTCテクノロジー（株）（3名）
京セラ（株）国分隼人工場（4名）
（株）日立アドバンスデジタル
（株）NHKアイテック
東芝プロセスソフトウェア（株）
デンソーテクノ（株）
富士通（株）（2名）
NECネットエスアイ（株）
パナソニックITS（株）
オリンパスソフトウェアテクノロジー（株）
NECモバイリング（株）
防衛省
NECネットエスアイ・エンジニアリング（株）
（株）テクノカルチャー
（株）NTTデータフロンティア
西日本旅客鉄道（株）
鹿児島高専専攻科（2名）
豊橋技術科学大学
鹿児島大学
九州工業大学（4名）

＜土木工学科＞

日本貨物鉄道（株）
J F E シビル（株）
西日本旅客鉄道（株）（6名）
五洋建設（株）
電源開発（株）
三菱重工（株）長崎造船所
九州電力（株）
オリエンタル白石（株）
ライト工業（株）
横河ブリッジ（株）
南日本コンサルタンツ（株）
日本貨物鉄道（株）
三菱重工（株）神戸造船所
大阪ガス（株）
東海旅客鉄道（株）（2名）
ブリッジエンジニアリング（株）
（株）ガイアテック
東京電力（株）
インフラテック（株）
塩見ホールディングス（株）
鹿児島市役所
進学（鹿児島高専専攻科）
長岡技術科学大学
名古屋大学
鹿児島大学
熊本大学（2名）
宮崎大学

＜専攻科＞

機械・電子システム工学専攻

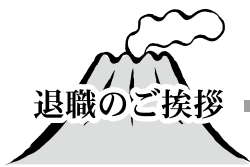
ソニーセミコンダクタ九州（株）
（株）森精機
富士通（株）
高砂熟学工業（株）
いすゞエンジニアリング（株）
シチズンセイミツ鹿児島（株）
トヨタ車体（株）
長岡技術科学大学
九州大学大学院（4名）
北陸先端科学技術大学大学院

電気情報システム工学専攻

（株）測上ミクロ
ダイセル化学工業（株）
（株）日立製鉄所
リコーソフトウェア（株）
トヨタ自動車九州（株）
日東電工（株）
京セラコミュニケーションシステム（株）
富士通（株）
パナソニックエレクトロニックデバイス（株）
竹田設計工業（株）

土木工学専攻

（株）大阪ガス
（株）三建設備工業（2名）
（株）ヤマサキ
（株）熊谷組
コーアツ工業（株）
福岡大学



退職のご挨拶

電子制御工学科 坪井 克剛

この3月で定年退職いたします。鹿児島高専にお世話になったのは4年間という比較的短い期間でしたが、数多くの貴重な体験をさせていただきました。

- ① 赴任後の最初の入学式は、一般企業の勤務経験しかなかった私にとって非常に新鮮な感動でした。高年者ばかりの職場になった目からみて、中学校を卒業したばかりの新入生の若々しさには、これからの教員生活への意欲を強く掻き立てられました。今でも学生諸君からの活力をもらい続けており、大いに若返って退職後の生活に入ることができ幸せです。
- ② 高専祭の櫓絵や応援合戦については、企業勤務時代にも高専出身社員からの話で聞いており、臆気ながら想像はできました。しかし、現実にあてはめて聞きしに勝る熱気に圧倒されました。今後もぜひ継承して行っていただきたい行事だと思います。
- ③ 教育面では、設計などの業務のために自分で使っていただけの狭い知識では不十分であることを痛感しました。向学心旺盛な学生に接するには、より広く緻密に構築した知識が必要になります。これに応えられるように努め、また同僚からのご指導もいただき、私自身も貴重な勉強をさせていただくことができました。退職というよりも、学び舎を卒業するような気持ちもします。
- ④ あまり歓迎できない体験でしたが、恐怖のマシンだった刈払い機が使えるようになりました。
- ⑤ 私生活では温泉の豊富な当地の利点を満喫させていただき、大いに健康増進ができました。

退職するに当たって心残りもあります。教員は、教育指導ばかりでなく研究（特に外部資金を獲得できる研究）も重要とは認識しておりましたが、教育に手一杯で、外部資金どころか十分な研究成果も残せないで終ることは残念です。単身赴任しておりましたので、退職後は自宅のある長崎に戻ります。今後は非常勤講師などとしての埋め合わせもままならず、より一層の無念さを感じます。

少子化時代を迎え、入学希望者が少ない学校は統合や規模の縮小を迫られるという厳しい状況のなかにあっても、鹿児島高専は、皆様方のご奮闘によりますます発展して、有為な人材を輩出し続けられることを願ってやみません。

定年退職にあたって

事務部長 倉狩不二男

「光陰矢の如し」とはよく言ったもので、早いもので定年を迎えました。改めて歳月の流れの速さには驚かされます。団塊世代の一人である。この世代はある意味、我が国の戦後復興期の申し子であり、日本の発展と共に歩んで来た。少なくともそんな世間を健気に生きてきた世代である。子供の頃、小さな片田舎で過ごしながらも、周囲の目は「戦後生まれ」として、何か新しいものの象徴のような雰囲気があったことを記憶している。そのためか自分の意識のなかでは、常に古い殻に閉じこめることを嫌い、新しいものを探していたように思う。例えば、三十八年前折しも学生運動はなやかな時期に東京水産大学に奉職後、鹿児島大学・鹿屋体育大学・有明高専・九州工業大学・琉球大学・千葉大学・鹿児島高専に勤務させていただいた。「月日は百代の過客にして、行きかふ年も又旅人也」との心境で、新たな出会いを追いながらの「大学人としての旅」も無事終着である。それぞれの勤務先で多くの方にご支援・ご指導をいただきながら今日にたどり着いたと感謝している。永い公務員生活を振り返ると、いろいろあったがなかでも、大きな転換期はやはり国立大学の法人化であった。いつの間にか国家公務員から労基法の対象となる法人職員に身分も変わり、高専も護送船団方式から、制度改革を機に、個々の高専がその地域性や特徴をどのように活かして生き残るか厳しいせめぎ合いを行なっている環境となった。我が鹿児島高専だけは校長のリーダーシップのもと競争に打ち勝って、最後まで生き残ってもらいたいと願っている。本校には3年間の勤務でしたが教職員を始め、後援会役員の皆様や保護者の皆様にご理解とご協力・ご支援をいただきながら、楽しく勤務できたことに対し、感謝の念で一杯です。

退職後は、15年余りの単身赴任生活でしたのでうまく家庭に入れるか多少不安もありますが、奥さん孝行に務めたいと思っています。

最後に鹿児島高専のますますの発展と職員各位のご多幸・ご健勝を祈念いたします。

お世話になりました。さようなら。

団塊の世代……卒業（定年）である

学生課 服部 寿夫

よく人から、何処で仕事をされているのですかと聞かれることがあり、「高専です」と答えると、10人が10人、先生ですか？何を教えているのですか…云々…「いいえ、事務員です。」（いちいち答えるのが面倒でした）外の人から見れば、学校で仕事をしている人は皆、先生なのでしょうね…

ところで、高専だよりの原稿依頼がありました。退職を迎えての執筆依頼です。自分ではまだまだ先のこととしか思っていないんですが、いよいよ現実的なこととなり、後何ヶ月と暦を数える今日この頃です。

さて、今思えば、よくも40年余り鹿児島高専で頑張ってきたと…

私の高専での仕事は、庶務課図書係をスタートに、会計課、学生課といろいろな仕事をさせていただきました。今振り返ると、学生課での仕事が一番楽しんでやれたと思っています。これも、上司、同僚、そして後輩に恵まれたためだと感謝しております。

昔を顧みますと、大変だったことばかりが甞ります。最初の図書係にいるころ、図書は貴重品として扱っていました。先生でも学生でも、本を乱暴に扱いでもしたら注意したことを覚えています。教務係での思い出は…試験問題の印刷です。今でこそ、コピー機があり何枚でもコピー出来ますが、昔はガリ用紙を輪転機印刷でした。何百枚も印刷すると、途中で原紙が破れたり、黒くなったりそれは大変な作業でした。でも、刷り終えた時の達成感は格別で、うれしくてたまりませんでした。また、成績表の計算は算盤を使い何十回となく計算し直しの連続でした。今は、パソコンに打ち込みさえすれば、自動的に計算されます。本当に時代の進化は素晴らしいと感心するやら羨ましいやらです。（でも現在の仕事は、膨大な量のデータ処理で大変だと思います）

忘れもしない失敗談もありました…ロボコンについてです。平成元年か昭和63年のことだったと記憶しておりますが、当時1枚のポスターが届きました。他の掲示物と同様に掲示板に貼り付けておきました。しばらくして当時の事務部長が出張先から電話で「鹿児島高専のロボコンはどうなっているのか？」と連絡をしてきました。それなら、校内の掲示板にポスターを貼っていますよ、と返事をしたところ…「何処の高専も学校を上げて取り組んでいるのに、どうして報告しないんだ！」と大変な剣幕で怒られたのです。以後、ロボコン様々で取り扱ったことはいくつでもありません…今では、高専ロボコンを知らない人は少なくなりました。

まだまだ色々思い出話はつきませんが、最後に鹿児島高専のますますのご発展と皆様方のご健勝を祈念して、

退職の挨拶とさせていただきます。

冬来たりならば春遠からじ

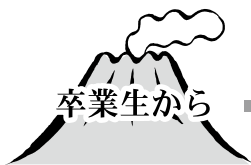
技術室 松元 悦郎

昭和41年4月、恩師から「明日履歴書を持って隼人の高専に行け」という連絡があった。翌日、隼人駅で車を降り、たんぼ道を高専に向かった。着くと直ぐ校長室に通され、初代校長の小原先生の面接を受けました。正式には4月11日採用と言うことで私の高専生活が始まりました。

当時、志学寮の食堂を教職員も利用出来ました。ある日、昼食を取ろうと電気工学科の南玄関を出たところ「ヒュウヒュウ」という口笛が聞こえてきました。キョロキョロすると、何と電気工学科棟の屋上から一回生の女子が私を冷やかしているではありませんか。彼女らの名誉のために名前はふせますがMさんとKさんでした。これはとんでもないところに来たと思うことでした。

創立期の学生さん達で思い出すのは、彼らの勉強に対する姿勢でした。現在、本校に奉職されているN先生のお父様と下宿が同じでした。何時寝るのだろうかと思うほどよく勉強していました。五回生のM君は特に印象に残っています。私の下宿で、毎週、土曜は徹夜、日曜日は寮の門限まで勉強をしていました。実験・実習等に向かう姿勢もしかり。実験器具はおろか実験室も整備されていなかった状態だったので、学生さんと寝食を共にし作業台等「もの作り」に励みました。二回生のD君も忘れられません。5年生の電気工学実験に高圧断路器の開閉実験がありましたが、諸般の事情で実験は夏休みにしていました。D君は活線状態でスイッチを切ってしまい断路器一式を破損させてしまい、当時の金で何十万円かの損害を与えてしまいました。又、電線を体に巻いて「人体実験だ・実験だ」と言って200Vをかけた猛者もいました。保護者が知ったら卒倒しそうなことを平気でしていました。以来40有余年、学生さんと教職員の皆様に助けられ高専生活を過ごしてきました。その間、色々な出来事がありました。特に印象に残っている事は、平成12年4月、文部科学省指導による技術職員の組織化です。現在3班制のよる全学科への諸支援、課外活動等、ワシントン椰子枝払い機の開発等を通じての地域貢献、特許取得等、従来の枠を越えた活動が出来る体制を整えました。後輩に引き継ぎますが、皆様に一層期待される技術室を目指してくれると思います。

最後になりましたが、皆様方のご健康とご多幸を、併せて鹿児島工業高等専門学校が益々発展しますよう祈念申し上げます。本当に有り難うございました。



鹿児島高専を卒業して…

宮崎大学 工学部 材料物理工学科

小川雄太郎

鹿児島高専を卒業して、1年経ちました。昨年の11月ごろに高専だよりの原稿依頼を卒業時の担任の先生から頂いたときは、本当に驚きました。卒業してまだ間もないのに“まさか自分に”と思いました。高専だよりは、卒業して何年か経った先輩方が書くものだと思っていたからです。私は卒業して大学に進んで頑張っているところです。

卒業してみると鹿児島高専での5年間は短く思いましたが、よく考えると長いと思えることもあります。高専での一番の印象は、高校生と違い、学生自身が自ら考えて学校行事や課外活動などを行なえるところです。特に、クラスマッチ、文化祭・体育祭の高専祭などいろいろな活動を学生全体で運営できる非常に良い環境の学校です。また、私は普通の寮生でしたが、積極的に寮生会、各班長が中心となっていて点呼、部屋替えなど寮のあらゆる面の運営を行っていたのが印象に残っています。

さて、年中行事だけではありません。学生の使命でもある勉強があります。低学年のうちから専門教科、実験・実習があり、高専は高い知識と技術力を低学年から学ぶことが出来る学校です。また、会社に就職できるし、さらに、専攻科あるいは大学進学でき、幅広い選択が出来る。進路選択は非常に難しいですが、自分が納得いく選択をしてください。私は、高専では電気工学科でしたが、大学では物理系の学科に所属していますが学ぶ基本は変わらないと思います。確かなのはじめて習う教科（分野）もあります。

私も勉強の途中ですが、在校生の方も是非頑張って勉強してください。また、今年度“偽装”がメディアで数多く取り上げられ問題となっている中で、特に技術者は『相手の立場で物事を考える』ことが大切だと思います。

最後になりますが、今後の鹿児島高専のますますのご発展と、先生、職員、在校生の方々のご健康とご多幸を祈念いたします。

社会人となって

森永製菓株式会社

藤崎

萌

こんにちは。急に執筆依頼を頂いたので、何を書こうかと悩みましたが、私が社会人になって感じたことを簡単に書こうと思います。

入社して初めに感じた事は、学生と社会人の違いです。社会人は当たり前ですが、夏休み、冬休みはありません。もちろん遅刻、さぼりというものもできません。しかし、もっとも違うのは一人一人の行動や意識の違いです。自分がその会社に入社してしまったら新入社員であろうがその会社の顔というものになります。自分が何気にとった行動一つが会社に大きく影響したりします。それに学生の時はテストで赤点さえとらなければいいという考えでしたが、社会人というものはただ頭がよければいいというものではありません。もちろん、頭の回転が速いということは大きな武器になりますが、上下関係をはじめとする人間関係を上手く築き上げていく能力は必要です。そして、自分が成長するチャンスをとらえてそれを生かしていく為に、毎日様々な事を考えていかなければなりません。

近況としては、製菓会社に入社した事もあり、今まで以上に食べ物に興味を持つようになりました。コンビニやスーパーなどに行くと言っていほど食品や菓子の売り場に行きます。そして、他社の新発売のお菓子など必ず食べたりチェックしたりします。そのために少し？太ってしまったりしますが…。でも、お菓子は大好きだし、目の前で自社製品が売れるととても嬉しくなります。時には怒られたりしてへこむ事もありますが、自分がお菓子を好きで選んだ道なので、毎日がとても充実しています。

最後に、後輩の皆さんも会社に入る時、会社を選ぶ時、給料がいいからとか休みがたくさんあるからとかではなく、自分が何をしたいのか？何が得意なのか？などで考えてほしいと思います。自分が目標を持って入社し、仕事を頑張ると、仕事後のビールは最高ですよ！！！！簡単ではありますが、これが社会人になった私からのメッセージです。

高専生活を振り返って

情報工学科17期生 佃 勇気

まずは、皆さん御卒業おめでとうございます。これから専攻科や大学、そして社会に出て行くわけですが高専卒業は大きな区切りになると思います。環境がガラリと変わり色々と不安があるかと思いますが、高専で5年間学んだことは決して無駄になりません。高専生活で体験したこと全てが皆さんの財産となるでしょう。特に、印象に残っているのが寮生活に高専祭。

大学寮や独身寮など寮は確かにありますが、高専寮のあの独特の雰囲気は間違いなく、他には無いものです。私も一年半弱、高専寮に住んでいました。当時は文句ばかり言っていました。夜になれば問答無用で電気は落ちるし、風呂は混む。飯も決して美味しいとは言えないし、TVもない。でも、常に友人が傍に居る。

高専祭も良い思い出です。私は、残念なことにバイクで事故を起こし怪我をしてしまった関係で、一番楽しいであろう4年の応援団には参加できなかったのですが、代わりに櫓組みと体育祭DVDの撮影をしました。当時は、まったく余裕がなくドタバタしていたのを覚えています。体育祭一週間ぐらい前に、友人が二人も『櫓が崩れる夢を見た』なんて不吉なことを言い、不安になったのをよく覚えています。冗談のような本当の話。

卒業してからは、なかなか皆と会うことは出来なくなりました。しかし、まったく変わってません。5月のゴールデンウィークは鹿児島・大阪・東京それぞれで飲み会やって、電話で話しました。8月に同窓会をして24人集まりました。殆どの人が徹夜で2次会。この原稿を書いているのが11月終わり頃なのですが、冬の同窓会は30人来る予定です。

思い出ばかり振り返っても面白くないので、最後に大学編入する人へアドバイス。

大学は、高専と違い良くも悪くも自由です。時間も高専時代からは考えられないぐらい余ります。遊ぶもバイトするも勉強するも自由。何か目標を持ってください。なんでも良いです。じゃないと腐ります。手抜きしようと思えば、いくらでも手抜きできます。ただ、結果は全て自分に返ってきます。これからの2年、楽しい2年になるか惰性で過ごす2年になるかは、本人次第です。

皆さんの行く道が楽しいものであることを祈っています。

卒業して思うこと

東日本旅客鉄道株式会社 松崎 麻美

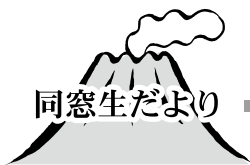
早いもので卒業してから半年以上が過ぎました。私は東日本旅客鉄道株式会社に入社し、現在東京支社の東京土木技術センターというところに配属されています。土木技術センターは日々の列車の安全運行と将来の列車の安全運行を保障できるように土木構造物を維持・管理するという役割を担っています。なかでも東京土木技術センターは、東京23区内の土木構造物を担当しており、首都圏輸送に大きく関与しています。私は主に鉄道工事の発注業務をしています。見積書とのにらめっこは肩が凝ります。

私は就職するまで、土木というのは道路を作ったり橋を架けたりとかなり大規模なものだと思っていました。しかし、私が今やっている仕事は既存する土木構造物をメンテナンスする保守土木と呼ばれるものです。小規模なものだと階段のがたつきを直す工事や、土留壁に描かれた落書きを消す工事など、大規模なものだと駅のホームと電車の離れをできるだけ小さくする工事や、高架橋の耐震補強工事などがあります。土木って幅が広いんだなぁと卒業してからしみじみ感じました。

卒業して思うことは、もっと勉強しておけばよかったと思うことです。こんなことを書くとき先生方が怒るかも知れませんが、学生の頃は勉強なんて社会に出たら意味がないと思っていました。しかし、仕事をする中でもっときちんと勉強しておけばよかったと思うことがよくあります。勉強したことは必ず役に立ちます。遊びも大事ですが、しっかり勉強して社会に出ることをおすすめします。

今は鹿児島を出て東京で生活しています。鹿児島を離れるのは不安で、嫌になったら飛行機ですぐ帰れると言い聞かせて上京しましたが、周りは優しい人ばかりで楽しく過ごしています。時々鹿児島が恋しくなりますが、東京も悪いところではないです。

社会人になってから、学生のときは楽しかったと懐かしく思うことがあります。学生の皆さん、悔いのない学生生活を送ってください。



高専で学んだこと

三菱重工業 長崎研究所
材料溶接研究室 田実 洋一

卒業してから早7年が経ち、社用にて久々に学校に戻ってきました。校門をくぐってまず目に留まったのは、専攻科専用校舎の存在です。それほど高い建物ではないのですが、私が知っている古臭いイメージとは程遠いきれいな建物がたっていました。また、校舎には、自動ドアや照明の自動点灯センサが設置されており、教室に入るとエアコン、プロジェクタ、スクリーン完備と、当時とは比べものにならないほど授業環境が整備されていたことに驚かされました。

私は、高専卒業後、三菱重工業長崎研究所に入社し、各種材料や製造技術に関する研究を行っております。会社に入る前は、機械科出身の自分が材料に関する仕事などできるのだろうか？と非常に不安を感じておりましたが、入社8年目となり、何とか仕事にも慣れてきました。今日私が、この仕事をさせて頂けるのも、高専生活を通して、次の2つのことを学ぶことができたからだと思います。

一つめは、計画を立てるということです。入学して初めての中間テストでは、直前まで何もせず、徹夜で勉強することでやったつもりになり、いざテストを受けてみると、散々な結果だった、ということがありました。以降、計画的に早めのテスト対策を行い、当日は、睡眠を十分とって挑むようにすることで、結果もそこそこ？ついてきました。仕事も同じで、仕事に追われてしまうと、色々な見落としが発生し、仕事が遅れることで、他人に迷惑を掛けてしまいます。

もう一つは、人間関係の重要性です。高専時代は、勉強だけでなく、部活や寮生活、応援団等を通して、多くの仲間を持つことができました。会社に入ってからでも、高専時代に近いので、先輩、後輩、同期達と楽しくさせてもらっています。色々なところに仲間がいれば、仕事で分からないことや困ったことがあっても相談しやすく、アフター5もきっと楽しいものとなるはずですよ。

学生みなさんは、高専生活を終え、いずれは就職されるかと思います。今しかできないことを経験し、失敗を重ねることでたくさんのことを学び、自分なりの教訓をもって頑張ってください。私も、高専の名に恥じないよう、頑張っていきます。

最後になりますが、今後の鹿児島高専のますますの発展と、在校生、先生、職員の方々のご健康とご多幸を祈念いたします。

話す力

電気電子工学科 第39期生 (H18年卒)
(九州電力(株)福岡支店 久留米営業所 系統保全グループ)
今吉 敏也

高専生のみなさん、こんにちは。私は一昨年、鹿児島高専を卒業し、九州電力へ入社しました。現在は配電という、当社の技術職の中では最もお客さまと接する機会の多い部門に所属しています。主な仕事の内容としては、不良と判断された電柱・電線または変圧器を取り替えたり、そのような不良な設備を見つけるための巡視をしたりしています。入社当時ははっきり言って“地味で単純な仕事”そんなイメージでしたが、現場は一つとして同じものはないため非常に経験値の要する仕事であり、特にお客さま対応に苦労しています。私は元々、口が達者な方ではなかったというのもあると思うのですが、会社に入って一番“話す力”という能力は必要不可欠であると感じています。先程も申し上げたとおり私の業務ではお客さまや関連会社の方と話す機会が多く、その中で最も厄介なのが苦情の電話でした。電気があって当たり前となってしまった現代、台風などの災害時であろうとも電気を停めてしまえば苦情の嵐となります。それ以外でも、「電柱が傾いている」「電線が垂れ下がっている」など様々な苦情の申し出がきます。そんな時に冷静さを失うことなく対応することができないと、苦情は返って膨大し、收拾がつかないという事態を招いてしまうこともあります。また、普段の会社生活においても会議のプレゼンテーションだったり、上司への報告・説明だったり、とにかく口を動かす機会が非常に多いです。

“話す力”というものは急に身に付くものではなく、やはり数多くの経験を積んで身に付いていくものです。みなさんは学生時代の今から少しでもそういった事を意識して学校生活を送ることで力は身に付き、将来必ず自分の武器となってくれると思います。特に4、5年生は卒研等のプレゼンテーションもあると思うのでチャンスだと思って積極的に取り組んでみてはいかがでしょうか。

—学生の皆さんへ—

電子制御工学科 3 期卒 浜崎 悟

学生の皆さん、こんにちは。毎日学業や部活動に一生懸命に励んでいらっしゃるでしょうか。

私は1998年に鹿児島高専を卒業し今年で社会人十年目となりました。このたび学生の皆さんに紙面を通じてお話する機会を頂きましたので、この十年で感じたことを僭越ではございますがお話したいとおもいます。

この時期（十二月中旬にこの原稿を書いています）になると、四年生や専攻科一年の方たちは、そろそろ進学か就職かを決めなければならない時期に来ているかと思っています。

ここで重要なことは、自分でしたい仕事（仕事に限らず研究やスポーツでもかまいません）があるかどうかということです。特にしたい仕事はまだ見つからない方は、できればそれを見つけるために進学することをお勧めします。

なぜこのようなことを言うかといいますと、仕事に対する姿勢が変わってくるからです。現実には自分の希望した仕事につける人はなかなかいませんが、天職につけた人というのはどんな状況でも実に生き生きとことに打ち込んでいます。またそういう仕事でないと長続きしません。自分でやりたい仕事がある方はぜひその職につく努力を惜しまず、頑張ってみてください。

また高専を出て職についたほとんどの方は技術者として見られるかとおもいます。今まで教えられていた立場から一転して、人に専門的なことを説明しなければならない場面が多々起きてきます。

そこで学生のうちにやっておいたほうがいいことは、日ごろからあらゆるジャンルの情報を集めることに心がけてください。

人に説明するためにはまず自分が深く理解する必要があります。そのためには、前もって多くの情報を持っていることが理解を深める上で重要となります。

また説明後、質問を受けた場合も多くの情報という引き出しを持っていたほうが回答をスムーズに行えるようになります。

そして人に専門的なことを説明するときは、単純な事柄に置き換えて説明できるように心がけてください。

これは会社という組織ではよくあるのですが上の人ほど時間がないため下からの報告に対し簡潔にまとめることを求めてくるので、それに対応するためです。

最後にこれは私が勝手に思っていることなのですが以下に述べさせていただきます。

技術者は一芸に秀でたものを持っている人を尊敬すべきだと常々思っています。そして私も技術者として人に負けない技術を身につけたいと思っています。学生の皆

様もぜひ人に負けないものを手に入れてください。

グローバルに活躍する技術者になるために

九州工業大学大学院 情報工学研究科
情報システム専攻 新原 竜馬

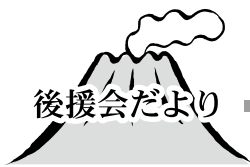
私は、現在九州工業大学大学院にて情報システムを専攻しております。近況報告として、私が履修しているコースであるICTアーキテクトコースでの経験とサークルについて簡単に紹介したいと思います。

ICTアーキテクトコースとはICT（情報通信技術）の先導的技術者として社会に出て即戦力として働けるよう養成するためのコースです。私は、このコースの事前研修として特にIT分野で脚光を浴びるインドの大学へ3週間滞在し、現地の学生と一緒に授業に参加し、IT分野のレベルの高さを肌で感じる事ができました。インドの学生はみな勤勉で、特に、45分で行われる短期集中型の授業と、学生と先生の勉強への姿勢は印象的でした。また、現地の友人とは現在もメールでやりとりをしています。

また、後期には産業界で起こっている問題に対し、プロジェクトメンバーとして企業のプロジェクトに参加するPBL(Project Based Learning)が行われております。私は、北九州インテリジェントエリア実験という、北九州市の商店街に現在の無線技術で無線メッシュ網を構築することと、その特徴を生かした位置情報を用いたアプリケーションを市民に提供することを目的としたプロジェクトに参加しています。現在は1月の実験に向けて事前の準備、実験におわれていますが、得ることは多大で、充実した毎日を送っています。

私は留学生の友人の協力を得て様々な国からの留学生と英会話サークル「JAPANGGLISH」を結成し、週に1回2時間程度の英会話を楽しんでいます。さまざまな文化、感性を持つ留学生とこの感受性が豊かな時期に接することができるのは非常に有益なことであると考え、積極的に活動しています。

このように、勉強、趣味ともに高専在学中と同様に充実した日々を送っております。在学生のみなさんも、充実した日々を送れるよう様々なところに目を向けグローバルに活躍できる技術者を目指してはどうでしょうか。



鹿児島高専と後援会

後援会長 川添 正剛

縁あって鹿児島高専に長男が入学してから5年が過ぎようとしております。その間、後援会の理事として1年、副会長2年、そして会長2年と鹿児島高専と後援会に係わってきました。理事としての1年間は何も判らずただ当時の竹山会長に引張られるだけで、自分には何ができるのかと思っておりました。

そんな中、後援会副会長や会長を仰せつかる事になり、色々な方のご協力があってようやくその責務を果たすことができそうです。

今年度は4月3日の後援会総会から始まり、理事会を5回、都城高専後援会との交流会、1年生と3年生の授業参観、校内清掃について学生会役員との話し合い、県内5箇所での支部会開催、保護者懇談会、高専祭前の校内の清掃活動(草刈り)、校長先生との意見交換会と行ってきました。

授業参観では、1年生、3年生は実施できましたが2年生が学校側の都合により実施できませんでした。親元を離れて集団で生活している子供達の様子を知る上で、2年生の授業参観も大切な事です。今年は実施していただけるよう努力いたしますので、多くの保護者の出席をお願いいたします。

高専祭に向けての校内の清掃活動(草刈り)は昨年度より行ってきました。今年は約70名の保護者の方の参加があり、遠くは内之浦地区からも参加していただきました事をお礼申し上げます。4時間の作業で日頃学校側も手の行き届かない自転車小屋の裏など、隅々まで綺麗になり感謝されていました。お陰様で素晴らしい高専祭を行うことができました。来年度も実施いたしますので多くの保護者の参加をお願いいたします。

支部会は、都合により奄美地区だけが実施ができませんでした。支部会開催を心待ちにされていた奄美地区の保護者の皆様に深くお詫びいたします。

他の5地区につきましては、中学校への学校説明会の日時に合わせた開催となり、時間的に都合のつかなかった方もいらっしたかと思いますが、主事の先生方が近くまでこられて、色々な質問に答えてもらえる良い機会ですので、来年度は今年以上に多くの方の参加をお願いいたします。

後援会活動は、常務理事、副会長、理事、学校関係者の理解と協力の基、運営しております。今年から副会長も4名となり、後援会会員であれば誰でも参加できます。鹿児島高専と後援会そして子供達のために何かしてみたいと思っておられる方は、遠慮なく後援会室にご連絡くださいませ。

会長として2年もの間、後援会の運営にご理解とご協

力いただきました後援会員や鹿児島高専の関係者の皆様に対しまして、心よりお礼申し上げます。

鹿児島高専と後援会がより良く発展する事を祈願しております。

鹿児島高専と後援会と「わたし」

後援会副会長 花田 義隆

正確に何時頃から鹿児島高専という学校にサッカーをとおして関わってきたかハッキリしませんが、昭和54年4月に県社会人連盟と県学生連盟が別組織となりそれぞれリーグ戦が始まり、一人の審判員として鹿児島高専の試合の審判をさせて貰っていましたが、全国高等専門学校サッカー選手権大会で7連覇した昭和59年の祝勝会(現在のそれと比べると非常に「ささやかな」)で、部長の山口先生と山崎監督と精松先生の先生方と小人数の父母の会の皆様の中に参加させて頂いたことを昨日のことのように記憶しております。

当時28歳独身の自分は一級審判員を目指して修行中の身でサッカー馬鹿の毎日、学生リーグの沢山の試合を通じて修行させて貰いましたが数年後の一級審判員チャレンジは不合格となり、気を取り直して県社会人連盟の仕事に没頭した時期、山崎理事長に叱咤激励されご指導を受けながら過ごしてきたサッカー協会役員の時期、いつしか時が過ぎて我が長男を連れて、山崎監督に鹿児島高専入学の報告と長男のサッカー部への入部希望をお願いした日、さらに自分の我が儘を通し県協会役員としての辞表を山崎先生に手渡した日、その2年後には次男も無事鹿児島高専入学を果たして、どっぴりと鹿児島高専サッカー部にはまった自分を、サッカー馬鹿の私が自分の息子たちに感謝している次第です。

後援会の仕事は精松先生が土木工学科の長男の担任をしてくださり、前述のような関係で後援会理事を引き受けたことがキッカケでありました。後援会の果たすべき役割が大変重要なものであることを分かったのも理事会に参加させて貰えたからで、後援会会員の皆様にも是非このことをご理解頂きご協力をお願いいたしながら、現在後援会の予算規模も相当なものであり「公平・公正」を大原則にできる限りのバックアップを図れるように努力していかなければならないと考えております。また学校側のご理解とご協力を得て、事業参観ツアーや後援会支部会(各地域で開催)も順調に後援会事業として定着しつつあり皆様方に感謝いたしているところでもあります。

後援会の事業として一番目に付くところが各種競技大

会やロボットコンテスト、プログラミングコンテスト等の対外行事活動費、TOEIC等の受験費用負担金で、スポーツの振興及び教育振興でありますし、また校内事業としての文化祭や体育祭に於いて後援会主催で学生課と協力して清掃作業も行っているところです。今年度は体育振興面でサッカー部が全国大会40回大会のうち、20回目の全国制覇を成し遂げたことが特筆されるべきでありましょう。学生諸君の頑張りはもちろんなのですが、指導手当等一切無い中で指導・監督に当たられた先生方の大変な情熱と、人には話せない苦労や心労を乗り越えてこられたであろう並々ならぬご尽力のたまもの故、成し遂げられたものと考えております。

真夏の大変暑い日差しの中で学生諸君と指導の先生方と父母の会の皆様と、感激・感動・感涙したあの瞬間はその場所に居合わせた者でないと分かりません。今回のこの20回優勝という記録は多分破られない金字塔でありますし、今後も次の新たな優勝に向かって限りない挑戦を続けてくれると信じております。

後援会は、学生諸君の様々な活動に対して最大限のバックアップをすることが最大の使命であると考えます。外枠のある限られた予算ではありますが、補助金の支出においては現状に即した見直しや更なる検討を加え、公平・公正・公明に貫き、今後とも努力して参りたいと考えておりますので、皆様方のご理解とご協力を宜しくお願いいたします。



支部会に参加して

後援会副会長 吉満くるみ

支部会開催につきましては、多くの保護者の方々に学校、寮生活等色々な状況を知って頂き、疑問、質問を直接ぶつけて頂けるような場を作るということで、6支部を立ち上げることが出来ました。本格的な支部会を開催して2年目になりました。

大隈地区支部は、後藤副会長の頑張りによって4回目の開催となり後任の支部世話役の方も決まり、定着しつつあります。鹿児島市地区支部は今年で2年目、他の支部は初めてでした。

学校側より三主事、各学科長、本校OBの方々に出席して頂きました。

先生方からは、学習面、生活面、寮生活面等の現状報告を頂き、そして学科毎の進級、進学、就職状況等を知ることが出来、我が子への参考になったのではないかと思います。

OBの方々からは、学校での勉強の大切さ、友達の大事さ、社会人としての自覚等経験談を聞かせていただき大変ためになりました。

保護者からは、寮生活のこと、進級、進学、就職状況の事など多数の疑問、質問が出ました。

私は、5支部会に参加させて頂きました。各支部により参加者数は異なりましたが、どの支部でも子供を思う親の気持ちは、同じなのでは？と思いました。

各支部会会場にて、早くこのような会を開催してほしかった、学校が遠いので近くで開催され良かったです、次回も楽しみにしています等の声を保護者の方に掛けて頂き、大変嬉しいでした。それに保護者の方々には、各会場でのお手伝いをもらい大変有難う御座いました。

この会が何時までも続き、学校との距離が少しでも縮めて行けたら良いと思います。これからも保護者の方々のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

飛躍する後援会

電気電子工学科 5 年 理事 吉川 幸子

平成15年に入学した息子と共に始まった私の理事も、もう卒業を迎えようとしています。長いようで短い5年間でした。

入学当日、担任だった金岡先生に「ぜひ理事をお願いします。」と声をかけていただいた時の事をつい先日の事のように思い出します。

数年前にパートとして高専にお世話になった事、そして理事を選出される先生方の苦労も多少は理解していたつもりでしたので、少しでも手助けになる事が出来ればと思い理事をさせていただくこととなりました。それまで高専で働いていた頃は保護者が学校に向く機会も少なく、先生方と思うようにコミュニケーションが取りづらく子供たちがどのような学校生活、寮生活を送っているのか分からなく心配だという声をよく耳にしていました。

そして初めての理事会に出席し、後援会役員の方々が一生涯懸命色んな事を検討・計画しておられるのにびっくりしました。

まず、保護者の目を学校に向かせよう！関心を持たせよう！学校に来てもらおう！という取り組みでした。

ちょうどその頃、ロボコンの全国大会出場、高専大会、鳥人間の初めての出場…など行事が多く後援会でも応援の呼びかけ、後援会独自の行事の企画など活動的に行っていたと思います。

きつかった先生、学生達との韓国岳登山・学生と一緒に行った花壇の花植え、今思えば楽しい思い出です。

またその一方で学校側も保護者の方々の学食の試食会、寮での一泊体験入寮、これから自立していく学生たちへの料理教室など様々な取り組みをしていただきました。

最近になれば更にパワフルな理事さんたちにより後援会活動も充実してきて、授業参観やクラス懇談会の開催、そして待望の各支部会の立ち上げができ保護者の方々、学校、先生方との意見交換の場として役立てていけるものと大変嬉しく思います。

進歩を続け、開かれた高専と共に歩んできた5年間、わたしも微力ながら成長する事が出来たと思っています。仕事もあり諸行事に参加出来ない事や至らない点多々あり後援会役員の皆様に迷惑をかけたこともあったと思います。

最後に鹿児島高専と後援会の今後ますます発展されます事とご健勝を祈願いたします。

本当にお世話になりました。

私が感じた鹿児島高専

電子制御工学科 5 年 理事 芝 真由美

小学生の頃、テレビのコマーシャルで家庭へ出向き、家電の修理をしていた電気屋さん。この店員さんに憧れ高専を目指した息子が、晴れて電子制御科へ入学し、早五年。来年度は既に専攻科への入学も決まり、着実に自分の道を歩み始めているようです。

あの頃、主人や私にとって高専は未知の世界でした。しかし、入学時に“自宅がすぐそば”という理由のみでクラス理事を引受させて頂いた事。息子が入学と同時に高専サッカー部に入部したこと。この二点で、私達は鹿児島高専の環境・校風・伝統の素晴らしさを多いに味あわせて頂く事となりました。

さて、理事の私は常に傍観者の様でありましたが、この五年間で後援会の学校における役割が、目覚ましく発展した事が分かります。県内全支援部会の発足、授業参観ツアーの実施、都城高専との交流、校内花植え等々、常任理事の岩元さんを中心に、歴代の会長、副会長、そして理事の皆さま方の積極的な対話や行動が成し遂げた結果ですね。本当に、皆様の底力には感動させられました。そして、これからがまた、鹿児島高専の新たな伝統になっていく事を大いに期待する今日この頃です。

さて、サッカー部に入った息子は、五年生最後のこの夏、全国大会V20を達成したその歓喜の中無事卒部させて頂く事ができました。思えば初めての夏の寮合宿、一年生部員達は皆、薄汚れた顔に、雑巾の様な練習着をまとい、それでも目をキラキラさせて、先輩たちの身の回りの世話をしていました。親としては「エッそこまでさんの？勉強は？！！」と、驚きの日々でしたが、これこそが高専サッカー部の伝統である事を知り、また子供達もそれを理解し、魅力を感じ、日々精進している事を知りました。この時代、しかも高専の部活動でこの様な熱い指導をされる先生がいらっしゃるのだと、良い意味でビックリ！！文武両道的な指導者がいらっしゃる事も、この高専のある部分バンカラな校風を、思わせる大元となっているのかもしれない。

とにかく、中学を卒業したばかりの子供達を、生徒ではなく学生と呼び、校則等で縛り付けるのではなく、ある程度開放感の中で一人の人格ある人間として、自主性や自立を促す高専の指導方法には、私たち夫婦も共感する事が沢山あります。時代はどんどん変化していますが、これからもこの校風、伝統を引き継いで頂き、この隼人の地で素晴らしい、人間らしい学生が沢山巣立つ事を願っております。

後援会理事を振り返って

情報工学科 5 年 理事 折田 守

高専に息子がお世話になり早 5 年が過ぎようとしています。背伸びして入学出来たお陰で進級判定のたびに親は胃の痛くなる日々を過ごしてきました。後は、無事卒業出来ることを祈るだけです。

後援会理事は、1 年から 5 年まで持ち上がりが普通ですが、私の場合は前任者の都合で 2 年より理事を担当する事になり現在に至ってます。只学校に近いだけの理由なのでしょうが、岩元常務理事の言葉巧みな電話攻撃で引き受けたのが、後援会理事の始まりでした。

今思えば一般の保護者より後援会理事を通じて学校の情報や後援会活動情報をより多く知ることが出来たことに感謝しています。

理事会位しか参加できない状態でしたが、今年は最後の学年でもある為、都城高専後援会との交流会や高専祭前の奉仕作業などに参加させてもらいました。やはり草刈作業が一番大変だったように思います。高専は広すぎると実感した一日でした。数十台の草刈機でも 3 時間で終わらないのにはびっくりでした。来年は、今年以上の保護者の参加協力をぜひお願いします。はるばる内之浦から駆け付けて下さった保護者もありました。参加いただいた保護者の方々に感謝するとともに来年の参加者増員に期待します。

また今年より全ての地区を対象に後援会支部会活動が始まりました。中々学校からの情報が入らなく不安をお持ちの保護者の方々もおられると思いますのでぜひ該当する支部会へ足を運び、学校や後援会活動の情報を聞きまた様々な意見交換をお願いします。

今後支部会が、新しい後援会活動として定着し発展していく事を祈念します。

最後に話が飛びますが、毎年体育祭で有る伝統の応援合戦には毎年感動しています。遠方でまだ見たことのない保護者の方がいれば、一度は見に来てください。損はしません。学生も大変苦労して練習を重ね本番に臨んでいます。今年も感動をありがとう。

対話は大切

土木工学科 4 年 理事 理事 別府 直子

理事を引き受けて 4 年も過ぎ、5 年目になろうとしています。

“何もわからない 1 年の理事なので” という言葉はとくに使えないのですが、いつまでたっても、わけがわからず周りになんとかついて活動している状態です。それでもこの 4 年間で後援会は、大きく変わっているなど感じます。都城高専との交流、授業参観や支部会の実施、など今までなかったことを創め、学校と後援会の対話も、段々されるようになったようです。「こういう試みは初めてです」と言う言葉を、幾度か聞いたように思います。ですが、なかなか進まない事案もあります。それが意外なことに『連絡網』です。後援会が保護者に連絡を取るときは郵便を使います。勿論郵送が必要なものもあるのですが、連絡網があれば後援会費をわざわざ使わなくて済みます。そして何より、保護者間の会話が生まれます。

毎日、仕事や家事に追われる中、まだまだ親と一緒に行動する事が多く、いろんなことを話してくれる下の子（小学 1 年生）に対し、息子は一緒に暮らしていても、家にいる時間も少なく、なかなかゆっくり話すことが出来なくなりました。学校の様子などはこちらが具体的に聞かない限り、本人から話すことはなくなってしまいました。

それぞれ家庭の事情が違い、感じることや考えも違うのは当たり前です。それでも同じなのは子供を思う親の心だと、後援会の活動を通じて改めて感じる事ができました。小学校は PTA や授業参観、学校の行事が頻繁にあるので、親同士の交流もあり、子育ての悩み相談や情報交換の場が少なくありません。中学、高校となるにつれて、そういうわけにはいきません。でも、必要ないわけではありません。将来を決める大切な時期でもあるので、いろんな事情をよく知っている先生に相談するのが一番です。が、気軽に話せるのはやはり同じ立場の親同士です。保護者懇談会で、ほとんど初対面のような状態でも、意外と話が弾むのは、やはり立場が同じで、抱えている悩みが同じだからだと思います。

後援会の活動は形だけのものではありません。子を思う親が集まって、毎日子供たちが通う学校の環境を、より良く整えるために活動しています。学校との対話はもちろん大切ですが、後援会と保護者の間も一方通行にならないように、連絡網作成は必要だと、改めて思っています。



No. 1

胸部X線検査

平成20年度行事予定表

No.2

平成20(2008)年8月										平成20(2008)年9月										平成20(2008)年10月										平成20(2008)年11月									
日	曜	行事		出席数	日	曜	行事		出席数	日	曜	行事		出席数	日	曜	行事		出席数	日	曜	行事		出席数	日	曜	行事		出席数	日	曜	行事		出席数					
		本科	専攻科				本科	専攻科				本科	専攻科				本科	専攻科				本科	専攻科				本科	専攻科				本科	専攻科		本科	専攻科	本科	専攻科	
1	金	後学期選択科目受講届締切	前学期末試験	15	82	1	月			1	土	短期授業/金休集会/後学期授業開始/新班長研修会/期選択科目受講届受付	1	89	1	土	高専祭(文化祭)		1	土	高専祭(文化祭)		1	土	高専祭(文化祭)		1	土	高専祭(文化祭)		1	土	高専祭(文化祭)						
2	土					2	火			2	木			1	90	2	日	高専祭(体育祭)		1	90	2	日	高専祭(体育祭)		1	90	2	日	高専祭(体育祭)		1	90	2	日	高専祭(体育祭)			
3	日					3	水			3	金	寮留学生パーティー		1	91	3	月	文化の日		1	91	3	月	文化の日		1	91	3	月	文化の日		1	91	3	月	文化の日			
4	月	前学期末試験/成績入力開始(13時)	特別研究		83	4	木			4	土					4	火	高専祭学生代休	休講			4	火	高専祭学生代休	休講			4	火	高専祭学生代休	休講			4	火	高専祭学生代休	休講		
5	火	前学期末試験/欠課時参入/欠席届(13時)	特別研究		84	5	金			5	日					5	水					5	水					5	水					5	水				
6	水	前学期末試験	特別研究		85	6	土			6	月	前学期科目再試験願受付		1	92	6	木					6	木					6	木					6	木				
7	木	前学期末試験	特別研究/答案返却・解説		86	7	日			7	火			1	93	7	金					7	金					7	金					7	金				
8	金	前学期末試験	特別研究/答案返却・解説		87	8	月			8	水	後学期選択科目受講届締切		2	94	8	土					8	土					8	土					8	土				
9	土	前学期末試験/LIR/清掃/答案返却・解説	特別研究		88	9	火			9	木			2	95	9	日					9	日					9	日					9	日				
10	日	閉寮(11時)				10	水			10	金	再試験結果入力締切(17時)		2	96	10	月	4年生工場見学旅行				10	月	4年生工場見学旅行				10	月	4年生工場見学旅行				10	月	4年生工場見学旅行			
11	月	追試験願締切/夏季休業開始				11	木			11	土	プロコン本選(福島)				11	火	4年生工場見学旅行				11	火	4年生工場見学旅行				11	火	4年生工場見学旅行				11	火	4年生工場見学旅行			
12	火					12	金			12	日	プロコン本選(福島)				12	水	4年生工場見学旅行				12	水	4年生工場見学旅行				12	水	4年生工場見学旅行				12	水	4年生工場見学旅行			
13	水					13	土			13	月	体育の日				13	木	4年生工場見学旅行				13	木	4年生工場見学旅行				13	木	4年生工場見学旅行				13	木	4年生工場見学旅行			
14	木					14	日			14	火			2	97	14	金	4年生工場見学旅行				14	金	4年生工場見学旅行				14	金	4年生工場見学旅行				14	金	4年生工場見学旅行			
15	金					15	月			15	水	選択科目受講締切届届切		3	98	15	土					15	土					15	土					15	土				
16	土					16	火			16	木			3	99	16	日					16	日					16	日					16	日				
17	日	全国高等学校体育大会(北海道)				17	水			17	金	校務進		3	100	17	月	後学期学力・社会人選抜試験/委員会/後学期学力・社会人選抜試験/格差委員				17	月	後学期学力・社会人選抜試験/委員会/後学期学力・社会人選抜試験/格差委員				17	月	後学期学力・社会人選抜試験/委員会/後学期学力・社会人選抜試験/格差委員				17	月	後学期学力・社会人選抜試験/委員会/後学期学力・社会人選抜試験/格差委員			
18	月	成績入力締切(17時)				18	木			18	土					18	火					18	火					18	火					18	火				
19	火					19	金	校務進		19	日	ロボコン九州沖縄地区大会(大分)				19	水					19	水					19	水					19	水				
20	水					20	土			20	月					20	木					20	木					20	木					20	木				
21	木					21	日			21	火					21	金	校務進				21	金	校務進				21	金	校務進				21	金	校務進			
22	金	全国高等学校体育大会(北海道)				22	月			22	水					22	土					22	土					22	土					22	土				
23	土	全国高等学校体育大会(北海道)				23	火			23	木					23	日	ロボコン全国大会(国技館)				23	日	ロボコン全国大会(国技館)				23	日	ロボコン全国大会(国技館)				23	日	ロボコン全国大会(国技館)			
24	日	全国高等学校体育大会(北海道)				24	水	課外補習(29日まで)		24	金					24	月	振替休日				24	月	振替休日				24	月	振替休日				24	月	振替休日			
25	月	全国高等学校体育大会(北海道)				25	木			25	土	保護者懇談会				25	火	後学期中間試験時間割発表				25	火	後学期中間試験時間割発表				25	火	後学期中間試験時間割発表				25	火	後学期中間試験時間割発表			
26	火	全国高等学校体育大会(北海道)				26	金			26	日					26	水					26	水					26	水					26	水				
27	水	全国高等学校体育大会(北海道)				27	土			27	月	後学期学力・社会人選抜試験/委員会(31日まで)/学位申請準備文書提出		3	106	27	木	月曜日の授業/欠課時参入力開始				27	木	月曜日の授業/欠課時参入力開始				27	木	月曜日の授業/欠課時参入力開始				27	木	月曜日の授業/欠課時参入力開始			
28	木					28	日			28	火					28	金					28	金					28	金					28	金				
29	金	成績会議				29	月			29	水	短縮授業/高専祭準備/校内一斉清掃				29	土					29	土					29	土					29	土				
30	土					30	火			30	木	開寮/部屋割発表(10時)/寮班長研修会				30	日					30	日					30	日					30	日				
31	日															31	金	高専祭準備リハーサル				31	金	高専祭準備リハーサル				31	金	高専祭準備リハーサル				31	金	高専祭準備リハーサル			
地区別学校紹介 後援会支部総会 2年生海外語学研修										中学校個別訪問 鹿児島保護者懇談会 九州沖縄地区高専冬季体育大会(北九州)																													

平成 20 年 度 行 事 予 定 表

No.3

平成 20 (2007) 年 1 2 月					平成 21 (2009) 年 1 月					平成 21 (2009) 年 2 月					平成 21 (2009) 年 3 月				
曜 日	本 科	専攻科	回 数	出 席	曜 日	本 科	専攻科	回 数	出 席	曜 日	本 科	専攻科	回 数	出 席	曜 日	本 科	専攻科	回 数	出 席
1 月			7	130	1 木		元日		1	1 日					1 日	1～4 年生開寮			
2 火	後学期中間試験	特別研究		131	2 金				2	2 月	再試験結果入力開始(13時)		13	102	2 月				
3 水	後学期中間試験/欠課時数	特別研究		132	3 土				3	火	特別研究論文提出締切(17時)		13	103	3 火	卒業研究発表			
4 木	後学期中間試験	特別研究		133	4 日				4	水	後学期末試験		15	104	4 水	5 年生開寮(11時) 成績入力締切(15時)	特別研究中間発表会		
5 金	後学期中間試験	特別研究		134	5 月		仕事始め		5	木			14	105	5 木		専攻科生開寮(11時)		
6 土					6 火	開寮(10時)			6	金			14	106	6 金		1 年生成績入力締切(17時)		
7 日					7 水		授業開始	11	145	7 土			11	146	7 土				
8 月			8	135	8 木			11	146	8 日					8 日				
9 火			8	136	9 金			11	147	9 月	後学期末試験時間割発表		14	107	9 月	卒業判定会議(13時30分)			
10 水			10	137	10 土				10	火	再試験結果入力締切(17時)		14	108	10 火	平成 21 年度前学期時間割編成			
11 木			9	138	11 日				11	水	建国記念の日				11 水				
12 金			9	139	12 月		成人の日		12	木	後学期末試験		15	109	12 木				
13 土	デザコン/高松			13	火	推薦入学願書受付(19日まで)		10	148	13 金	欠課時数入力開始	後学期末試験	15	170	13 金	重設判定会議(13時30分) 離任式	成績会議		
14 日	デザコン/高松	学位小論文試験			水	3 年生学習到達度試験/3 組卒業 (授業なし)/退学者のハーフ(教員講義)		12	149	14 土					14 土				
15 月			9	140	木	休講/差別クラスマッチ/ 校務進捗	特別研究	150	15	日					15 日				
16 火	寮生講話		9	141	金	学生会/リーダー研修		12	151	16 月					16 月				
17 水	休講/学生会主催行事・学 生総会/防火訓練	特別研究/防火訓練		142	土	学生会リーダー研修			17	火	後学期末試験/成績入力開 始(13時)	特別研究	15	172	17 火	卒業式	修了式		
18 木	成績入力締切(17時)		10	143	日					水	後学期末試験/欠課時数入 力(13時)	特別研究	173		18 水				
19 金	恒編授業/清瀬/HR/校務 進		10	144	月			10	152	19 木	後学期末試験/欠課時数入 力(13時)	特別研究	174		19 木	校務進			
20 土		閉寮(11時)			火			11	153	20 金	後学期末試験/特別研究単位認定申 請書提出/清瀬/校務進	特別研究発表会	175		20 金		春分の日		
21 日					水			13	154	21 土					21 土				
22 月	高専祭代休	休講			木			12	155	22 日	入学試験・検点				22 日				
23 火		天忌誕生日			金	月曜日の授業	月曜日の授業	11	156	23 月	後学期末試験/本年度前半期選教科 目受審者受付(17日まで)	特別研究/ 答案返却・解説	176		23 月	学年末休業開始			
24 水		冬季休業開始			土	寮送別マッチ			24	火	入学判定会議	特別研究/答案返却・解説/ 2 年生成績入力締切(17時)	177		24 火				
25 木					日	推薦入学試験			25	水	後学期末試験	特別研究	178		25 水				
26 金		仕事納め			月			12	157	26 木	追試験願書提出/答案返却・解 説/学力合格者内定通知	特別研究	179		26 木				
27 土					火	推薦入学判定会議		12	158	27 金	答案返却・解説/次年度前 半期選教科目受審者締切	修了判定会議(15時30分) 特別研究	180		27 金				
28 日					水			14	159	28 土	答案返却・解説/卒業式/ 清瀬/HR/寮退席	特別研究	181		28 土				
29 月					木	推薦入学合格発表		13	160						29 日				
30 火					金			13	161						30 月				
31 水					土										31 火				
学生会創立演説会・選挙					全国高専冬季体育大会(神戸市立高専)					内定者登校日(合格発表)					平成 21 年度特別研究テーマ提出締切				
TOEIC IP (4年生)					TOEIC Bridge (1～3年生)														

回数欄 出席すべき日数 1 8 1 日(授業日) 1 5 0 日, ■試験日 2 0 日, ■学校行事 1 1 日 ■休み 1 8 4 日

編 集 後 記

「鹿児島高専だより第58号」をお届けいたします。

表紙にある「鹿児島高専前景 昭和39年7月当時」の写真は本校が開校して2年目の写真です。この土地は約3万坪の大根畑があった場所で、初年度は仮校舎として隼人工業高校を、仮寄宿舍として隼人町役場日向山支所跡を借用しました。写真の校舎が竣工したのは昭和39年3月25日のことです。それから月日が流れ、本校は今年度で44周年を迎えました。この間に5991名が本校を卒業しています。鹿児島高専十年史には「卒業生総数644名。（中略）就職状況は極めて順調で、しかも産業界からも高く評価されていることは誠に喜ばしいが、実社会に出て僅かに五年で、その将来を図ることは誠にむずかしい。」とあります。しかし現在では、本校に教員として戻られた卒業生を含め、各分野にて活躍している卒業生が数多く存在します。そこで、在校生の勉学意欲を向上させるべく、その活躍している卒業生を紹介する特集を企画しました。特集記事以外にも多くの寄稿を頂き、今号はとても価値ある一冊になったと思います。一読された後も、末永く保存して頂きたいと思います。

最後に、お忙しい中快く執筆をお引き受けいただいた関係者の皆様に、心からお礼を申し上げます。

「高専だより」専門委員会 委員長 福添 孝明

「鹿児島高専だより」第58号

編 集 鹿児島工業高等専門学校 広報委員会

発 行 鹿児島工業高等専門学校

〒899-5193

鹿児島県霧島市隼人町真孝1460-1